

14.5-563



\*1200600798447\*

201

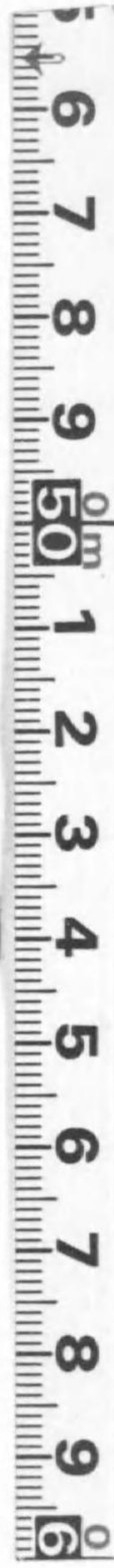
翻譯文  
ソ聯極東及外蒙調查資料  
第四十編

# 西部シベリア地方要覽

滿鐵產業部



12.3.17



# 始



表A  
201

翻譯文 ソ聯極東及外蒙調査資料 第四十編

西部シベリア地方要覽

滿鐵產業部



I 種  
W



### 露文 ソ聯極東及外蒙調査資料發刊の辭

ソ聯極東地方及外蒙の地は日滿兩國の隣接地として、之れが真相を究明するの必要なのは言を俟たない。嘗て當會の前身たる調査課が十餘年の日子を費し、露西亞諸官廳の各方面に對する調査研究の結果たる權威ある文献を網羅し、之を翻譯して露亞經濟調査叢書全九十卷、約三萬頁の浩瀚なる資料を江湖に發表した所以も茲にある。

同叢書は其後益々我國の關心を要するに至つたソ聯極東、西比利亞、滿蒙に關して精密な知識を與ふる唯一の資料として、現に尙ほ我國各方面に多大の便宜を提供しつゝあるは周知の事實である。而も世界各地の狀勢は日に月に變化して底止する所を知らず、前著露亞經濟調査叢書の提供する知識が如何に詳細且豊富なるものにせよ、發刊以來十餘年其自然地理的部分を除き現狀と多大の懸隔を見るに至つたこと亦た已むを得ないところである。抑々露亞經濟調査叢書の原本となつた資料は主として露西亞革命前、即ち帝政露西亞時代に刊行せられたものであつたから、其純然たる自然地理的部分に於てこそ今日に於ても變化する所はないが、其文化的方面、政治經濟に關する分野に於ては根本的な改革變遷を見、最早舊日の佛を留めない状態に在る。又自然資源の方面に於てすら近年ソ聯政府の積極的な探査事業の成果として幾多の新發見があり、從來未調査の爲めに無きものと推定せられたものにして今日全然認識を改むるを要するに至つたもの一にして足らぬ。

何れの意味に於てもソ聯極東、西比利亞、蒙古は新たに見直さねばならぬこととなつた。此必要に應ずるため當

會は曩に「ソ聯極東及び西比利亞總攬」發刊の計畫を立て自然、社會各方面に亙る資料を周到に網羅し且検討を加へて之が整備に努めつゝあるのであるが、時局は益々此地方の實情を一日も速かに一般に知らしめることを要求してやまぬので飽迄巧運主義に膠着するを容されない。乃ち時勢の要求に順應し、ソ聯極東、蒙古、新疆各方面に亙る最新の資料の略摘つたことを機會とし之を翻譯し單純な素材の儘急速之を刊行することとした。本資料が江湖の急需に應じ國家國民の進運に貢獻せむことを庶幾ふ。

昭和九年八月

滿鐵經濟調査會委員長

河 本 大 作

## 例 言

一、本書は一九三二年ノウシビルスク市に於て西部シベリア地方國民經濟記録局より發行された「西部シベリア地方」：“Западно-Сибирский Край” 中、同地方の國民經濟、文化的建設、自然地理等に關する「第一部概観」のみを取り敢へず全譯し、一卷に纏めたものである。

尙右原書には第二部に於て西部シベリア地方の詳細なる區誌及び第三部に於て國民經濟各般に亙る廣汎、精密なる統計表も掲げられてゐるが、之れが紹介は後日に譲るゝことにした。

一、西部シベリア地方が、單に農産物の豊富な所謂シベリアの穀倉としてのみでなく、又その尠大なる自然の包蔵する幾多天恵の資源によつても夙に世人の注意を惹いてゐた事は言ふまでもない。さればソ聯當局は同地方農業の社會主義的再建及び文化建設を圖るゝ共に、之れと關聯して更に此等天然資源開發の急務をも痛感し、所謂五ヶ年計畫によつて着々之れが實現に邁進しつゝある。

本書は、這般の實狀を概観し併せて從來餘り紹介さるゝ所無かつた同地方自然地理概況を窺知する上に有益なる參考資料たり得るであらう。

一、本書は社外に翻譯を委嘱し、譯文の閱讀並に要旨記述には當班員佐藤秀徳之れに當つた。

昭和十一年十一月

## 産業部資料室北方班

## 要旨

## 一、一九二八年より一九三一年に至る西部シベリア地方の國民經濟

廣袤實に一、三〇四平方千米に垂んじする西部シベリア地方の包蔵する各種の資源開發を使命とする五ヶ年計畫の内容に既に過ぎ去つた計畫諸年度の成果を要約すれば、大體次の如くである

先づ規格工業（政府の定期検査を受ける工業）全體の生産量に就いて見れば、第一次五ヶ年計畫の既に経過せる三ヶ年間の実績は、同計畫實施に先行する一九二八年のそれに比較して、一九二九年——一二三・六%、一九三〇年——一七五・二%、一九三一年——二五三・三%と、それ／＼伸長を示し、歐露の指數を凌駕してゐる。次に工業内の主要部門に就いて見れば、西部シベリアは更に顯著なる役割を占めてゐる。即ち一九三一年度に於けるその生産指數の躍進状態は、發電量——四五倍以上、採炭量——約二倍、セメント製産高——一・三倍、煉瓦製造高——殆んど九倍、各種挽材——四・五倍を示した。

更に農業に就て見れば、その最も重要な項目をなす播種面積は、一九二九年には一二・五%、一九三〇年には前年度に本地方の南西部及び東部地帯を見舞つた大旱魃のため、その指數は八七%に減少したが、翌三一年には再び一〇九%に増大した。

又ソ聯に於ける國營農場の播種面積中に占むる西部シベリア地方の比率は、一九二八年——二・二%であつたものが、一九二九年——二・五%、一九三〇年——五・八%、一九三一年——八%と、それ／＼増加を示し、又當地方國營農場のソ聯國營農場全體の穀物收穫高に於て占むるの割合も、一九二八年——七・八%であつたものが、翌三〇年には九・八%に増大した。之につれて、集團農場の播種面積も一九二八年には一三六・一千ヘクタールであつたものが、一九二九年——四九一・六千ヘクタール、一九三〇年——一、七七九・三千ヘクタール、一九三一年には四、八一五・九千ヘクタールと著増してゐる。

重工業の最も重要な諸企業及びその他の主要なる建設にして、既に一九二九年にその建設が開始せられ、又はその建設に着手されたものとしては、次の如きものを挙げるこゝ出来る。

- (一) 大規模冶金工場 一九二九年六月に起工された本工場はノウウ・クズネットクに所在し、一般に「クズネットク・ストロイ」と呼ばれる。一九三二年第一・四半期には、本工場の一部分は操業を開始したが、その建設完了は一九三三年末に豫定されてゐる。本工場の總建設費(炭炭化學綜合工場を除く)は四億六千百萬留である。計畫に依る年生産能力は、鉄鐵——百二十萬噸、鋼——百四十五萬噸、鋼材——百三十一萬噸である。
- (二) ベーロフスキイ亞鉛工場 亞鉛年産二萬噸を目標として建設せられた本工場は、一九三二年には完工する筈で、これに要する總建設費は二千三百七十萬留と算定されてゐる。
- (三) アンジ・ロ・ストヂニカ第十五號炭坑及び第十五B號 一九三二年には一部分の採炭を開始する筈である。

本炭坑の建設費は一千三百萬留と豫定され、年採炭額——二百二十萬噸を目標とする。

(四) プロコピエフスク第五、第六號炭坑 本炭坑は既に一九三一年に採炭を開始した。本炭坑の年採炭額は百六十萬噸と計畫され、建設費は七百六十萬留である。

(五) クズネットク——ムンドイバン間鐵道 本鐵道の一部分は既に一九二六年に着工されたが、大部分は一九三一年の建設に係る。一九三二年三月には、カンダレブ驛まで開通を見、残部は同年内に開通した。本路線はクズネットク冶金工場を、チンメルタウ地方に散在する鐵礦山と連絡する使命を帯びてゐる。本鐵道の總建設費は二千九百萬留、總延長九一軒である。

(六) トムスク——クセニエフ間の鐵道 一九三三年度内に完成する筈で、總延長九五軒、その建設費總額は一千五十一萬二千留である。

(七) アレイスク製糖工場 一九二九年度に建設に着手したもので、日用必需品の生産に従事する重要企業中では、本工場を指摘せねばならない。本工場建設費は一千百萬留で、一九三一年には操業開始し、その年産能力は砂糖十六萬二千噸である。尢大なシベリア地方に於ける唯一の製糖工場としても、又西部シベリア地方に甜菜栽培の基礎を築いた意味に於ても、本工場の有する意義は大なるものである。

又一九三〇年度に於ては、次の如き諸建設事業が開始せられた。

(一) ノウ、シビリスク農具製作工場(シブコンバイン) コンバイン——一五、〇〇〇臺、乾草刈取機——三

〇、〇〇〇臺、播種機——三六、〇〇〇臺の製作を目的とし、總建設費一億百萬留。本工場の一部分は、既に一九三一年に操業を開始したが、その完成期は一九三三年に豫定されてゐる。

(二) ケメロウ、綜合工場 本工場は一九三三年に完成する豫定で、その總建設費は四千九百三十八萬留、その年生産能力は、亜鉛——十萬噸、鉛——一萬八千噸、硫酸——二十萬噸である。

(三) ノウ、クズネツク、炭化化學綜合工場 炭百二十萬噸の年産能力を擁する本工場も、一九三二年度には完成する筈で、その總工費三千八百八十萬留である。

(四) ケメロフスク、炭炭綜合工場 炭炭バッテリー (Coal-battery) 三臺は一九三〇年より操業を開始し、同年度内に炭炭——二十九萬九千噸、各種化學製品——二百八十萬八千留、一九三一年には炭炭——三十萬四千八百噸化學製品——二百五十一萬六千七百留を生産する豫定である。一九三二年には、更に炭炭年産五十五萬六千噸の新工場が建設される豫定で、之に要する總工費は三千七百八十萬留である。

鐵道建設方面では、次の新線建設が豫定されてゐる。

ノウ、シビリスク——レーニンスク間の鐵道 延長二九五杆に及ぶ本鐵道は、既に一九三二年二月に貨物輸送を開始した。本路線は最短距離を以つてクズネツク炭田とノウ、シビリスクを連絡し、クズネツク産の石炭を鐵道幹線及びオビ河へ輸送する役割を演ずる。本鐵道の完成は一九三二年で、總工費九千四百十二萬留、その内六百三十萬留はオビ河第二鐵橋の建設費である。

## 二、第二次五ヶ年計畫に於ける西部シベリア地方の經濟的建設

第二次五ヶ年計畫の豫備的資料に據れば、西部シベリア地方は、同計畫年度内に次の如き發電所を有する筈である。即ち、ケメロウ、火力發電所 (出力六二二千KW) 及びクズネツク (出力七五八千KW)、ノウ、シビリスク (出力三八五千KW)、オムスク (出力三二〇千KW)、バルナウル (出力二三四千KW)、ハカシヤ (出力一三四千KW) の各水力發電所である。尙ほ之れ以外にも、アチンクス發電所 (アチンクス腐泥炭を加工した際に生ずる殘廢物を使用)、クセニエーフカ (木材屑)、カルガソク (泥炭) 等の如き、特殊燃料を使用する群少發電所の建設も目論まれてゐる。

採炭關係に於ては、ウラル中部及びウラル北東部の冶金業に對しコークスを供給すべき役割を持つクズネツク炭田は第二次五ヶ年計畫の終期 (一九三七年) には年出炭量六千萬噸を目標とし、且つ同年までには、本炭田に於ける採炭・搬出及び貨車積等の如き、基本的作業は完全に機械化される筈である。

鐵鋼冶金業は鐵礦と石炭と安價なる動力を有するクズネツク地方及びハカシヤ地方に發達すべく約束されてゐる。しかし、クズネツクの鐵礦資源は、その開發に多少の困難を伴ふので、一部分マグネシウムより原石の供給を受ける豫定である。

鐵鋼冶金業と共に有色金屬及び輕金屬冶金業の發達も計畫され、特に最近發見されたハカシヤ州の諸鐵床は八五



萬噸の埋藏量を有し、生産能力五萬噸の精煉・電解綜合工場を向ふ五ヶ年間に亘つて保證するに足る。一九三一年に操業開始したペーロウ・亜鉛工場は、近き數年間に、その生産能力を二萬噸にまで擴大するであらう。又一九三二年には初めて國産アルミニウムが生産される筈で、ビイスクミハカシヤが工場建設豫定地になつてゐる。最近異常なる發達を見せつつある自動車・航空機製造に必要なマグネシウム合金の原料たるマグネシウムは、クルディンスカヤ・ステップ地帯の湖沼の含有する鹽化物より多量に採取される。

次に化學工業部門に視野を轉ずれば、當地方經濟は一九三七年には、三〇萬噸の硫酸、五〇萬噸の無水炭酸曹達一〇萬噸の苛性曹達、四三萬噸の合成アムモニア、四千噸のメチルアルコールを必要とする。此等の化學工業生産物中、硫酸はハカシヤ銅精煉工場に於いてのみでなく、ケメローウ・亜鉛・鉛綜合工場及びペーロウ・亜鉛工場に於て生ずる亞硫酸ガスを處理するのみにても優に二四萬噸の硫酸が得られる。一九三七年には二二萬噸の無水炭酸曹達三九五千噸の苛性曹達及び殘廢物として二八萬噸の硫酸生産が計畫されてゐる。

ミスシンクス炭及びバルザスの腐泥炭を原料とする石炭液化及び半コークス化學事業は、西部シベリア地方に石油資源を缺除せることに鑑み、一層重要性を帯びて來る。一九三七年に於ける西部シベリア地方の液體燃料及び潤滑油の需要量は最低二百萬噸に推定せられ、そのうち揮發油及び石油は一七〇萬噸以上に上る筈である。

しかしながら、この種原料炭の今日までに發見せられたる埋藏量を以つてしては、到底右の需要を充すことは不可能である。

西部シベリア地方の森林地帯であるオビ・ナルイムスク地方、イルト・イシ河流域、チュルイムスク及びアルタイ地方に於ては製材・製紙及び木材加工業の發達を見るべく、特に製紙原料たる蝦夷松及榎松の巨大なる畜積を有する。こゝは、西部シベリアをしてソ聯製紙業に於て顯著なる地位を占めしめるに至るであらう。

第二次五ヶ年計畫の豫備資料に依るに、一九三七年に當地方より移出せらるべき小麥は四千五百萬ツェントネルであるが、斯る巨額の小麥を粒穀のまま移出することは、逐年著るしき進展を遂げつゝある畜産業にまつて明かに非合目的であり、宜しく當地方に於て製粉されねばならない。それがためには、第二次五ヶ年計畫年度内に、製粉能力二千萬乃至二千二百萬噸に達する、合計二五乃至三〇の大製粉綜合工場建設が必要である。斯くする時には、當地方外へ移出せらるる粒穀の三五乃至四〇%は製粉され、同時に、畜産飼料として約五〇萬噸の麩が得られ、それだけ運輸に對する荷重を軽減する。

次に交通網整備に關する計畫内容を見やう。鐵道新路線は、次の地方に建設さるべく豫定されてゐる。即ち、(イ)クズネット炭田の動脈をなす線、(ロ)新興の南部工業地帯の動脈をなす線及び本線をクズネットに連絡する線、(ハ)増大する農産物を搬出し、且つ農産地方に農具、燃料及び肥料を供給する農業路線、(ニ)林産資源開發を目的とする森林鐵道等で、更に(イ)クズネット炭田の出口たるポリイサーエウツ―クズネット間、(ロ)ポリイサーエウツ―トプキ間、(ハ)ケメローウツ―トプキ間、(ニ)ペーロウツ―グリエスク間、(ホ)ウツビイリスク―オムスク間、(ヘ)オムスク―イシリ・クリ間等の電化が目論まれてゐる。

右計畫路線中、工・農業地帯に限り特に重要性を有するは、トルドアルメイスカヤ・バルナウル線及びクルンダバルナウル線で、農業地帯にまつて最も重要なものは、モスカレンキ・スターリンスク線である。

又同じく前記計畫路線中絶對的にその敷設を必要とするものは、林産物搬出用のタタールスカヤ・カルガソ線及びミヌシンスク・クラギノ線であつて、特に前者は、一五〇萬應に達する林産品をば、木材を欠くカザクスタン北部及び南西シベリア地方に供給する。

又オイロチヤ州の工業進展に對し決定的意義を有するものは、ビイスク・ウララ・コシガチを結ぶ線である。

鐵道新路線敷設に並行して、(イ)クズネツク炭田地方、(ロ)ノウシビイリスク工業地帯、(ハ)オイロチヤ州及びビイスク工業地帯、(ニ)ハカシヤ州及びミヌシンスク地帯、(ホ)オムスク・バラビンスク地帯、(ヘ)バルナウル地方、(ハ)北方企業地帯等に於ける自動車運輸の發達も計畫されてゐる。

西部シベリア地方の水運も大なる意義を有する。概算に據れば、水運による輸送が總荷動き中に占むる比重は、一九三七年末には少くとも二〇%に達し、貨物輸送に従事する河川船舶隊の充實を計るために、ノウシビイリスクには造船所が建設され(一九三二年)、現有發動機船隊の總馬力一四、五〇〇馬力は一二五、〇〇〇馬力に達する筈である。

空運の發達も亦當然目論まれ、それにつれて新航空路として開設を計畫されてゐるのは、ノウシビイリスク・スルグート・サマールウ線、ノウシビイリスク・ウララ・ウランバートル線、ノウシビイリスク・ミヌシンスク・クラ

ースヌイ線等である。

### 三、社會主義的農業の合理的配置

農業の社會主義的・技術的再建を基礎とし、西部シベリア地方の農業は、播種面積の擴大、收穫高の増大、工業原料用農作物の播種面積擴大及び國營・集團農場の強化並に早魘防止等の方面に於て一大飛躍を示すであらう。第二次五ヶ年計畫終期(一九三七年)に於て、全ソ聯の播種面積が、假に一億六千五百萬乃至一億七千萬ヘクタールに増大するにすれば、西部シベリア地方のそれは千四百萬乃至千四百二十萬ヘクタールに増大し、而も小麥は依然として當地方の基本的農作物の地歩を占めるであらう。又畜産業の進歩に伴ふ飼料作物及び工業作物たる亞麻、日向葵等の播種面積も増加の一途をたざる筈である。

又西部シベリア地方は、所謂社會主義的農業の合理的配置の觀點よりすれば、次の一分業地帯に分割される。即ち、

(イ) 西部粒穀地帯 本地帯は現行行政區劃による五三區を包含し、その面積は千六百萬ヘクタールに及び、可耕地面積千四百三十萬ヘクタールで、うち耕地九百五十萬ヘクタール、草刈用地百二十萬ヘクタール、牧場用地百八十萬ヘクタールである。本地帯は専ら春蒔小麥の高級品を産し、北部カザクスタンの一部と共に、全ソ聯的意義を有する小麥生産地である。小麥栽培に相並んで當地方の草刈用地放牧地並に製粉業よりする殘廢物を十二分に利

用するこゝになり、畜産業發達の餘地も有り、且つ搾乳畜産業はオビ河氾濫原に、養豚及び養禽は主として東部に食肉用牧羊及び牧羊は西部に於いて發達するこゝであらう。

(ロ) 東部粒穀地帯 舊アチンスク、トムスク、ミスシンスク諸管區に屬する十一行政區より成り、總面積三萬ヘクタール以上、うち約百五十萬ヘクタールは耕地である。西部粒穀地帯と同様に、小麥を主要農産物とするが燕麥の生産も著大である。

(ハ) 搾乳地帯 本地帯内に包含される地區は、舊オムスク、バラビーンスク、ノウシビイリスク管區に屬する現行二七行政區で、全バラビーンスク・ステップを包含し、その面積は約千二百萬ヘクタール、可耕地三百五十萬ヘクタールで、うち耕地三百五十萬ヘクタール、草刈用地百五十萬ヘクタール、放牧地百二十萬ヘクタールである。本地帯に於ける農業は全部、家畜飼料供給を主眼として組織される筈である。

(ニ) 北西亞麻栽培兼搾乳地帯、北東亞麻栽培地帯、中部亞麻栽培地帯 此等三地帯は合計五百六十萬ヘクタールの地域を占め、現行三二行政區を包含する。本地域に於ける播種面積の二五%は亞麻によつて占められ、殘餘は飼料用栽培物、主として多年生草木栽培用地として利用される。

(ホ) 甜菜製糖地帯 本地帯は面積六百四十萬ヘクタールに及び、アルタイ山脈の麓に接し、可耕地面積五百六十萬ヘクタールである。第一次五ヶ年計畫終期に於ける甜菜播種面積は總計僅かに七千乃至八千ヘクタールに過ぎないが、第二次五ヶ年計畫最終期(一九三七年)には十六萬乃至十七萬ヘクタールに増大する筈である。製糖工場

建設につれて、専門化されたる甜菜栽培國營・集團農場も組織される。

(ヘ) 都市近郊野菜搾乳地帯 都市郊外の總面積は三百五十萬ヘクタールであつて、そのうち可耕地は三百十萬ヘクタールである。本地帯は各所に散在する一五行政區より成り、その大部分は工業中心地附近に位置してゐる。本地帯の任務は此等工業都市に輸送に便ならざる食料品(野菜、新鮮なる畜産品)を供給するこゝである。

(ト) 大麻栽培地帯 本地帯は舊ミスシンスク管區中、密林地帯に接する部分を占め、總面積七十二萬八千ヘクタール、うち可耕地は六十萬ヘクタールである。本地帯の主要農産物は大麻であるが、畜産業の發達も期待される。

(チ) 山地畜産地帯 本地帯は二八現行行政區であつて、オイロチヤ州、ハカシヤ州及びゴルナヤ・シヨリヤの南東部もこのうちに含まれ、面積六百三十萬ヘクタール、可耕地四百五十萬ヘクタールを推定される。食肉・搾乳を主とする畜産業は北アルタイ地方に、より以南の地方に於ては食肉を目的とする畜産業と共に牧羊も行はれる山地に地帯にあつては養馬業も行はれる。

#### 四、文化的建設

一九二六年現在に於ける小學校及び中等學校數は五、五三六校、就學者數四七五、〇〇〇名で、殆んゞ革命前と同水準にあつたが、最近四ヶ年間に、兩者とも著しき伸展を示し、一九三〇年には學校總數八、六三四校、就學者數九〇、〇〇〇名、即ち前者は五六%、後者は九〇%の増加を示した。しかし、國民經濟記録局資料によれば、一

九三一年一月一日現在の當地方小學校法定學齡（八歳—十一歳）兒童收容率は八四・五％に過ぎず、完全なる文盲の清算は未だ實現されてゐない。

就學兒童の社會的構成に關しては、逐年プロレタリア分子が増加し、勞働者及び集團農場員の子女の比重が増大しつゝある。

一九三〇—三一年度には集團農場員の子弟は村落に在る小學校就學兒童總數の半ばに充たなかつたが、三二年度には四分の三を占め、都市の學校に於ても、殆んど四分の一に達した。

次に、小學校卒業者の社會的構成に就いて見るに、勞働者及び日傭勞働者の子女は五・〇％、集團農場員の子女五四・四％、貧農個人農の子女一八・七％で、殘餘は他の階級に屬するものである。又卒業者總數中、赤色少年團員の占むる割合は二八％である。

普通教育に従事する教員數も逐年増加の傾向を示し、一九二九—三〇年度には、一七、二三七名であつたが、一九三〇—三一年度には二二、〇六六名に増加した。農村小學校に於ける此等教員の黨派的色彩は、黨員二・五％、共產青年同盟員一三・二％であり、より上級の學校にあつては、黨員一一・三％、共產青年同盟員一四・八％で、都市の小學校に於ては、黨員一・五％、共產青年同盟員六・三％、より上級學校に於ては、前者一八・一％後者一六・九％になつてゐる。

教育部の資料に據れば、高等教育を受けたる教師四・一％、中等教育を受けたるもの五三・五％、低度の教育を受けたるもの四二・二％である。又教師の社會的出身別を見るに、勞働者出身一二・四％、農民出身四八・六％、事務員出身二八・一％、その他一〇・九％である。

文盲清算運動は、一九三〇—三一年度には前年に比し一層拍車をかけられ、同年度内に就學した文盲者總數は八七萬に達した。

職業技術學校の建設は一九二九年より急激なるテンポを以つて開始された。今もし一九二七年に於ける職業技術學校網とその就學者數を、一九三一年十二月現在のそれに比較する時は、高等専門學校及び高等工業學校は六倍に増大し、その生徒數は六倍餘となり、技術學校數は四倍、その生徒數は五倍、工場勞働學校及び同型の諸學校の數は約四倍、生徒數は實に一二倍半以上に増大した。

勞働者、集團農場員たる農夫、貧農及び中農を、高等程度の學校に就學せしむべき黨及び政府の指導方針は、充分の徹底性を以つて遂行せられ、學生の社會的面貌は最近三ヶ年間に急激なる變化を示し、勞働者、集團農場員、貧農の子女が、學生の構成分子中に優位を占むるに至つた。即ち、勞働者及びその子女の比重は三〇・三％より五六・七％に向上し、集團農場員のそれは殆んど五倍に増大した。

政治教育諸施設も異常なる躍進を遂げ、一九三一年一月一日現在に於ける俱樂部數は一四〇、そのうち農村に在るもの二二、『赤い部屋』五〇六七、農村圖書室一五一五、圖書館九〇三（うち都市にあるもの三二六）、都市に於ける映畫館三四、常設映寫設備三一三、（うち農村にあるもの一九一）、都市に於ける劇場一〇、移動劇場二、『國

民の家」一六八、「文化の家」一二五、「農民の家」一九である。一九三〇年度に於ける圖書館入館者數約四〇萬人であつた。

### 五、西部シベリア地方の自然地理概説

**地表** 本地方の地表構成は大體次の如く要約できる。即ち、本地方の大部分は西部シベリア大低地に屬し、小部はアルタイ・サヤン山地圏内に在り、更にウラル・クズネツク綜合企業地方及びウラルミカザクスタンの一部をも包含する。本低地は鐵道線路に沿ひウラルよりエニセイ河まで凡そ二千軒に亘つて擴がり、北極圏内に在つても尙ほ一千軒の幅員を保ち、標高の極めて小なるこみ及び驚嘆すべき水平さを特色としてゐる。

鐵道幹線の南方、オビ河右岸の諸所には、アルタイ山脈を構成する基岩（花崗岩、輝綠岩、石炭岩）が露頭してゐるが、殘餘の地域は殆んど全部脆弱なる地層より成り、南部は黄土狀及び砂質粘土、北部は水河時代の種々の堆積層より成る。南北兩部を通じて此等地層の下部には、第三紀時代に屬する淡水成層が、更に深所には海成層が成層してゐる。後者は南部に於ては地表面に近接し、ために所々の土壤、地表水及び地下水は夥しき鹽分を含む。

アルタイ・サヤン山地は、アルタイ、アラタウ、西サヤン及び東サヤンの四つの地域に大別される。

**アルタイ山脈** 大古（古生代）、アルタイ山脈は褶曲山脈であつたが、其後に行はれた強力なる破壊作用（氷河、流水等）のため平坦にされ、更に其後の斷層作用によつて峻峻な斜面を有する幾多の凸出部、高地及び盆地に開析

された。従つてアルタイは、細長き山脊を有する若き褶曲山脈とは頗る趣を異にし、その「脊稜」の頂上には多くの場合幅廣き「高地」即ち高臺が存在し、後者は草原、藓苔原及び地衣原、甚だしきに至つては湖沼によつて占められてゐる。チュイスク・ステップ、カタンディンスク・ステップ、クライスク・ステップは「准平原」の斷片をなし又狹隘なる豁谷は、カトローニ河、チュヤ河、アルグート河等の浸蝕作用によつて所謂「峡谷」を呈し、二重斷層盆地の標式的なものとしては、高き岸に圍繞せられたる著名なるテレツコエ湖がある。

南アルタイ山脈、蒙古アルタイ山脈、アルタイをサヤン山脈に結びつけるサイリゲム山脈は、海拔四千乃至四千五百米に達するタブイン・ボグド・オラを基點とし、放射狀に分脈してゐる。南アルタイミサイリゲムの兩山脈は本地方の南境に沿ふて連り、大部分は三千米以下の高度である。サイリゲム山脈に殆んど垂直に（チュイスク・ステップを中間に挟み）多數の斷層山脈が並行して北西に走り、そのうち最も高き南チュイスク山脈、カトンスキイ山脈、ホルズーン山脈で、就中カトンスキイ山脈中のベルーハ山は四五二〇米の高度を示し、アルタイ全山中の最高點をなしてゐる。

アルタイ山脈の森林限界線は海拔二千米に近く、北部及び北西部に於ける雪線は二、三〇〇米、中央部にあつては二、六〇〇米及至二、七〇〇米、東部及び南部に於けるそれは、蒙古の砂漠と半砂漠に隣接せるため、更に高い。アルタイ山脈中の氷河は多分約一千平方軒を蔽へるものも考へられる。

**アルタイ山塊** 又はクズネツク・アラタウは、アバカン山脈として、テレツコエ湖の北東隅に初まり、アバカン

河の流域をトミ河流域より分つてゐる。本山脈はトミ河水源の東方に於て、北北東より北北西に轉じ、トムスタ山脈となり、漸次低平なる丘陵になつてバルザス河上流附近に於て終る。

アラタウは、その全山系を通じて千米以上の高度を示す地點はなく、その地質史もアルタイと同一である。

南サヤン山脈 本山脈はサイリゲム山脈の延長部を通じてアルタイに接続し、コルブー山脈によつてアラタウに連絡し、主脈はタンヌト・ウイ山脈と共に本地方の南境に沿ふて走る。

本山脈も亦前記諸山脈と同様に斷層により生じたもので、その最高峰は二、九〇〇米に達するが、唯氷河を欠いてゐる。頂上は裸峰によつて占められ、山脈は必ずしも連続的ではなく、且つエニセイ及びその諸支流によつて著しく切斷されてゐる。

本山脈はカン河及びト・パ河の上流地帯に於て、東サヤン山脈と直角をなして接合する。兩山脈の交會點に於ける諸峰の高度は三千米に達する。

兩サヤン山脈ミアラタウ間の地域は、之等山脈の支脈によつて占められ、中央部には斷層性の鹽分大なる諸盆地が存在し、そのうち最も大なるはミスシンク盆地である。本地方の地下には各種の有用礦物（石炭・鐵・銅等）が埋藏されてゐる。

河 川 本地方は、その領域内に西部シベリア低地の東南部のみを包含する關係上、水路動脈としてはオビ河の水源、同河の上・中流、イルト・イシ河の大部分並にエニセイ河の一部分を包括するのみである。

オビ河は總延長四、五二〇軒に達する大河で、そのうち本地方領域内に於ける延長は一、六〇〇軒餘である。本流は殆んで全延長に亘つて舟楫の便を有し、その源流は二〇〇軒に亘つて舟運を通ずるビヤ河及び木材流送に最適なるカトローニ河である。

本領域内を流るるオビ河の主なる支流は、右よりはチュムイシ河、トミ河、チュルイム河、ケチ河、ト・イム河及びバアフ河、左より注ぐものにチャルイシ河、アレイ河、シールガカ河、バクサ河、チーヤ河、バラーベリ河及びワシユガン河がある。此等河川中、チュルイム河（一、八九五軒）は、その長さに於いて歐洲の諸河川中僅かにウオルガ河、ドナウ河、ド・ネーブル河に譲るに過ぎず、又ケチ河（一、三五六軒）はライン河よりも長い。

オビ河本流以外の本領域内の水路は木材流送路六、六五三軒、舟運水路四、九九六軒である。

此等河川の大多數は、ワシユガーニヤ地方、ナルイム地方の如き廣大なる濕地地帯に於ける今のところ唯一の交通路をなし、トミ河はクズネツク炭田地方の主要水路をなしてゐる。

イルト・イシ河の長さはオビ河への合流點まで四、四五〇軒であつて、オビ河下流（一、二〇〇軒）及びオビ河口灣（八〇〇軒）を合せて延長殆んど六、五〇〇軒に達し、その全長に於てナイル河に匹敵する。イルト・イシ河は、最も上流に近き部分を除けば、その全長に亘つて舟運を通ずる。本領域内に於てイルト・イシ河に注ぐ河川は、左よりイシム河、右よりオム河及びタラ河である。トポール河（ウラル地方に於けるイルト・イシ河の左支流）及びカマ河の兩水系をイセーチ河ミチャソワヤ兩河を通じて連絡する計畫が實現の曉には、シベリア地方の諸河川ミ

歐羅巴の諸河川の聯絡が實現せられ、更に後者を通じて前者は歐羅巴の南方及び西方海洋に連絡される事になる。

オビ河ミイルト、イシ河は共にウラル・クズネツク綜合企業の運輸網の重要要素の一をなし、且つ北方航路による外國貿易の要路となり、遠く支那領トルケスタン及び蒙古を含む廣大なる背後地を創造するものである。

エニセイ河は全長四、〇六三軒に達し、そのうち本地域内を流るる部分は約五〇〇軒で、半分は舟運の便を有する。

氣候 西部シベリア地方の氣候は、(イ)當地方の位置が北緯四九度三六三度の間に在り、(ロ)地理上の極み所謂『寒極』が接近せること、(ハ)歐亞大陸を洗ふ海洋より遠く隔絶せること等によつて極めて多様性に富んでゐる。加ふるに廣大なる沼澤地帯を包含する西部シベリア低地及びその北方に存する森林地帯並に南東部の山岳地帯に於ける起伏の多様さは、西部シベリア地方の氣候的諸要素を一層複雑ならしめ、北部の沼澤性林野地帯及び南東の山岳地帯は、最近に至るまで氣候的には殆んど解明せられない現状である。従つて西部シベリアに關する正確なる氣候的記述は勿論、幾分なりとも詳細なる氣候區別を行ふことも困難である。ミは言へ之を概觀的に見れば次の三つの主要氣候帯を區別するを得る。即ち、

(一) 湿度の極めて低き地帯、年降水量三〇〇軒を越へず、冬季の積雪量も少く、夏季に於ける気温は西部シベリア地方を通じて最高である。本地帯は舊スラウゴロド管區に殆んど一致し、西部シベリア總面積の僅かに約三・五%を占めるに過ぎず、早魃多きカザクスタン地方の延長をなしてゐる。

(二) 最大降水量ミ、大なる積雪量及び低気温を伴ふ山岳地帯、機械觀測による刻切なる統計資料を欠いてゐるが、現有の断片的資料及び當地帯諸河川の上流に於ける水の消費量の概算に基いて推定するに、恐らく一〇〇〇軒に近い降水量を有するものと思はれる。凡ゆる方向の風より防がれてゐる諸地に於ける積雪量は概して一定してゐないが、二米乃至三米に達する。一般に海拔標高が高く、且つ起伏の有する諸特徴が、四圍の山脈斜面より流れ集まる冷氣の溜り場たらしめるので、本地帯の平均気温は同一緯度上に在る本地方内の他の諸地區に比し一層低い。

(三) 充分なる湿度ミ年平均零度以下の気温を有する地帯、調査済の諸地區中、本地帯に包括せらるべきものはウァシユガニエ、バラバの北部、チュルイム河下流地方である。チチ、トミ、及びバアフ等の諸河流域地方は氣象學的に解明せられてゐないが、凡ゆる間接的資料(土壤・植物)に徴するに、本地方に包含して差支へないものゝ如くである。本地帯の降水量は四〇〇軒以上四五〇軒、而もワシユガン河流域に於ては、他ミ孤立せる特に最大の降水量を有するものミ考へられる。オビ河左岸北部に於ける年平均気温は零下三度に近く、チュルイム河下流地方に於ては零下一度乃至二度である。

上記三地帯はその間に介在する中間地帯によつて分たれ、この第四地帯は氣候的にも中間的性質を帯びる。特殊の地位を占むるものは一つの少なる氣候區(シロー—ウイバート—アバカン)であるが、その境界線は明瞭でない。その面積及び降水量分布状態は第一地帯に類似するが、気温は之ミ異り、その最高気温は恐らく第一地帯に於けるよりは低いものミ考へられる。降水量の少きミは、卓越風の通路に當つて聳立する高き分水嶺が、濕氣の大

部分を吸収するに基因する。

西部シベリア地方の太陽放射の大きさに關する系統的資料は、僅かに一年間の蒐集を見たに過ぎないが、而もその指數によれば本地方の多數地區に於ては、イルクーツクよりも低からぬものを見做すことを得るのである。

イルクーツクは同一緯度上にあるワルソーに比し、大いに優れ、尙ほ遙か南方の維納(四五度一分)よりも、又フランス最南端の地中海沿岸に位するモンペリエよりも優れてゐる(モンペリエに於ける放射の年指數は一九七である)。

即ち、西部シベリア地方は、太陽エネルギーの豊富さに於て、かの有名なる瑞西の高山療養地ダボス(北緯四六度四分)に僅かに譲るに過ぎないのである。

最も寒き月(一月)の平均氣温は、ビイスク零下一六度、ノウシビイリスクの零下一八度三、トムスク零下九度七、ナルイム零下二二度一で、最も暑き月(七月)の平均氣温は、ロクテフスコエ<sup>三</sup>二〇度八、プリンスコエ諸湖地方二〇度六、ビイスク一九度四、ノウシビイリスク一九度、トムスク及びナルイム一八度七、ネオジイダンヌイ・ブライイスク一六度四である。

一年を通じての最高氣温と最低氣温の差も顯著なるものがあり、多くの地點に於て、冬季の最低氣温零下五〇度、又は夏季に於ける最高氣温三五度乃至四〇度といふ現象が觀察せられる。

土 壤 西部シベリア地方全般の土壤・植物的地帯別は、その氣候區別に依存してゐる。此の一般的法則を變改し又は破る素因は、主として當該地表の大起伏及び小起伏であり、又土壤形成の基礎をなす母岩の多種多様性である。

西部シベリアは、大體次の土壤・植物的地帯に、之を分割されよう。

(一) 北部ポドゾール沼澤林野地帯 本帯はイシム河よりオビ河に至る間を、南方より幅狭き(一〇〇乃至一五〇軒)副帯によつて縁取られてゐるが、本帯も赤ポドゾール沼澤地帯であつて、唯異なる點は、若干の鹽分を含む事である。本帯全體の南境は、タラ河附近に於て略々北緯五六度に近く、更にイルト・イシ河ミオビ河の間では殆んど北緯五四度まで南下し、次いでオビ河右岸に至つて再び急激に北上し、トムスク及びアチンスク附近に於いては殆んど北緯五七度に達する。

(二) 南部黒土地帯 本地帯は諸所(イシム、イルト・イシ兩河間、チャヌイ湖周縁)に於て、異なる成分の地帯によつて第一地帯より分たれてゐる。而して此の中間地帯は鹽澤及び含鹽地に富み、同時に夥しき潤葉樹の孤林を有し、その幅は平均一五〇軒に達する。

(三) 山地林野ポドゾール地帯 本帯はアルタイ・サヤン高地のうち、森林限界線(山上凍土帯)と同線以下(スラブ)の間の地域を含む。

ポドゾールは河川沿岸の比較的乾燥せる地域に分布し、就中オビ河ミチチ河の間の地域に卓越してゐる。

ポドゾールはその種類の如何を問はず、農業に利用せんがためには根本的施肥(窒素、燐、カリウム・カルシウ



ム)を必要とするが、施肥をなす時は、相當な收穫をもたらす。特に纖維用亞麻に於て然りである。

南部黒土地帯 諸所に於て本地帯を上記の諸地帯より分つ含鹽性の副地帯に就ては既に記述した如くである。この副地帯に於ては炭酸鹽粘土及び含鹽粘土が地表近くに成層し、排水好しきを得ざる場合には、種々の鹽澤及び含鹽地を形成する。

粒穀農園の創設及び工業作物栽培に最も好適なる黒土帯は、西部シベリア低地の全地域を横斷し、その西部に於て幅五〇〇軒に達し、バラビンスク緯度上に於ては一五〇軒に狭まり、アルタイ山脈に接近するに伴ひ再びその幅員を増す。

西部シベリア地方の黒土帯は必ずしも連続的に分布するものではなく、所謂介在土壤によつて屢々中斷されてゐる。後者に屬するものは、黒土帯の北部に夥しく存在する黒土帯の孤島で、それは潤葉樹の孤林又は潤葉樹林によつて占められ(後者は砂が露出してゐる地點)、各種の含鹽土壤(特に黒土帯の南部に於て)は全地域の二〇%を占めてゐる。稠密に黒土が分布する個所は諸河川に沿ふ地域、アルタイに沿ふ地域、舊オムスク管區の南部、及びその他若干の地區である。

褐色土壤帯 本地帯に於ては特に「乾性」農業が必要である。此の土壤帯の分布區域は限定せられ、イルト、イシ河右岸の舊ストラウゴード管區及び舊ルプツォーフスク管區、オイロチャ州内の各所及びミスシンスク以南に點々として存在する。

飛散性砂 土壤崩壞の産物である飛散性砂の最もよく發達せる地域は、舊ミスシンスク管區(本地域内の若干の河谷には標式的なステップ砂丘が形成せられてゐる)ハカシヤ州(アバカン河下流左岸)及びイルト、イシ河の沿岸である。

植 物 西部シベリア地方の森林の特徴をなすものは、その樹種の比較的少いことである。即ち松二種類(松、紅松)、シベリア蝦夷松、シベリア蝦松、シベリア落葉松、白樺及び白楊である。南東邊境地方には匂ヤマナラシを生じ、アルタイ前山地帯(テリベス)には菩提樹を見受けるが、後者は氷河以前の第三紀潤葉樹林の遺物である。

斯の如く森林を組織する樹種が比較的尠少であることは、木材の規格化の上に大なる便益を與へるものである。

西部シベリア地方の森林密度は、灌木林をも加ふれば全面積の四〇%に近い(即ち林野面積一、二五六、〇〇〇平方軒に對し森林は四九五、〇〇〇平方軒、そのうち灌木林約一〇、〇〇〇平方軒)森林密度に於て西部シベリアは、芬蘭(六一%)及び瑞西(五八%)に及ばざるも、歐露は同一水準に立ち、北米合衆國及びカナダを若干凌駕し(三〇%乃至三五%)、獨逸(二七%)、佛蘭西(一九%)等の西歐諸國を遙かに凌駕してゐる。

次に視野を轉じて當地方の森林帯の有する諸特徴に就いて検討を試みよう。

平原大密林 その南縁はタラ河の緯度上に於てイルト、イシ河に交り、次いでトムスクに向ひ、然る後にトムスク、アチンスク間に於て北方へ轉ずる。斯の如く本密林地帯に包括される地域はポドゾール沼澤地帯(「土壤」の項参照)の大部分である。平原密林帯を主として占めるものは、蝦松、蝦夷松を主林木とする針葉樹大密林——所謂

「チニールニ」及び多数の白樺及び白楊を混濁せる針・潤混濁林——即ち「ウルマン」である。松、紅松を主林木とする森林及び蝦夷松、椴松、紅松の純林は、上記のものに比すれば稀である。概して針葉樹の比率は西方より東方に赴くに從つて増大してゐる。即ち、ワシユガン地方に於ては森林の三〇%が紅松を、七%が松を、二〇%が椴松及び蝦夷松を主林木とし、その他一般に針葉樹を主とするもの二%、潤葉樹を主林木とするもの五〇%である。然るにケチ、チュルイム兩河の流域地方に於ては椴松及び蝦夷松が五〇%、紅松が二〇%、松及び落葉松も同程度である。

「針葉樹大密林」及び「針・潤混濁林」は、頗る價值高き幾多の技術的原料を産出する。椴松は建築用材、杭木及び箱材、製紙原料となり、蝦夷松も赤良質の挽材、製紙原料、箱材等となる。紅松は應用廣きその堅果の外に、指物材及び細工用材となり、白楊はマツチの軸木となり、白樺はベニヤ板となる。

一九三三—三七年の第二次五ヶ年計畫年度内には、北部森林を對象として多くの木材・製紙・化學綜合工場が建設される筈であるが、就中その規模の最も大なるものは、カルガンク工場及び中部チュルイムスク工場で、製材、製紙以外に、人造纖維等の如き、化學製品が産出される。

西部シベリア地方の山地大密林は、オイロチャ洲、コンドマ河、ムラッス河、トミ河上流、アバカン河、エニセイ河上流の流域に廣大なる地域を占め、又サライール山脈、クズネツク・アラタウ、及びエニセイ山脈に沿ふエニセイ河石岸に沿ふて、北方へ突出してゐる。

本密林を形成する樹種は所によつて頗る異つてゐる。即ち、オイロチャ洲に於ては落葉松が主林木をなし、屢々純林、所謂「リスト・ウーギ」を形成し、その比率四三%に達し、椴松及び蝦夷松二六%、紅松二五%で、残餘は凡て潤葉樹が占め、松は僅かに〇・三%に過ぎない。

ハカシヤ州に於ては林木の混濁率は趣を異にし、椴松及び蝦夷松が二六%、落葉松、紅松二五%、その他二四%で、松はオイロチャ洲に於けるよりも遙かに多い（八%）。コンドマ河及びムラッス河及びトミ河上流地域に於ては全くその趣を異にし、椴松、蝦夷松が極めて多く七七%を占め、紅松及び落葉松は僅かに二%及び〇二%を占むるに過ぎない。

草本植物としては、幾多の價值大なる牧草——特に豆科（蠶豆、落花生、ウマゴヤシ、ムラサキウマゴヤシ等）及び禾本科（アハガヘリ、スズメノ・テ、ポウ、ナギナタガヤ、シラゲガヤ）がある。禾本科のみにも一八〇種を算する。

薬用植物 西部シベリアに於ては薬用植物ミエーテル含有植物の種類も亦少くない。前者に屬するものには、剪秋羅立葵、カノコサウ（甘草）、タンポポ等、後者に屬する草本としては、就中唇形科（イブキチヤコウサウ、ハナハクカ、ジジフーラ）ヨモギがある。

蜜源植物の種類も多く、春のそれとしては、各種の柳屬、款冬、肺疾草、百合、スグリ等有り、夏季には、ウマゴヤシ、シナガハハギ、ムラサキウマゴヤシ、オドリコソウ、野介子、野生矢車菊等を指摘される。

動物 西部シベリア地方の動物界は、その氣候・土壤・植物的地帯別によつて制約される。

植物を食用とする哺乳類のうち、西部シベリア地方の密林及び針葉混森林に棲息するものは、僅かに有蹄類(麋、北部には馴鹿も棲息する)と齧齒類(栗鼠科の栗鼠、綿栗鼠、鬼鼠科の鼠、赤毛野鼠)に過ぎない。齧齒類は、その種類に於ては僅少であるが、その数は夥だしい。麋及び馴鹿は、狩獵旺盛なる結果、その頭数は激減した。

針・潤混森林中に棲息する食肉獣としては、貂類(鼬鼠、貂、臭猫、アナグマ、鼬、獺、稀に黒貂)が多く、熊、狐、山猫も棲息する。冬期には、本帯の北部に、ツンドラ地帯より馴鹿及び北極狐が移住して来る。

又本帯に棲息する鳥類も多く、特にエゾヤマドリ、ヤマドリが多く、鴉科に屬する星鳥、郭公等及び小さき燕雀目の諸鳥及び啄木鳥も棲息する。猛禽の中では梟及び尾白鷲が特に多い。

魚 類 西部シベリア地方の主要漁撈地はオビ・ナルイム地方である。而してオビ・ナルイム地方、オビ・イルト、イシ河系及びエニセイ河系を通じて、その特徴とする所は、此等河川に棲息する魚族が、東部シベリア地方ミウ、ルガ・カマ河系のこれとの中間的性質を帯びる點である。

ウオルガ・カマ兩河に似たる點は、鱒魚類、即ち紅魚類(鱒魚 *Acipenser guldenstadti*、鱒魚 *Acipenser ruthenur*)に富む點で、又東部シベリア地方の諸河川との相似點は、鮭屬、ネリマ鮭(*Salms nelma*)、ムクソン鮭(*Salms mukun*)、タイメン鮭(*Salms kaimen*)の棲息著しい点である。

然しながらオビ・イルトウイン漁場に於ても、エニセイ河に於ても、王座を占めるものは黒魚類及び小魚類、即

ち前記の二族に入らざる他の種類である。

漁獲高に於て第二位を占める地點は、林野・ステップ地帯に散在する湖沼で、鮎(*Carassius fulgialis*)、チュバク鯉(*Oxyrinus tinoe*)、鱒(*Percu fluviatilis*)、梭魚(*Esox lusius*)等である。

## 六、西部シベリア地方の鑛産

學士院會員ア・イ・フェルスマンは、西部シベリアを地質・化學上次の三地區に大別してゐる。

(イ) 西部シベリア平原 は炭素(泥炭として)、鐵(沼地性鑛物)、アルミニウム(粘土として)及び鹹湖の鹽素、ナトリウム、硫酸等を埋藏するを特徴とし、又第三紀時代に海洋であつた地方の周縁には、鐵礬土としてのアルミニウムの堆積を期待し得、本層の下部には豊富なる鑛物化を示す古代山系(ヘルシニアン)が連続してゐるものと考へられる。

(ロ) イルト。イシ河沿岸地方(西アルタイ山地及びキリギス・ステップ)には、亞鉛、鉛、銀、銅、カドニウム、金、重土が、硫酸又はセレニウム及びテルルミ結合して賦存し、所によつては、バナチウム及びモリブデンの蓄積が認められる。花崗岩系の諸元素(ヘリウム、グルシウム、礬素、ウオルフラム)は、當地方に於ては差したる役割は演じてゐない。

(ハ) エニセイ地方(西サヤンを含む)、本地方は埋藏鑛物關係に於て最も複雑を極め、鐵、銅、金、銀、蒼鉛

バナシウム、ウラニウム、バリウム等の外に、シベリアには稀なるマンガンを有してゐる。その外、錳、蒼鉛、砒素、コバルト、モリブデン等の貴重元素も埋藏されてゐるものも考へられる。今、西部シベリア地方の有用礦物を地質學上の時代別に見るに、左の如くである。

**始原代** クズネツク・アラタウ山系の金、プラチナ、オスミウム、イリヂウムはミスシンスク諸金礦に於て産し、アスペストはミスシンスク盆地の縁邊地方に埋藏されてゐる。

**古生代** 古生代後半に於ける強烈なる噴火作用は、シベリアが當該年代の各種の礦物に富む事を立證し、又上部古生代の海洋が消失せる跡に存する多數の鹹湖及び湖沼は、有機的發生の有用礦物（就中石炭）の豊富さを裏書するものであり、最後に、廣大なる地域を占めてゐた上部寒武利亞紀及び下部志留利亞紀の海洋が淺海なりしことは含鹽層形成の基因となつてゐる。古生代に屬する地層中に含まれる金は、始原代のそれよりは著しく少量で、特にアルタイ及びサライール山系に於ける金は、泥盆紀に屬する花崗閃綠岩に賦存してゐる。その代り、銅、銀、鉛、亞鉛は豊富に埋藏され、西部シベリア地方の金屬鑛床の大部分は、實に古生代に屬するものである。

**中生代** 石炭、主として褐炭は、西部シベリアには廣く分布し、イルト・イシ河に沿ふ地域に知られてゐるが、東部に於ける褐炭層は、トムスク附近に初まり、エンセイ河を越へて遙か東方に連る一大炭田を成してゐる。

**新生代** 前述の石炭も亦その大部分が第三紀層に屬するものである。新生代に屬するものに膨大な泥炭層があり、管に北部及びバラバ地方に分布せるのみならず、當地方の南部にも埋藏されてゐる。又鹽及び石膏の大部分も

第三紀又は部分的には第三紀以後沖積層に屬する含鹽粘土中に含有されてゐる。

### 七、西部シベリア地方の動力源

西部シベリア地方の動力資源をなすものは石炭、泥炭、水力、木材（薪材）、風力、石油、藁等であつて、エス・ア・バラクシンの計算する所に據れば、總計六九五十億瓩に達する。

之は世界の有する動力源の七・六%、ソ聯全體の八・九%に相當する。以上が、第二次五ヶ年計畫によつて目論まれたる巨大なる電力需要（一九三九年には二百二十億KW時）の動力源をなすものである。

（佐藤秀徳記述）

## 原著序

ソ聯邦人民委員會議は一九三一年四月二十六日附の決議に基き、諸州<sup>カウチヤク</sup>及び諸地方<sup>クワイ</sup>の執行委員會に命ずるに、諸州及び諸地方の經濟に關する資料を編纂して、『地方經濟便覽』として公刊することを以てした。西部シベリヤ・地方執行委員會は此の編纂事業を、國民經濟監査・地方管理部に依託した。斯くして本書は、上記の政府の諸決議を實行せんが爲に刊行せられるものである。

編纂上の基準としては、國民經濟監査・地方管理部は、ソ聯邦國民經濟監査・中央管理部より提供せられたる綱要を利用した。尤も編纂中には、右綱要に幾多の變更、追補を加へ、或ひは若干の違反を犯すの餘儀なきに至つた。本書の刊行及びその資料の準備に要する仕事は頗る膨大であつたが爲、管理部は數箇月にわたる繼續事業とするの已むなきに至つた。先づ第一に、本書刊行のため利用せられた資料文獻は、管に管理部所藏の資料を含むのみならず、編纂の必要上多數の官廳に屬する文獻をも涉獵せざるを得なかつた。然るに、周知の如く、或る種の官廳にあつては監査・統計的資料は然るべき組織に整理せられをらず、且つ多數の資料は之を既成の形に於いて入手すること能はず、剩へ若干の全く缺脱せるものすらあつた。従つてそれら資料の補綴工作を行ふ必要を生じたるは勿論、或る場合には材料蒐集のために特に手段を講じなければならなかつた。

斯くて本書は頗る尠大なるものとなり、吾人としては通常の便覽の範圍を超えをるものみさへ思考する。即ち吾

人が本書を『地方經濟資料』と題した所以である。

本書は斯く頗る尠大なものであり、また資料の組織立て及び分析に多大の苦心が拂はれたのであらうが、なほ且つ國民經濟の幾多の部門及び經濟上の幾多の問題にして、適切なる解明を得ずに終つたものがあつた。就中、本地方の畜産に關する資料に就いては然りである。第三部『表示』の部に至つては、畜産に關する資料は全然缺如してゐるのである。ただ畜産に關する若干の部分的資料が、二八年——三一年の國民經濟に關する總說中、及び本地方行政地區の各論中に示されてゐるに過ぎない。言ふ迄もなく、ここに公表されたものでは充分ではないのであるが、然し吾人は遺憾ながら、畜産業に關してはこれだけに止めて置く外はなかつたのである。その理由は、本地方の畜産の状態に關する充分に確かめられたる資料が、原稿を組版に廻す當時に、國民經濟監査管理部には無かつたからである。本地方では一九三二年二月十五日現在の状態に依つて、家畜の特別調査が行はれたが、その調査の結果は既に本書編纂中であつた吾人に取つて、利用することは不可能であつた。何となれば若し假りにそれを利用すれば、本資料の公刊を更に長期間に涉り延期せざるを得ないからである。吾人は本地方の國民經濟に關する經濟資料の刊行が焦眉の急なることを考慮し、既に組版に廻すばかりになりをれる資料の公表をこれ以上延引せぬ事に一決した次第である。畜産に關する資料が本書の補遺として、追つて別冊の形で刊行せられるであらうことは明かである。

次に農業の部分に關して云へば、吾人は例へば農産業の基本資金の状態に關する計數の如き、又は投資状態に關する資料の如き、重要な資料を公表することが出来なかつた。この中の後者は目下國民經濟監査管理部の手によつて作製中であるが、一九三二年七月十五日以後に於て多分刊行の運びになるであらう。また基本資金の計數が遂に間に合はなかつたのは、従來西部シベリアでは一年としてその計數が出てをらず、従つて現存の資料の分析に乏麗大なる仕事を今や行ふべく餘儀なくせられたからに依る。

本書の主要部分は、本地方の行政地區に就いての各論である。吾人は思考する。西部シベリア地方の各行政地區の經濟方面を反映せる情報は、今日まで公刊せられてゐないのである。従つてこの點が、本書を通じての大なる缺點であることは自明の理である。況してや、西部シベリア地方の抱擁する地域の頗る廣大なるに伴ひ、その各行政地區の有する經濟上及び經濟的の條件は頗る種々多様であつて見れば、尙更のこゝである。固より吾人は、百方手を盡して必要な資料の入手に努め、各行政地區に就きそれぞれの特徴を明かにすべき記述を行ひ、依つて以て當該地區の經濟状態の全貌を闡明することを、自らの課題としたのである。然しながらこの課題の實現に至つては相當に困難なるものがあつた。これに關して吾人は、地區自身（地區計畫委員會）より大なる援助を得た。即ち吾人の提示せる綱要及び指示に基いて現地に於いて作製せられたる記述を吾人に寄せられた地區は、六十四地區に上り、尙そのほかにオイロチヤ州があつた。現地より送達せられた資料は、更に國民經濟監査管理部に於て、調査を加へ仕上げを施した。地方部の部員に比し現地の部員諸士が經濟事情に通曉せられるこゝは自然の數であり、従つてこの點よりして上記諸地區より寄せられたる援助は極めて價值あるものであつた。而して又、資料を提出せられ

た諸地區が、本書中に他よりも一層詳細にして一層各方面に亙る記述を有することを特に記して置かう。資料提出の勞を執らざりし諸地區に至つては、彼等が本書中にさして全般的な記述を有せざることには已むを得ないのである。茲に於いて就中次の如き結論が導かれるであらう。即ち、吾人がそれらの地區の經濟を記述すること不充分的な點について、若し地區部員諸士が苦情を挿まれる如きことあらば、それは先づ第一に彼等自身の責である。如何にすれば、必要な情報を提出して吾人をして處理せしむるは、實に彼等の仕事であり責務であること思料せられるからである。

幾多の地區に就いて、吾人は特に資料の作製に従事しなければならなかつた。中には特に編纂部員を現地に派遣しなければならなかつた所もある。例へば、その膨大な建設事業を以て本地方の經濟方面を左右するノヴヅクズネツクの如き最も重要な地區に就いては、吾人は實に上記の如き方法に依つて資料を入手するの餘儀なきに至つたのである。ルブツオーフスキイ、ポロトニンスキイの二地區、及びノヴシビリスク市とその地區の經濟は、特別刊行物として出版せられを、既に以前の編纂に係る詳細なる經濟便覽に基いて之を記述した。これら諸地區に關しては頗る組織立てる資料が存してをり、吾人がそれを利用したことは言ふ迄もない。ナルイム地方の北部諸地區（アレクサンドロフスキイ、カルガソークスキイ、コルバシエーフキイ）に關する情報は、同地區に連絡をこころの至難なる爲、概して信憑すべき典據に頗る乏しいのであるが、吾人は之を、一九三一年夏の農業社會主義的再建設科學研究所特別探險隊が齎せる資料によつて補足することに努めた。吾人の手許にある他の諸資料を併用

するに、此等の資料は吾人にまつて頗る有益であつた。

本書の出版が遅延したに就ては、本地方の各行政地區の記述に要した手数が、重要な契機を成すものも考へられる。何となれば吾人が家畜調査の結果を入手した時は、既に校正中であつたに拘らず、吾人は本地方の國營農場、及び畜産の部門に於ける専門農場に關する最新の資料（一九三二年二月十五日現在）を、大多數の地區に就いて挿入したのである。

諸地區の記述に當つては、その資料は必ずしも同一期間に於いて採られてはをらず、又必ずしも同一方法を以て計算せられてゐない。故にそれらを比較對照することは無用であり、また吾人の記述はそれを目的とするものでもない。吾人は之に反して、吾人の入手せる資料の利用に努めたのであり、且つ出來得る限り、各々の地區を個別的に扱つて、その最近の期間の資料を利用したのである。而して吾人の意圖は諸地區の記述の爲の一定せる何等かの型板を作ることになく、寧ろその經濟的重要性の輕重に従つて記述した。従つて、本地方の國民經濟的產業に於ける價值を異にするに應じて、或る地區の記述は繁であり、他の地區の記述は閑である。吾人の見解によれば凡ゆる地區に共通の標準を設けるよりは、この方が一層適切の如くに思料せられる。

諸行政地區の記述に宛てられたる部の缺陷は、その地區の記述が、一九三二年三月二日附の全露中央執行委員會の決議により行はれたる最近の地區廢合以前の境界に依つてゐることである。この決議により廢止或ひは他地區に合併せられた地區は、本地方内にて十六行政地區に上つてゐる。この決議が吾人の手に達したる時は、既に各論

は印刷中であつたため、吾人はその總計に修正を加へることが出来なかつた。吾人が校正中に於いて爲し得たことは唯、上記ソ聯邦全露中央執行委員會の決議により境界が改變せられたる場合、あれこれの境界組成の變更をば註記して示し得たに止まる。従つて、これらの事情のため、地區各論の課題は充分に果たされて居ないのであるが然しながら若しこの課題の八〇パーセントが果たされて居るならば、吾人は以て成功を看做したい。況してや頗る多數の地區は境界に何等の改變をも施されずして舊態の儘に存し、かくて茲に刊行せらるる資料が實用に堪え得るに於ては、尙更のこゝである。

方法論上の最も重要な一點として是非も斷つて置かなければならぬ事は、若干の場合にあつては地區各論中の資料が、『表示』の部に收められたそれと一致せぬこゝである。斯かる事の生じたのは、幾多の地區に就いて吾人が、地區計畫委員會より送達を受けたる現地の計數を使用したからである。或る場合には、經濟項目の名稱が同一なる場合にも、その内容物件の異なるこゝも有り得る。例へば、産業の總生産高なる概念は、異なる内容を寓し得るのである。『表示』の部に收められたる産業の總生産高に關する資料は、國民經濟監査中央管理局の制定に係りソ聯邦にて使用せらるる唯一の方法論に基くものであるが、之に反し諸地區はその細部に於いて、時として独自の概念を導入してをるのである。こゝはいへ吾人は、必ずしもその都度調査を行はなかつた。特にその差違の甚だしからざる場合は然りである。且つ又、地區各論の編纂の趣意自體が既に、經濟指數の絶對精確なる表出にあるのではなく、課題は主として該地方の經濟狀態の概觀的性質を捉へるこゝに存したのであり、而して此の目的は、各地

區の側より計數に對する場合にも、又は國民經濟監査地方管理局の側より計數に對する場合にも、等しく満足せられるのである。編纂の業を徒らに繁雜ならしめて益々遅延せしむるこゝを避けるため、吾人はこの種の調査校合を行はなかつたこゝはいへ、差違の著しい場合には、之を國民經濟監査地方管理局所藏の資料に照合して訂正した。就中各地區の資料の修正は、農業に關する資料——即ち土地利用に就いての資料に於いて著しい。然しながら吾人の見る所によれば、この問題に關しては國民經濟監査地方管理局は、地區に比しヨリ正確を期し得る立場にあるのである。何となれば管理局は、地區の有せざる或る種の補足的典據を利用し得るからである。

本便覽の印刷の遅延を利用して、吾人は嘗に本書中の最近數年間の國民經濟の動勢に關する資料の闡明に努めたるのみならず、亦最近の資料に照らして、本地方の經濟的發展の見透しをも反映せしめんこゝを努めた。この目的を以て本書第一部に、本地方の國民經濟發展の基本的諸方針に關する論文を收めた。この論文は、地方計畫委員會の手に依つて作製せられたる、第二次五ヶ年計畫の見透しに關する豫備的資料の最近の形態に基き、地方計畫委員會の經濟調査團の起草せるものに係る。論文は『本地方經濟發展の基本的諸方針』と題せられてゐる。何となれば本事業の現在の段階にあつては、計畫は未だ完全に作製せられ居らず、従つて該計畫のための豫備的資料は、全國の國民經濟發展の計畫が樹立せらるるに伴ひ、將來なほ一層精確に校訂せられ、練り直され、或ひは幾分變更せられるこゝ無きを保し難いからである。然しながら又、經濟發展の根本方針の意味に於いては、著しき變更があり得ようこゝは殆ど考へられない。況してや西部シベリアに於けるウラル・クズネツク鑛業合同の問題の検討研究せらるる



こゝ既に久しきに亙り、而も本地方計畫委員部の手による研究上の先驅的經驗の全部は、資料の最近の形態を作製するに當つて悉く利用せられたのであれば、尙更のこゝに言ふべきであらう。従つて吾人は、その根本的諸點が、精確なる校訂及び變更の後にあつても依然その力を喪失せざるべしとの假定に立つて、この論文を起草したものである。

尤もこの概説は豫備的調査の資料に基いて作製せられたものである以上、或る種の缺陷を伴つてゐるものである就中、農産業の社會形態の將來の掘下げに關する問題は検討せられてゐない。然しながら本地方の經濟發達の見透しに關する研究の現下の段階にあつては、この問題の細密なる闡明は固より期し難いのである。

最後に附言すべきは、本地方便覽中第二部及び第三部の編纂には、國民經濟監査西部シベリア地方管理部の練達の部員の全部が參與せるこゝである。

本書に掲げられる資料全部の監輯は、下名が之に當つた。

ノヴォシビルスク市にて

一九三二年四月二十五日

國民經濟監査西部シベリア地方管理部長

エヌ・ソロニーツイン

### 度量衡換算表

區分	ソ聯單位	日本尺貫法	「メートル」法
距離	一露里 一「サーヂェン」	七尺〇二七二六 七尺〇四〇九	一〇六六八 二・一三三六
面積	一「クタール」 一「デシヤチン」	一町〇〇八三 一町〇一六	一〇、〇〇〇平方 一〇、九二五平方
重量	一「ツェントネル」 一布度 一「フン」	二六・六〇〇 四・三六八一 〇・一〇九二	一〇〇 一六・三八一 〇・四〇九五
容積	一「ウ・ド」 一「フツセル」	〇石〇六八二 〇石一九五三	一立 二・二九九 三五・二五二
材積(木材)	一立方 米	三・五九三七 二・九九四八	一立方 米

# 西部シベリア地方要覽

## 目次

要旨

原著序

第一章 一九二八年より一九三一年に至る西部シベリア

地方の國民經濟……………エヌ・ソロニーチン……………一

第二章 第二次五ヶ年計畫に於ける西部シベリア地方の

經濟的建設……………  
ウエ・タジミン……………  
ア・レイフバウム……………  
エス・エドリマン……………  
……………八六

第三章 社會主義的農業の合理的配置……………エフ・フォロブレイフ……………一六三

第四章 文化的建設……………ア・ロクタイ……………一八九

目次

第五章 西部シベリア地方の自然地理概説……………二二四

  第一節 地表構成……………二二四

  第二節 河川……………二三一

  第三節 氣候……………二三五

  第四節 土壤……………二四七

  第五節 植物……………二五二

  第六節 動物……………二五九

第六章 西部シベリア地方の鑛産……………ウエ・エス・ミトロボリスキイ…二七一

第七章 西部シベリア地方の動力資源……………ウエ・ゲ・ホルイドウイリヨフ…三〇四

# 西部シベリア地方要覽

## 第一章 一九二八年より一九三一年に至る

### 西部シベリア地方の國民經濟

エヌ・ソロニーツイン

西部シベリア地方は、社會主義的經濟の基礎建設のための闘ひに於いて、頗る重大にして且つ重要な役割を果した。その役割たるや、輓近の歴史的過去の事情より生ずる種々の特殊條件が本地方に存することに、より愈々錯綜し、且つ或る種の條件の如きは、社會主義的建設の進行に影響を及ぼした(否、影響を及ぼさざるを得なかつた)のである。

本地方の占むる領域は、ロシア資本主義の東方に於ける大なる植民地の最も重要な一部として登場したのであり、また本地方はその後、その真に無盡蔵なる原料的及び動力的の龐大その比なき富源を擁しつつ(この點に就いては本書中各論の部の資料を見よ)かの國內戦争の時に當つては、プロレタリア獨裁のための闘ひのあらゆる苦難を経來つたのであるが、その當然の成行きとして、技術・經濟的には寧ろ明かに立後れの場合にあり、従つてソ聯邦

の他の多数の地方に比して、その生産力は一層劣れる状態にあつたのである。而してその經濟上の性状を以て之を觀れば、農民内部に於ける鋭き分化の存するが如き、又ソ聯邦の他の諸地方に比し、農村の上層部——すなはち小資本主義的分子、富農階級——の分層の發達著しきが如き、わが國の東部の特徴を明かに反映せる農業地方であつたのである。(註)

(註) 西部シベリアの農村に於ける社會・經濟的關係の更に明瞭なる分化状態の表出に關しては、經濟學的著述の中に一般に認められたる指摘が存在してゐる。例へば、雜誌『農業戰線にて』一九二九年第三號所掲、リフキンド述『農民經濟の社會經濟地理』を見よ。

レーニンは、西部シベリアをも含めたるソ聯邦の若干の地方に關し、既に一九二一年、すなはち戰時共產主義時代の直後、經濟工作が漸く端緒に就き始めたる時に當つて、特に次の如くに強調したのである。曰く、『ロシヤ社會主義聯邦ソウエト共和國の地圖を眺めよ。ヴォログダの北方、ドン・ロストフ及びサラトフの東南方、オレンブルグ及びオムスクの南方、トムスクの北方、(傍點筆者)には、廣袤窮まりない地域が連なつてをり、以て數十の大なる文明國を容れるに足るであらう。然るにこれら全地域にわたつて、族長制度や、半野蠻や、正銘の野蠻やが支配してゐるのである』。(註)

(註) 著作集、第六版、三三八頁。

先づ手初めに、この『半野蠻』と『正銘の野蠻』を勦滅することが急務であつた。而して既に新經濟政策時代の初期に、本地方が國內戰爭及び經濟的全般的崩壞の結果として蒙れる創夷より癒えて、假令その規模は極めて小な

りとも兎も角も資本主義の遺産たる産業を復興し、崩壞せる農業、運輸及びその他の國民經濟の諸部門を興した當時に於て、叙上の野蠻勦滅の業は相當の程度まで實行せられた(或ひは兎も角も準備せられた)のであつた。

次に、既に述べたる如き一層顯著なる技術・經濟的の立後れに鑑み、建設事業の全般に亘つて一段と昂められたるテムボを確保する必要があつた。然らざれば、『最近十年間の内に技術・經濟方面に於いて、先進資本主義諸國に追ひつき且つ追ひ越す』といふスローガン實現のための闘ひに於いて、本地は他の後塵を拜さざるを得ぬであらうからである。

また最後に、ソ聯邦の他の多数の地方に比して一層顯著に本地方に現はれざる困難をば、克服しなければならなかつた。これは現今なほ克服の必要に迫られてをるものであるが、その困難は他でもない、階級闘争の事情よりして特に農村に於て發生する所のものであり、就中、全面的の集團農業化の實施に際しての困難、及び階級としての富農階級の清算に際しての困難がこれである。

而も看過すべからざる事は、叙上の諸課題を解決し、建設事業の急テムボを確保すべき時に當つて、本地方が種々の惡條件に圍繞せられなければならなかつた事である。即ち之を農業の分野に觀るも、一九二九年より一九三一年に亘り殆んど連年に及んだ早魃の結果として現はれたる凶作の如き、幾多の惡條件に遭遇し、且つ之を克服しなければならなかつたのである。

事情上記の如くであつたにも拘らず本地方はその課せられたる經濟・政治的諸課題をその根本に於て果たし、經濟

的建設の戦線に於いて顯著なる成功を収めたのである。而してその成功たるや、實に國民經濟の社會・技術的再建設の問題の實踐的解決により齎されたものであつた。

二

一九三一年に於ては、西部シベリア地方の新規の工業的企業の少なからざる部分は、或ひは未だ建設中に屬するか、或ひはそれら企業が漸く部分的に經營を開始したるか、或ひは年末に至り開業の運びに至りたるか、その孰れかの状態にあり、従つてその全生産能力を擧げて生産をなしてゐた譯ではない。

然るに拘らず、工業經濟上の最重要部分たる規格工業（譯註、定期の統計的検査を受くべき工業）に於て、その生産量の動勢は、第一次五箇年計畫の中既に経過せる三年間に就いて之を観るに、ソ聯邦よりもテムボの高度なる伸長を示してゐるのである。すなはち今一九二八年をば、五箇年計畫の第一年に先行する基礎的年度と看做せば、西部シベリア地方の總生産高の伸長の動勢はソ聯邦のそれとの比較は次の如くである。（註一）

（註一）ここに掲ぐるソ聯邦に關する計數及び以下總べての計數比較の場合に用ふる數字は、ソ聯邦國民經濟調査中央管理部の印行に係る統計便覽、『ソ聯邦の國民經濟』（一九三二年版）に據るか、又はそれより算出したものである。以下吾人は、生産高に對しては一九三〇年の價格を用ふることにするが、然し國民經濟調査中央管理部の適用してゐるのは一九二六—二七年度の價格であるから、ソ聯邦の産業の數字と比較對照する場合には、それと同じ價格に依ることにする。

規格工業の總生産高の動勢（一九二八年に對す百分比）

ソ 聯 邦	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
西部シベリア地方	一一四・二 一一三・六	一五六・〇 一七五・一	一八九・一 二五三・三

即ち五箇年計畫第一年に於ける伸長のテムボは、ソ聯邦に比し幾分の遜色があるが、續く二年間に於ては著しき伸長を示し、ソ聯邦の指數を凌駕してゐる。且つ又、第一年に認めらるる伸長の立後には、全く需要に應ずる物資の生産工業に於いて劣れるが爲に現はれたものであり、現に生産に要する材料の生産工業に於いては、既にこの年でもその生産量の伸長テムボは、ソ聯邦の總計に比して高度を示してゐるのである。

總 生産高の動勢（一九二八年に對する百分比）

ソ 聯 邦 西部シベリア地方	工業 A 類 (註二)		工業 B 類 (註二)	
	一九二九年	一九三〇年	一九二九年	一九三〇年
	一一四・〇 一四一・八	一七九・〇 二四一・八	一一五・八 三一九・八	一四五・一 一九七・三

（註二）工業 A 類とは生産に要する材料を生産する工業、B 類とは需要に應ずる物資を生産する工業。（譯註。即ち前者は吾國でいふ『重工業』の概念に、後者は『輕工業』の概念に夫々該當す）

改めて言ふまでもなく、『(一)工業の發達のテムボをその發達の水準に混同すべからず。(二)吾人は吾人の工業の發達水準といふ意味に於いては、先進資本主義諸國に頗る後れてをり。(三)ただ今後に於ける吾國工業の發達テムボの促進といふ一事が、技術・經濟的方面に於いて吾人をして先進資本主義諸國に追いつき且つ之を追ひ抜くことを得せしむるものであり。(四)吾國工業の發達テムボは低下せしむる必要あるなきの言をなす人々は社會主義の敵であり、吾人の階級的仇敵の走狗である。』(スターリン)(註三)

(註三) 全ソ聯邦共產黨(ボリシエダイク)第十六回總會速記録、二八頁。

この言葉は就中西部シベリアには一層當るものであるが、特に東部に於ける採炭・冶金業の根據地の創設に着手しウラル・クズネツク鑛業合同の建設に着手し、乃至動力その他の本地方の原料的資源の廣大なる規模に於ける開發に着手したことを見れば、思半ばに過ぎるものがあらう。西部シベリアに於ける工業の發達を更に急テムボならしむるこゝが、なほその上に就中、吾國の生産力の新たなる割當ていふこゝに依りても指令せられて居る。蓋し吾人も亦、ソ聯邦内の新らしき諸地方を工業生産の途に引入れるこゝの問題の遂行に參じ、また吾國に新たなる工業中心地を作るこゝの問題の遂行にも參じてゐるからである。

既に前述せるが如く、西部シベリアはその最近の歴史的過程に於いて、ロシア資本主義の植民地であつた。國民經濟の社會・技術的再建設に捧げられたる數年間に、ソ聯邦並びに全國の勞働階級の支援の下に、本地方はその工業化の途に益々急テムボの伸展を示して新くて次第にソ聯邦の工業界に重きを成し始めたのである。特にこの事實

は、生産の最も重要な若干の部分(例せば採炭)に就いて顯著である。即ち一九二八年には、ソ聯邦の規模工業の總生産高(價格による)中に西部シベリアの占むる比重は一・三%であり、翌一九二九年にも同一水準にあつたものが、一九三〇年よりは若干の急轉を示して比重は一・五%に上り、一九三一年には、決して大なりとは言へぬまでも兎も角も比重の上昇を示して、一・六%に達した。

更にソ聯邦規格工業の總生産高中に西部シベリアの示す比重上昇の跡を、重工業の分野に於て觀れば、その進展は一層顯著であり、以てこの事實の國民經濟的重要性を加重するものである。

ソ聯邦の規格工業に於ける西部シベリア地方の比重 (價格による百分比)

工業種類	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
工業 A 類	一・〇	一・一	一・三	一・五
工業 B 類	一・六	一・五	一・六	一・八

次に工業の主要部門の個々につきて見れば、西部シベリアは更に顯著なる役割を占めてゐる。即ち採炭(註)に就いて西部シベリア地方が全ソ聯邦の採炭中に占むる比重は、一九三〇年及び一九二九年の八・二%、一九二八年の七・四%に對して、一九三二年には一〇・四%であつた。

また發電の如き工業部門に就いて見るに、西部シベリアは一九二八年には僅々その比重〇・三%に過ぎざりしも

のが、翌一九二九年には急轉してその比重は一舉に四・四%に、上り一九三〇年には更に五・一%に、又一九三一年には五・四に及んだ。

(註) 産業の各部門別に見る場合、ソ聯邦の總計中に占むる西部シベリアの比重は、凡ゆる場合を通じて現物による(Natural) precisionによる) 計數である。

言ふ迄もなく、本地方の示した動力經濟に於ける進歩は、未だ不充分なるを免かれない。近き將來に於いて、クズネットク發電所、ケメロフスク發電所及びノヴォシビルスク左岸發電兼熱源供給所のごとき、幾多の國營地方發電所、供給所の建設事業の完成を見た曉には、發電事業に於ける西部シベリアの役割は勿論増大するであらうが、發達し行く工業經濟の需要並びに巨大なる社會主義的農産業の需要に應ずべき新發電所建設の課題こそは、最近の見透しの中でも最も現實的問題たるを失はない。

建設事業に要する物資の供給に關聯せる生産の分野——即ち煉瓦及び挽材等の生産に於ては、西部シベリアの規格工業は一九二八年に比し増大を見てをり、即ち煉瓦の場合には殆ん九倍に達し、挽材の場合には四倍以上に達して居るが、而もこれらの生産がソ聯邦の指數中に示す比重に至つては目下のところ依然微々たるものであり且つ本地方自身の需要をすら満たすに足りないのである。

ソ聯邦の總計に於ける西部シベリア地方の査定工業の比重

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
煉瓦	二・二	二・三	三・五	(ソ聯邦の計數なし)
セメント	一・四	一・七	一・九	一・九
挽材	一・四	二・三	三・〇	三・七

次に西部シベリア地方の農業の分野についてその最も重要な項目を観るに、その生産量の伸長のテムポは相當の指數を示してゐるから、而も之をソ聯邦の總計にはするべき比幾分遅れを、こゝは否み得ない。即ち播種面積の如き農産業の最も重要な項目の動勢については、一九二八年に比し次の如き計數を得るのである。

播種面積の増減 (一九二八年に對する百分比)

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
一、總面積	一〇四・八	一〇八・二	一一〇・八
西部シベリア地方	一一二・五	八七・〇	一〇九・〇
ソ聯邦	一〇四・二	一〇七・〇	一一三・三

西部シベリア地方要覽

10

西部シベリア地方	110.4	工業作物	83.7	103.8
ソ 聯 邦	102.2		111.0	163.0
西部シベリア地方	139.1		119.6	164.5

五箇年計畫第一年にあつては、播種割合伸長テムボに於いて、西部シベリア地方はソ聯邦の指數を抜いてゐたのである。即ち播種總面積に於いても、粒穀類の播種面積に於いても、然りであり、特に工業作物の播種に於ては一層著しかつた。然るに続く二年にあつては、就中一九三〇年に於て、動勢の性質は變化を來たし、西部シベリアはソ聯邦の指數の下位に趨き始めてゐる。而してこれは偶然の現象ではないのである。

一九二九年の伸長テムボに於て、西部シベリアがソ聯邦指數に勝つてをたのは、その前年一九二八年に當地は非常な豊作を見、その影響が翌一九二九年の生産の増大の指數となつて現はれたのであつたことは疑を容れない。之に反し一九二九年には、本地方の西南部及び部分的には東部地帯を大旱魃が見舞ひ、その結果は播種耕地の凡ゆる農作物の大凶作を來し、これが一九三〇年に於ける生産の伸長に一定の制限を齎したのである。而してこの制限たるや極めて顯著なるものがあつて、その結果は一九二八年に比し播種耕地の減少を來し、この播種耕地の減少は、一九三〇年の比較的良好的な作を待つて、一九三一年に入りてはじめて矯正することが出來たのである。

上記の如き凶作の諸條件下に於て農産を一定の水準に維持し、或ひは之を擴張せんが爲の闘ひは、一方更に農村に於ける階級闘争の激化に伴ひ、愈々尖鋭化し、又尖鋭化せざるを得なかつた。即ちそれは階級的仇敵たる富農より來る抵抗であり、直接的の害毒である。農民中の根本大衆たる農村の貧・中農の間に、農業の社會主義的形態すなはち集團農業化のための運動が發展し行く時に當つて、富農は凶作によつて生じたる幾多の困難を利用して之を逆用したのである。

そこで富農をば經濟的にも政治的にも撃破し、依つて以て本地方の農業の産量を維持するのみならず、更に之を擴大することが、吾人の課題となつた。シベリアの諸條件に鑑みるべき、この課題たるや頗る責任重大なるものがあつたのである。農村の資本主義的諸分子は一九二九年に於いてすら、即ち一九二八年の穀物供給準備に當つて罷業を企てんとして富農が撃破せられたる後に於いてすら、なほ農産業上に相當鞏固なる地歩を依然として占めてゐたのである。

既に一九三〇年に、吾人はシベリアに就いて、農村の諸階級的グループの個々が有する比重に關する概算を試みた。その結果に依るに、小資本主義的農場は一九二九年の穀物の播種耕地に於いて、一一・八%を占めることが判明した。且つそれは既に彼等が一九二七年に比し穀物播種耕地による生産量を二一%方低下し、その比重をば一九二七年の一五・二%より上記の水準にまで減じた時であつたのである。(註)

(註) 富農農場の穀類播種耕地に於ける比重の計數は、疆境界によるシベリア地方に對するものである。東部シベリアに比し富農の分層作用の一層顯著なりし西部シベリアにあつては、以上の數字は固より幾分大である。



五箇年計畫第一年に於ける農產業中に社會主義的部門の占める持分は、この年の後半より貧農及び中農の集團農  
業的大衆運動の擡頭を見たるにも拘らず、さほゞ顯著ではなく未だ農村の小資本主義的グループの生産にも及ばな  
かつた。

西部シベリア地方の農業中に社會主義的部門の占める比重 (百分比)

	全播種面積の中			穀類播種面積の中		
	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年
一、國營農場	〇・五	〇・七	四・三	一〇・六	〇・四	四・二
二、公共施設及び社會團體	一・二	一・七	二・三	一・二	一・八	二・四
三、集團農場の社會主義化播種地	一・九	六・〇	二八・〇	六〇・五	六・〇	二七・八
四、集團農夫の播種地の非社會主義化部分	〇・四	〇・二	〇・四	一・〇	〇・二	〇・二
社會主義部門の總計	四・〇	八・六	三五・〇	七四・三	三八	三四・六
					八・六	七四・三

此の如く一九二九年には、社會主義的部分の比率は、集團農場員の播種中非社會主義化部分、即ち社會主義的部  
分の支配外にありて、唯恰もその間接的影響の範圍内にある如き部分——をも含めて、尙富農の播種地の二一・八  
%に對し、八・六%を越えざる状態にあつたのである。一九三〇年には、先づ第一に國營農場建設の進展に於いて、  
第二に貧、中農農場の大衆的集團農場化に於いて、従つては會社主義的全部分の伸長に於いて、巨大なる進展が生

じたのである。

社會的再建設のかの急轉ミ決定的なる進展、及びその結果たる農產業の技術的再建設のお蔭を以て、はじめて本  
地方の農產業を維持し得たのみならず、更に之を發展せしむるこゝを得たのみならず、更に之を發展せしむるこゝ  
を得たのであつた。若しそれが無かつたミすれば、錯綜せる諸條件の下にあつた本地方の農產業は、假令退歩の憂  
はないにせよ、所詮はソ聯邦の農產業の指數の進展動勢に著しき遅れを取らねばならぬ懼れがあつたのである。今  
假りに、個人農的農場に於ける農產業の規模が、最近數年間に於てその比較指數の上に減少を示し、集團農場に於  
ては逆に増大を示すミいふ事實をミつて見るも、この間の消息は一見明瞭なるものがある。即ち個人農的部門に於  
ては一農場當り平均、一九三〇年には三・五五ヘクタールを播種し、一九三一年には二・九七ヘクタールを播種した  
るに對し、集團農場部門に於ける一農場當りの平均播種面積は、一九三〇年には六・九九ヘクタール、一九三一年  
には七・二〇ヘクタールに達してゐるのである。農場の集團化が農場の收穫高を増大したるこゝに就ては今更之を  
説かざる迄も、集團農場に於てはその個人農的部門に於ける收穫高を低下してなほ、この收穫高は爾後愈々伸長を  
見たのである。

既に見たる如く、西部シベリア地方に於ける播種地の伸長はソ聯邦の指數に比し後れを示したのであつて見れば  
それだけ本地方が吾國の播種耕地中に占むる比重は、若干の低下或ひは定着を(工業作物の分野に於て)示して居  
る譯である。

ソ聯邦の播種面積に於ける西部シベリア地方の比重 (百分比)

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
全播種地	六・五	七・〇	五・二	五・八
穀類播種地	七・三	七・五	五・七	五・七
工業作物播種地	三・四	四・六	五・七	三・四

三

本地方の工業化に就き、國民經濟的産業の動勢に就き、社會的諸部門別および經濟諸部別に見たるこの動勢の趨向に就き、更にはこれら諸部門相互間の相對關係に就いて、概念を得んがため、工業、建築、林業、農業、漁業、獸獵を包含する國民經濟の最も重要な諸部門の總生産高に關する資料を、下に掲げることとする。

動勢を決定する爲に總生産高の大小に就いて計算を行ふに際しては、通常一九二六——二七年度の不變價格によりて之を取扱つてゐる。然しながら一九二六——二七年度の價格は、その後國民經濟に生じたる進展を反映しをらず又反映し能はざるものであるが故に、かゝる根據は既に舊式である。殊に一九二六——二七年度以後に於ては新しき産業の出現を見、且つそれら新産業による新複品の出現を見たのであるが、それらは一九二六——二七年度の

價格を以てしては計ることが出來ぬのである。この故を以て吾人の計數に於いては、一九三〇年の不變價格、すなはち今日により近き價格を、あらゆる年に對して適用することにした。

ここに是非も斷つて置かねばならぬことは、總生産高の大小を示す指數は國民經濟的産業の規模に關する概念を與へるものではあるけれど、經濟諸部門の悉くに互り總括を試みるに際し、他の經濟部門より持越されたる勞働損失をば重複することになる事である。(例へば、今或る農産物が加工のため工業に移されたりせんに、原料の價格は農産物の總生産高の評価中にも入り得、また工業生産品の總生産高中にも入り得るのである)であるから、總生産高のみを計算せずに純生産高をも計算し、然るのちに國民所得の指數の計算を扱ふのが至當であるが、現下の研究段階にあつては吾人はこの種の計數を有せず、従つて總生産高のみを利用するの餘儀なきにあるのである。この後者の指數が、國民經濟的産業に生じたる進展を闡明する上に頗る重大な地位を占むることは、茲に改めて申すまでもない。

西部シベリア地方の國民經濟主要諸部門の總生産高 (單位百萬留、一九三〇年の價格による)

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
一、工業	三九九・六	三三四・四	四七七・二	五六四・六	九七五・二
二、建築 (註)	九九・〇	一二四・六	三〇〇・九	四八〇・〇	八一三・三

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
三、農	九四二・五	七〇一・一	八二六・六	五八八・一
四、林	二二五・五	三〇・九	五六・五	七八・九
五、漁業及獸	七・三	九・四	一一・四	二〇・六
全部門總計	一四七一・九	一三〇〇・四	一六七三・六	一七三三・二
				二九一五・二

(註) 或る種の經濟にあつては、建築の總生産高中には既に完工して其年内に使用を開始せる部分のみを算入してゐる。吾人はこれを不當なりと考へ、工業に於ける半製品の場合と同様にして、未完工のものを含めたる建築全部を算入する。

茲に注意すべきは、上掲の數字中には、該經濟が如何なる法定資格を有するかを問はず、如何なる産業的方向を有するかを問はず、凡ての經濟部門を含めて、列擧せる部門につきその經濟の全容量を包蔵せしめてゐる。例へば工業の項に示されたのは、本地方所屬の大工業(規格工業)は固より、手工業をも含めたる小工業を併せたる總計である。また建築の項には、管に工場建築を含ませたのみならず、公營建造物、住宅建築、農業建造物運輸用建造物等をも含ませて居る。

上に列擧せる國民經濟の主要諸部門を全體として見れば、その生産の逐年的伸長は一目瞭然である。その經過を一望に收めんが爲には、次表を示すことが出來よう。即ちこれは、總生産高の消長の、第一次五箇年計畫に先立つ年(一九二八年)に對する百分比を算出したものである。

西部シベリア地方の國民經濟主要諸部門の總生産高の動勢 (一九二八年に對する百分比)

國民經濟部門別	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
一、工	一〇八・七	一一九・四	一四一・三	二四四・〇
二、建	一二五・九	三三三・八	四八五・〇	八二五・〇
三、農	七四・五	八七・九	六一・五	一〇〇・二
四、林	一一一・五	二四〇・二	三三六・〇	七〇〇・〇
五、漁業及び獸	一一八・八	一七〇・〇	二八二・〇	二六〇・〇
全部門總計	八八・二	一一四・〇	一一七・〇	一九八・〇

發達は建築に於て最も活潑であり、工業これに次いでゐるが、かゝる發展の方針は一九三二年の計畫にも反映してゐる。而してこれは、本地方の天然資源の獲得のための工業根據地の準備工作、就中、ウラル・クズネツク鐵業合同の諸企業の建設の進展を見れば、まことに當然のこゝみである。

建築に於ける發展テンポの最も著しき急轉は、一九三〇年に當つてゐる。この年に至る迄の投資の最重要部分は主として既存企業の擴張及び再建設の方面に向けられてゐたのである。即ち一九二八—二九年度に於ては、舊企業の再建設及び擴張に投ぜられたる資金は總資金の七八%を占め、一九三〇年にはその比重は二七・二%に低下し更に一九三一年には一八%に低下し、又一九三二年の計畫には僅々六・二%を當てられてゐるに過ぎない(註)

(註) 建築への投資の比重に關する計數は、地方計畫本部集計課部の資料に據る。

重工業の最も重要な諸企業、及びその他の主要なる建設にして、既に一九二九年にその建設事業が種々の程度に於いて開始せられをり、又はその建設に着手せられたるものとしては、次の如きものを擧げることが出来る。

(一) 冶金巨人工場。——これはノヴォクズネツク所在の工場で、『クズネツクストロイ』なる名稱を以て知られる。その起工は一九二九年六月であつた。本工場の最重要部は一九三〇年を通じて工を進められたが、就中一九三一年を主とする。一九三二年第一・四半期には、本工場は既に一部分その操業に着手した。この巨人工場の建設完了は一九三三年第二四半期に期待せられてゐる。總建設費は(コークス化学綜合工場を除き)四億六千百万留である。計畫による生産能力は一箇年に、鉄鐵一、二〇〇、〇〇〇噸、鋼一、四五〇、〇〇〇噸、鋼材一、三二〇、〇〇〇噸である。

(二) ベーロフスキヤ鉛工場。——一部分は既に一九三一年に操作を開始した。一九三二年にはその完工を見同年にその全生産能力を擧げて活動を開始する筈である。本工場の總工費は二千三百七十萬留である。全生産能力は年額、亞鉛二〇、〇〇〇噸。

(三) アンジエロ・ストジェンカの炭坑、第十五號及び第十五B號。——これは一九三三年には一部の採炭を開始する筈である。建設總経費は一千三百万留。全生産能力は年額石炭二、一〇〇、〇〇〇噸。

プロコピエフスクの第五、六號炭坑。既に一九三一年に採炭開始。投資總額七百六十萬留。年産額石炭一、六〇〇、〇〇〇噸。

プロコピエフスクのコークス坑第一號。——その一部は一九三三年に操業開始の豫定。建設總経費一千六百万留。計畫年産額、石炭三、三〇〇、〇〇〇噸。

(四) クズネツク——ムンドイバシ間の鐵道路線。その一部は既に一九二六年に着工せられた。主要部分は一九三二年の建設に係る。一九三二年三月、カンダレフ驛まで開通を見、残部は一九三二年中に開通した。本路線はクズネツク冶金工場を、チンメルタウ地方に散在する鐵礦山を結ぶものである。ムンドイバシよりチンメルタウまでは、鐵礦を本線に送達するため特に支線の設け(十九杆)がある。

本路線の總建設費は(支線を除き)二千九百万留。總延長九一杆。

(五) トムスク——クセニエフカ間の鐵道路線。一九三二年に建設を完了する筈。建設費總額一千五十一萬三千留。延長九五杆。

一九二九年に建設を開始せられたるものにして、日用必需品の生産に従ふ重要企業の中には、アレイスク製糖工場を擧げるべきである。同工場は一九三一年に操業を開始した。建設に要せし總投資額は一千百万留。全生産能力は、粉砂糖一六二、〇〇〇噸。

同工場の意義は極めて大である。即ち同工場はシベリアとしては全く新たなる生産部門の發達の基礎を置いたものであり、併せてまた甜菜といふ農産物中の新たなる工業作物をは根付かしむるための基礎を置いたものである。次に一九三〇年には、次の如き諸建設事業が開始せられた。

(一) ノ、ウ、オ、シ、ビ、ル、ス、ク、の、農、業、機、械、製、作、工、場、——「シ、ブ、コ、ン、バ、イ、ン」。本工場のうち個々の専門工場の幾つかは一九三一年に操業を開始した。その第一次操業開始は一九三三年第一四半期の豫定である。總建設費一億百萬留その全生産能力に於ける年産額は、合成式刈取機一五、〇〇〇臺、乾草刈取機三〇、〇〇〇臺、播種機三六、〇〇〇臺。

(二) ケ、メ、ロ、ウ、オ、綜、合、工、場。一九三三年完工の豫定。總建設費四千九百三十八萬留。その全生産能力に於ける年産額は、亜鉛一〇〇、〇〇〇噸、鉛一八、〇〇〇噸、硫酸二〇〇、〇〇〇噸。

(三) ハ、ウ、オ、・ク、ス、ネ、ツ、ク、の、コ、ー、ク、ス、化、學、綜、合、工、場。一九三二年完工の豫定。總建設費三千八百八十萬留。その全生産能力に於ける年産額は、コークス一、二〇〇、〇〇〇噸。

(四) ケ、メ、ロ、フ、ス、ク、コ、ー、ク、ス、化、學、綜、合、工、場。コークス・バッテリー (Coke-battery) 三臺は一九三〇年より操作開始。その生産は一九三〇年にはコークス二九九、〇〇〇噸及び化學製品二百八十萬八千留。一九三一年にはコークス三〇四、八〇〇噸及び化學製品二百五十一萬六千七百留。一九三二年には更にコークス年産能力五五六、〇〇〇噸の新工場を建設中にして、これに要する總建設費は三千七百八十萬留である。この工場の第一バッテリーは一九三二年に操業開始の豫定。

(五) 石、炭、採、掘、工、業、に、し、て、一、九、三、〇、年、に、建、設、を、開、始、せ、る、中、の、主、要、な、る、も、の、。

名	稱	所 在 地	總經費(單位百萬留)	計 畫 年 産 能 力 (單位千噸)	完 成 年 度 又 は 一 部 操 業 開 始 年 度
A	堅 坑	レ ニ ン ス ク	三・七	六〇〇	一九三二
	ノヴォ・ジュリンスク堅坑	同	二・五	四二〇	一九三二
	大 堅 坑 第 二 號	同	九・〇	一五〇〇	一九三三
	大 堅 坑 第 三 號	同	二〇・〇	四〇〇〇	一九三四
	八 堅 坑 (再)	プロコビエフスク	二・五	二五〇	一九三一
	第 十 號 堅 坑	同	三・七	七〇〇	一九三一
	第 三 號 堅 坑 (再)	同	七・〇	一〇〇〇	一九三一
	中 央 水 平 坑	アラリチエヴォ	三・七	七五〇	一九三一
	中 央 水 平 坑	オシノーフカ	二・九	六〇〇	一九三三

(六) 鐵、道、建、設。ノヴォシビルスク——レニンスク間の鐵道新路線は、延長二九五軒にして、既に一九三二年二月に貨物輸送を開始した。本路線は最短路を以てクズネツク炭田ミノヴォシビルスクを結び、クズネツク炭田の生産物を鐵道幹線に出だし、又はオビ河の水路に出だすための、鐵道に依る第二の出口をなすものである。本路線建設完成期は一九三三年になるべく、その總投資額は九千四百十二萬留にして、内六百三十萬留はオビ河に架せらるる鐵道用第二鐵橋の建設に費される。本鐵橋の主要部は既に完工され、貨物の輸送が行はれてゐる。

一九三一年に建設を開始したる重工業の諸企業中の顯著なるものを挙げれば次の如くである。――  
 (一) ノヴォシビルスク市の鑛山機械製造工場。本工場はクズネツク炭田に於て發達しつつある炭鑛業の機械化を保障すべきものである。その第一次操業開始は一九三三年第一四半期の豫定。投資總額八千五百萬留。計畫年産能力は、鑛業用諸機械類一〇〇、〇〇〇噸である。

(二) チェルノレチエンスクセメント工場。(本地方はベルドスタク地区にあり、ノヴォシビルスクを距る三〇軒)。建設完工は一九三三年。總投資額七百七十萬留。計畫年産能力セメント一六、〇〇〇噸。

(三) 曹達工場。(クルンチンスク草原、ミハイロフスコエ湖にあり)。一九三二年完工の豫定。總經費五百六十五萬留。計畫年産能力、曹達四〇、〇〇〇噸。

(四) 石炭採掘工業にして、一九三一年に建設を開始せる中の主要なるもの。――

名	稱	所在地	總經費(單位百萬留)	計畫年産能力(單位石炭千噸)	完成年度又は一部操業開始年度
シチエグロフ	堅坑	ケメロヴゾオ	七・五〇	一五〇〇	一九三四
堅坑第七號	(再)	プロコビエフスタ	五・二五	一五〇〇	一九三三
堅坑第七、八、九號		同	二・一〇	六五〇〇	一九三四
大堅坑		アラリチエヴゾオ	九・〇〇	一五〇〇	一九三三
エルバンスタ	堅坑	オシノーフカ	二・一〇	六〇〇	一九三二

大	堅坑	同	三〇〇	二〇〇〇	一九三四
---	----	---	-----	------	------

(五) 鐵道建設。アンジェルカ―ケメロヴゾオ間の鐵道路線の建設。この延長一一五軒。總投資額二千七十萬留。一九三三年に一部開通の豫定。本路線は、生産物をバルサスを経由してシベリア鐵道幹路に搬出する直線路として重大なる意義を有する。

ウシヤトイ―クズネツク間の鐵道路線の建設。その延長三七・五軒。

アチンスク―マクラコヴゾオ間の鐵道も建設に着手。その延長二九〇軒。

オムクス市に於けるイルトイシ河鐵道用第二鐵橋も建設を開始した。總工費三百十二萬九千留。その一部使用開始は一九三三年。

農業は、前掲の數字を以つて見ても明かなる如く總産出高に於いて低下を示したが、これには各年の凶作の條件が與かつて力があつたのであることは、既に説明した通りである。たゞこゝでは、凶作の條件が播種面積の如き要素の量的指數の伸長テンポにさへ影響を及ぼした以上、生産高に及ぼしたるその影響は勿論一層甚大であつたことを力説し置くにこゝめやう。

農産物の總生産高の大小に反映せる素因としては、作柄の如何に他に、殊に一九三一年に於て今一つの素因があつた。それは即ち、貧中農場の集團農場化に關して或る種の黨機關が偏倚的誤謬を犯した際に當つて(因みにそ

の誤謬は黨の主要方針に逆行するものであつたが、その後に至りボリシェヴィキ的決斷を徹底性を以つて矯正せられたのである。富農の煽動行爲も、及び農村に於ける富農的分子が流す直接的害毒に影響せられて、一九二九年末、及び周知の如く特に一九三〇年第一四半期に於て、畜産業の一部に大屠殺ミダンピングが行はれた事これである。その結果はその後の畜産業の生産高に反映し、現在なほその生産物の消費を節約せねばならぬ状態にあるが、近き將來に於て畜産業の社會主義的形態の上に立つて、畜産業の再興向上に向つて大轉換を行ふ見込である。現に例へば最近數年間に西部シベリアに相當多數の建設を見、且つ多量の頭數を擁する國營畜産農場の如き、また、その建設に於て西部シベリアがソ聯邦中に先驅的地位を占むる畜産商品集團農場の如き、社會主義的畜産に強力なる挺子の役目を演ずべきものの出現を見、かくて上記大轉換のための必須の前提は今や悉く保障せられてゐる。(本地方の畜産に於ける社會主義的形態については「農業」の項を参照せよ)。

斯く工業生産高と農業生産高との間に見らるる不均衡をば根絶すべき不可欠の大轉換は、既に一九三二年の計畫に組み込まれてゐる。而して今日(最近數年間に)すでに置かれざる基礎に加ふるに、農業の機械的裝備材料の製造に従事する工業の發達あり、またそれら企業にして練業を開始するあり、これ等は相寄つて、近き將來の見透しに於ける農産業の廣大なる發達を保證すべき條件をなすものである。しかも農業の社會的基礎の改造の問題は既にその根幹の解決を見てゐるのであつて見れば(本地方全部に就き農民農場の集團化は、平均一九三二年二月十五日現在五八・七%に達し、而も本地方の多數地區にあつてはこの百分比は更に大である)、本地方の農業が既に大なる

生産能力を發揮すべき新らしき社會主義的形態の大道に踏み出したことは疑なき所であるから、上記の見透しは決して机上の空論ではないのである。

林業は猛烈なる發展テムボを示したけれど、そのテムボを以てしてなほ西部シベリアに於ては不充分である。何となれば本地方の主要なる森林資源の著しき部分は、或は未だ全く産業的開發を見をらざるか、或はその開發微弱なるか、孰れかであり、而も一方、工場、住宅、公營造物、その他の建築物のめざましき發達に伴ひ、本地方の森林資源の獲得は、その輸出に向けらるる否に關せず、既に現地に於て莫大なる需要に當面してゐるのである。

森林地帯に到る鐵道路線及び支線の擴張は、近き將來に於て林業の産業的獲得が一段促進せられ得る見透しを與ふるものである。漁業及び獸獵に關しては、一九三二年の計畫中に次の如き方針が掲げられてゐる。即ち、漁業の總生産高の伸長は一九三一年の三百二十萬留に對し一九三二年には五百萬留へ(五七・三%の増加)。一方獸獵の生産高に於ては低下が豫想せられをり、即ち一九三一年の一千七百四十萬留に對し一九三二年の計畫は一千四百萬留である(一九・七%の低下)。獸獵業に於けるこの生産高の低下の理由としては、或ひは或る種の毛皮獸に就いてその原料根據地が疲弊し、従つて將來に於て一層擴大せられたる再興を保障するため一時獸類屠殺のテムボを差控へる必要、或ひはまた製造諸機關に於て或る種の毛皮獸に就いて原料の蒐集が困難であること(猫、犬その他)を擧げることが出来る。然し乍ら、之を自然指數によつて見れば毛皮獸の生産高は減少を示さず、中の或る種のもの

のに至つては却つて著しき増大を示してゐるのである。  
 總生産高の大小に關する資料に依れば、經濟の種々の部門相互間の關係、及び時に伴へるこの相互關係の變化を  
 跡づけることが出来る。而もこれは實に社會、政治上の大問題であつて、一地方の工業化成績の決定、及び建設途  
 上に於ける發展の方向に關聯するものである。

本地方總生産高中に於ける各部門の總生産高の比重 (百分比)

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	計畫一九三二年
一、工 業	二七・一	三三・四	二八・六	三三・四	三三・四
二、農 業	六四・一	五三・九	四九・五	三三・一	三三・四
三、建 築	六・七	九・六	一七・八	二七・七	二七・九
四、林 業	一・六	二・四	三・四	四・六	五・六
五、漁業及び獸獵	〇・五	〇・七	〇・七	一・二	〇・七
總 計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

工業及び建築は國民經濟的産業に於けるその比重を、逐年増大せしめてゐる。而して、今假りに工業及び農業な  
 る二主要部門に限つて見るにせば、この二部門の總生産高相互間の關係及びこの關係の動勢は、次の如くである。  
 一九二八年には工業生産は總計二九・八%を占め、一九二九年には三八・二%、一九三〇年には三六・六%、一九三一

年には四九・〇%、一九三二年の計畫では五〇・八%を示してゐる。『即ち、これ、工業の比重が既に農業の比重を凌駕  
 し始めたのであり』(スターリン(註一))西部シベリアは農業地方より工業・農業地方に變貌し始めたものである。

(註一) 全ソ聯邦共產黨(ボリシエヴィキ)第十六回總會速記録。

五箇年計畫中すでに經過せる數年間を通じて、國民經濟全般にわたる再興は比較指數に於ても亦遂年の伸長を示  
 してゐる。即ち人口百人に對する國民經濟の總生産高(單位留)は次の如くである。(註二)

(註二) 計數は農村人口と都市人口とを併せたものである。

國民經濟部門	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
一、工 業	五、〇六九	五、三五六	五、九六五	七、一八五	一一、九一七
二、建 築	一、二五六	一、五三六	三、七六二	六、一〇九	九、九三九
三、農 業	一一、九五四	八、六四五	一〇、三三四	七、四八六	一一、五二八
四、林 業	二九八	三二二	七〇六	一、〇〇四	二、〇〇七
五、漁業及び獸獵	九三	一一六	一五五	二六二	三三三
各 部 門 總 計	一八、六七〇	一六、〇三五	二〇、九三二	二二、〇四六	三五、六二三
一九二八年に對する百分比	一〇〇・〇	八五・八	一一二・〇	一一八・一	一九〇・八

以上の指數の意義は勿論暫定的のものであるが、而もまた、概數的間接的の形に於て或る程度まで本地方居住大



衆全部の勞働生産能力の水準を示すものである。

上述の如き國民經濟發展のテムボミ方向ミを以て、本地方が第一次五ヶ年計畫のプランの遂行に於て遂げたる達成は、次の如き計數によつて要約せられる。

國營の査定工業は、過去三年間に五ヶ年計畫の八四% (註) を遂行し、工業の主要部門たる石炭について之を見れば、八五・〇%なる (五ヶ年計畫最終年に於ける六、〇〇〇、〇〇〇噸に對して五、五四四、〇〇〇噸)。

(註) シベリア地方に對する五ヶ年計畫はその以前の境界に基いて編成せられた。計畫中西部シベリアに割當てられたる部分の算出は、西部シベリア地方計畫本部集成計畫部が之を行つた。五ヶ年計畫の遂行に關する計算も同部の手によつて行はれた。一般的に吾人の論文中の五ヶ年計畫遂行に觸れたる部分は、西部シベリア地方計畫本部の作製に係る『第二次五ヶ年計畫のプラン編成の而の豫備的資料』の中、『第一次五ヶ年計畫遂行の總計』の項により編纂したものである。但し若干の省略を之に加へ、且つ時として追補及び變更を加へた。

次に投資に關する五ヶ年計畫に就いては、工業の主要諸部門たる金屬及び石炭に於て、石炭は一二八・五%を遂行し、金屬は一五二・二%を遂行した。

五ヶ年計畫中四年間の投資總額は、右計畫による豫定額が五ヶ年に對し五億五千九百五十萬留であるに對し、十億九千五百九十萬留に達するであらう (一〇三・五%の超過)。

一九三二年に就いて見るに、石炭鑛業への投資額は、計畫による額を超過する (一一七・七%に及びであらう。五ヶ年計畫に依れば、クズネットク炭田には採炭能力三、九七五、〇〇〇噸なる十二本の堅坑を建設すべき豫定であつたのが、一九三一年には既に二十本に及ぶ新堅坑が稼行を開始し、その採炭能力は六、三五八、〇〇〇噸に達してゐる。

前述せるごとく、動力開發事業及びその建設に關しては、本地方は目下のところ遅れてゐる。而してソ聯邦に於ける指數が全國電化國家委員會の第一次計畫の完了を物語るに反して、西部シベリアに於いては當時全國電化國家委員會の計畫により課せられたる課題が果たされてゐない。尤も、全國電化國家委員會の計畫が樹立せられたる以後に於て、西部シベリアの國民經濟に關する認識的資料は著しく廣められ、依つて吾人は、時として全國電化國家委員會の計畫に示されざる地點にすら、電氣施設を建設した場合が少くはないのである。さへ言へ、一般的課題及びその遂行の點檢といふ意味に於て、全國電化國家委員會の計畫が依然有効なることは言ふ迄もないのである。

全國電化國家委員會の計畫によるに、その第一事業として西部シベリアに、次の如き地方發電所の建設が豫定せられてゐた。アルグード發電所 (アルタイ山中規定出力一五〇、〇〇〇KW)。ケメロヴォ發電所、六〇、〇〇〇KW。ゴルロヴォ發電所、六〇、〇〇〇KW。南部 (クズネットク) 發電所、七五、〇〇〇KW。即ち全國電化國家委員會の計畫による第一次の發電所の合計では、規定總出力三四五、〇〇〇KWであつた。

之を實際に就いて見るに、西部シベリアに於て第一次五ヶ年計畫年度内に既に建設を了し、或ひは完成せらるべき地方發電所は、次の通りである。

	第一次五ヶ年計畫の計畫出力 (KW)
ケメロヴォ火力發電所	七二〇〇〇
ノヴォシビルスク左岸國營地方發電所	四八〇〇〇
ノヴォシビルスク右岸國營地方發電所	一一五〇〇
クズネツク發電所	六〇〇〇〇
チェレパノヴォ地方發電所	一一〇〇〇
地方發電所の總計出力	一九二七〇〇

全國電化國家委員會のプランに依れば、出力大なるアルグート發電所（一五〇、〇〇〇KW）をアルタイ山中に建設する計畫であつた。然るにその後に至り、アルタイ山脈の富源獲得の問題は建設の現段階にありては實現不可能なることが判明し、同問題は將來に残されるこゝまなつたのである。この發電所を全國電化國家委員會計算より控除するならば、本地方は第一次五ヶ年計畫中に同委員會の第一次計畫よりアルグート發電所を控除せる數字一九五、〇〇〇KWに對し一九二、七〇〇KWを開發したこゝまになり、即ち課題は略々實行せられた譯である。

ケメロヴォ發電兼熱源供給所は次の五ヶ年計畫に於て更に六二二、〇〇〇KWの出力を増大する豫定である。またノヴォシビルスク左岸發電所は三八五、〇〇〇KWを、クズネツク冶金綜合工場發電所は三五八、〇〇〇KWをそれぞれ増大する豫定である。然るこゝまは、これら諸發電所の規定出力は一、七七七、七〇〇KWに達するこゝまになる。

本地方の工業化に伴ひ、その生産能力の割當てに變化を來たした。例へばクズネツク炭田に於てはアンジゴロプロコビエフクス及びケメロヴォ炭坑地方の比重は低下し、プロコビエフクス及びケメロヴォ炭坑地方の比重は向上した。また從來開發されなかつた炭坑地方にして、新たに開發に着手されたものもある。すなはち、腐泥炭を埋藏するバルザス地方、クズネツク冶金工場のための石炭根據地をなすオシノーフカ、アラリチエヴォ、及びキセリョーヴォの諸炭坑地方である。

ノヴォ・クズネツク工業中心地は、冶金工場、コークス化學綜合工場、及び地方發電所を擁して、急激なる發達を遂げた。

ケメロヴォは化學工業の強大なる地方こゝまなり、ノヴォシビルクスは機械製造業の中心地こゝまなつた。農業の分野に於いては、社會・技術的再建設の方面について巨大なる進歩が見られる。

計畫によれば五ヶ年計畫の終期に於て農場の集團化は一四・五%、播種面積の社會主義化は二〇%を豫定されてゐるが、一九三二年二月十五日現在の狀況によるに既に全農場中五八・七%が集團農場に編入されてゐる。一方播種面積に於ては一九三一年には集團農場の占むる比率は既に六〇・五%であり、一九三二年の計畫にては七九・三%が豫定せられてゐる。

第一次五ヶ年計畫の最終年に對する五ヶ年計畫によるに、本地方の國營農場の播種面積は五ヶ年計畫の終期に於

て三七五、六〇〇ヘクタールに達すべき計畫であつた所、既に一九三一年には國營農場の播種面積は八四四・四ヘクタールであつた。

五ヶ計畫終期に於ける本地方の社會主義的部門の比重は二四％に達せしむべき計畫であつたが、一九三一年には事實上七四・三％を占め、更に一九三一年の計畫によれば九二・五％を占める豫定である。

農業のためのトラクター供給及び一般に機械供給に對しては、五ヶ年全期を通じて一億九千三百萬留の投資が充てられて居つたが、既に一九二九—三二の間にこの目的に投ぜられた資金は二億三千九百萬留である（即ち五ヶ年計畫のプランの遂行を超えること二四％である）。

一九三一年春までは本地方の機械トラクター配給所は七五であつたが、一九三二年一月一日までにはその數は一〇に達した。

五ヶ年計畫にては合成刈取機の使用は全く考慮に加へてなかつたが、本地方に於ては一九三二年に一七九六臺の合成刈取機の活動を見る筈である、（一九三二年に於ける穀類に就いての合成刈取機化の比率は八・八％になるであらう）。

そのみならず農業の他部門に於ても、機械化はひろく實現せられてゐる（機械トラクター配給所、亞麻收穫機等）。

計畫に依れば五ヶ年計畫の全期間を通じて農業に對する投資は五億四千七百二十萬留の豫定であつた。然るに既

に一九三二年末に至る迄には八億七千六百十萬留が投資せられるであらう（即ち計畫に對して一六〇％に達する）。

全ソ聯邦を通じて同様にして本地方にあつても、「第一次五ヶ年計畫の社會主義的建設の最も重要な總決算は、資本主義的分子の完全なる清算及び諸階級の完全なる絶滅を豫決しての、農村に於ける資本主義の根柢の徹底的な爆破である」（全ソ聯邦共產黨（ボリシェヴィキ）第十七回黨會議の決議より）。

第一次五ヶ年計畫の遂行は、勤勞者の文化生活上の條件の向上改善に資する所頗る多大であつた。

食品工業及びひろく需要せらるる物資を製造する輕工業の分野に於ける生産は、五ヶ年計畫の課題を著しく凌駕した。之を最近二ヶ年に就いて見るも、織維工業の生産増大は三倍に達し、食料嗜好品の生産の増大は二倍に達する。本地方に於ける製糖工業の發達は既に端緒を發し（アレイスク工場）、一九三二年には更にその上六個の製糖工場の建設に着手する。

本地方の社會給養に従事する企業の一晝夜の能力は、四五、〇〇〇皿より二、〇一六、〇〇〇皿に増大した。これら企業建設に投ぜられた資金は、五ヶ年計畫中既に経過せる期間を通じて一千五十萬留である。

また周知の次の如き事實も附記して置かう。それは、失業者の清算、婦人勞働の定著の實現及び五ヶ年計畫の既に経過せる期間を通じてこの勞銀の逐年的伸長（本地方に於ける工業主要諸部門に就いて見れば殆んど二倍）である。

本地方の諸市の住宅豫備は、五ヶ年計畫の數年のうちに四五％（即ち一、七六六、〇〇〇平方米）を増大した。

個人商業は殆んど全く驅逐せられた。國營及び消費組合の商業網は、都市に於ては八八四單位より四一一四單位

に、農村各地に於ては四一二五單位より一〇四二五單位に増大した。

## 四

本地方工業經濟の分野に就いて見るに、大工業（資格工場）に於て資本主義的部分は生産中に頗る微弱な比率を占め來つたが（即ち一九二八年及び一九二九年には規格工業の總生産高中〇・一%及び〇・二%）、一九三〇年には社會主義的工業のため全く驅逐された。一方小工業及び手工業にあつては、資本主義的部分がより鞏固な生産的地位を維持したことは言ふ迄もないが、それにせよ一九二九年の調査の計數によるに、假りに二人以上の傭労働者を有する施設を小資本主義的施設の型に算入せば、本地方の私人的所有主による小工業の小資本主義的施設の占むる比率は、その占むる人數に於て總計〇・八五%、總生産高に於て一・〇九である。

一九二九年よりは、小工業の施設物の社會的組成に關する調査を有せず、従つてこの數年については只、小工業の組成内に占むる私營的部分を概算的に區分し得るに過ぎない。勿論言ふ迄もなく、階級としての富農階級清算政策に伴ひ、本地方には就中多數の商品製造業者及び手工業者の殘存を見た。一九三〇年には小工業に於て私營的部分の占むる比率は、總生産高に於て一五・二%であり、一九三一年には七・二%、而して一九三二年には四・六%となる豫想である。

次に一九二八年及び一九二九年の工業全般（小工業をも含めて）の總生産高を見るに、私營的部分は更に一層大

なる數値を有した（これは小工業に負ふ所のものである）。即ち、一九二八年には總生産高の二八・五%、一九二九年には一七・一%である。一九三〇年よりは、非規格工業に於ける小製造者及び手工業者をも包攝する集團化の大量生産過程の伸展に伴ひ、私營的部分の比率は四・八%に減小し、一九三一年には一・六%となり、更に一九三二年には私營的部分の比率は本地方工業の全般を通じて〇・六%となる筈である。

西部シベリア地方の大工業（規格工業）は、前述の如く、第一次五ヶ年計畫の當初あつては主として現地の農産原料の加工に従事する企業（製革業、製粉業、また一部分は製材業等）より成り、當時にあつては小工業及び手工業が總生産高に於て優位を占めてゐた。即ち一九二八年には工業全般の總生産高に於て小・手工業は五三・五%を占めてゐたが、五ヶ年計畫第一年よりは、大工業、殊にその重工業的部門、就中炭鑛業——の生産伸展が益々強化せられ行くに伴ひ、小、手工業が本地方工業經濟中に占むる比率は低下を示し、大工業は直ちに王座に就いたのである。一九二九年には工業の總生産高中に占むる小、手工業の比重は未だ四七・一%を示していたに反し、一九三〇年以降には小、手工業の役割は急轉直下の低下を示し、その占むる比重は次の如き數字になつて現はれてゐる。一九三〇年——三一・八%一九三一年——二二・六%、一九三二年——一三・五%。

西部シベリア地方の工業の總生産高（單位百萬留。一九三〇年の價格による）

大工業（規格工業）	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
	一八五・九	二三九・八	三三五・四	四三七・三	八四三・二

西部シベリア地方要覽

三六

小工業及び手工業	二二三・七	二〇四・六	一五一・八	一二七・三	一三三・〇
總計	三三九・六	四三四・四	四七七・二	五六四・六	九七五・一

第一次五ヶ年計畫に先立つ一九二八年に比較するに、本地方の規格工業の總生産高の増加率は、一九二九年には二三・六%、一九三〇年には七五・一%、一九三一年には一三五・三%、又一九三二年の計畫によれば三五三・六%方の増大を示してゐる。此の如く一九三二年には、規格工業の生産高は一九二八年に比すれば實に四・五倍以上の伸長を示す一方、小工業の總生産高の減小率は、一九二九年に四・三%、一九三〇年に二九%、一九三二年に四〇・四%而して一九三二年には大體三八・二%方の減小である。

上掲の表によれば、一九三二年は一九三一年に比し、小工業の總生産高はその絶對値に於て伸長（大約五百萬留方）を示すことになる。これは手工、産業組合及び廢疾者組合の生産の線に沿ふ現象であつて、これら組合の活動は、大工業殊に重工業の發達と相並んで、『産業組合は、小手工業をば完全に組合的に包摂する主義の上に立つて、一般の需要に應ずべき物資の生産を大いに強化し、また社會主義的工業及び農業の需要を満たす生産部門及び生産品目の伸長を大いに強化』（第十七回黨會議の決議より）する必要あるに伴つて、増大するものである。この方針に應じて、西部シベリア地方の一九三二年のプランには、一九三一年に比し、産業組合の諸企業に就いて、次の如き生産品目の生産増加が計畫せられてゐる。

一九三二年の計畫に依る産業組合及び廢疾者組合の總生産高（一九三一年に對する百分比）

生産部門	産業組合	廢疾者組合
燃料	二七三・七	一三〇・四
金屬	一一三・六	一三〇・〇
化學	八六・三	二九八・九
木材	二二一・五	一四八・七
建築材料	一七一・五	九三・〇
織維製品	一三五・七	一三四・二
衣服及び履物	一〇五・五	四五四・四
文化施設的製品	一八〇・六	三五一・一
家庭必需品	一五一・二	一七六・〇
食料嗜好品	一一六・五	

五ヶ年計畫中既に経過せる數年を通じて、本地方の工業的生産が總生産高に於て如何なる發達を遂げたかは、次の表によつて之を窺ふことが出来る。これはそれぞれその前年との比較に於て、製造高の動勢を示したのである。

工業の總生産高（單位%）

	一九二九年 對一九二八年	一九三〇年 對一九二九年	一九三一年 對一九三〇年	一九三二年計畫 對一九三一年
大工業 (規格工業)	一二三・六	一四一・六	一三四・四	一九二・八
小工業	九五・七	七四・二	八三・九	一〇三・八
總計	一〇八・七	一〇九・九	一一八・三	一二二・七

『然しながら、一般的に工業の發達を觀察しただけでは、未だ充分に工業化のテムポの情勢は把握し得ない。このテムポを知るためには、重輕兩工業間の關係の動勢を定めて見る必要がある。故に工業化の伸長を示す最も明かなる指標は、生産に要する機械工具及び材料品の生産(即ち重工業)が、工業の全生産高中に占むる比重の漸増的伸長であらねばならぬ。』(スターリン)(註)

(註) 全ソ聯邦共産黨(ボリシエヴィキ)第十六回總會連記録二六頁。

次に掲げる數字は、機械工具及び生産材料品を生産する工業ミ、需要物資を生産する工業ミに分けて、その各々の總生産高の動勢ミ比重を示したものである。

西部シベリア地方に於ける大工業(規格工業)の總生産高 (單位百萬留。一九三〇年の價格による)

生産材料品を生産する工業 (A類)	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
	五七・六	八一・二	一三九・三	一八四・二	四五〇・一

需要物資を生産する工業 (B類)	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
	二二八・三	一四八・六	一八六・一	二五三・一	三九三・一

吾人にミつて必要なる『生産に要する機械工具及び材料品の生産の比重の漸増的伸長』は、五ヶ年計畫の全年度に亘つて之が見出され、且つ一九三二年の計畫によれば更に一層顯著なる進展が豫定されてゐるのである。

一九二八年には生産材料品の生産に従事する工業の總生産高の比重は合計三一・〇%であり、翌一九二九年には之が三五・二%に上り、更に一九三〇年には四二・八%となり、一九三一年には四二・二%となり、一九三二年には四二・二%となり、一九三二年の計畫にては五三・四%に達する。これに應じて工業の總生産高の全部(小工業をも含めて)に就いて見るも、生産材料品の生産に従事する工業の比重の伸長は認めらるゝのであつて、即ちこれが同志スターリンの力説せる如く、『工業化の最も明かなる指標なのである』。

本地方の工業の總生産高の比重 (百分比)

大工業 (規格工業) a、生産材料を生産するもの b、需要物資を生産するもの	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	計畫一九三二年
規格工業の總計	一四・四	一八・七	二九・二	三二・六	四六・二
小・手工業	三三・一	三四・二	三九・〇	四四・八	四〇・三
總計	四六・五	五二・九	六八・二	七七・四	八六・五
工業	五三・五	四七・一	三一・八	二二・六	一三・五

生産材料品の生産に従事する工業は、總ての年度を通じてその比重を増大してゐる。需要物資の生産に従事するグループも亦その比重を次第に増大してゐるが、これは生産材料品の生産に従事する工業の消長に依るものではなく、小・手工業の有する比重の漸減に依るものである。一九三二年の計畫によるに、更に一段々強化せられたる工業の發達に伴つて、このグループは前年一九三一年に比してその比重を低下してゐる。

工業經濟中の社會主義的部分は、周知の如く、漸進的社會主義型の企業（國營工業）と、社會主義化せられたる經濟による企業（各種組合工業）とより成る。

國營工業が大工業の總生産高の總計中に占むる比率は次の如くである。一九二八年——七六・一％、一九二九年——八〇・六％、一九三〇年——七六・七％、一九三一年——七四・九％、一九三二年の計畫にては七四・一％。大工業の總生産高中の殘部は、組合工業の諸企業によつて占められるものである。

總生産高中の國營工業の諸企業が占むる上記の如き比重の大きさが、その水準の各年別の現實的狀態を反映せるものなることは事實であるが、その動勢を見んむる時は之を無條件に對照比較することは不可である。何となれば組合工業の生産に於ける比重の向上は、常に規格諸企業の一定の圈が行ふ生産量の絶對的伸長に依るのみではなく、現に組合の小工業に屬する或る種の企業は次第にその規模を擴張して規格企業に編入せられるのであつて見れば、亦一面、小工業（非規格工業）よりの編入による此の圈の補充にも依るものであるからである。國營工業分野にありても亦かかる過程は存するのであるが、此處ではそれが左程明瞭に現はれないことは言ふまでもない。即ち一九二八年より一九二九年にかけて、組合の小工業企業を出でて規格企業に編入せられたものは三一箇であり、一九二九年より一九三〇年にかけては一三箇であつた。

規格工業の總生産高（單位百萬留。一九三〇年の價格による）

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	計畫一九三二年
國營工業	一四一・五	一八五・二	二四九・七	三二七・六	六二四・六
組合工業	四四・一	四四・一	七五・七	一〇九・七	二二八・六

五ヶ年計畫の第一年にあつては、組合工業の生産は前年に比し増加を示さず、また、一九三〇年及び一九三一年にあつては組合工業に屬する諸工業の生産増加のテムボは、國營工業に屬する諸工場のそれよりも低くさへあつた（一九三〇年には組合工業の總生産高は七二・〇％を増大し、一九三一年には四四・九％を増大したが、一方國營工業のそれは、一九三〇年に三四・八％を、一九三一年に三一・二％をそれぞれ増大してゐる）。

次に小工業の總生産高について見るに、第一次五ヶ年計畫に先立つ年（一九二八年）には國營工業、組合工業を併せて四六・八％を占めてゐたに過ぎないが、五ヶ年計畫の第一年以降に於ては國營及び組合の小工業が本地方の小工業生産の總生産高中に占むる地位は、漸進的に強化を示して來た。即ち一九二九年には六三・九％、一九三〇年には八四・八％、一九三一年には九二・八％、而して又一九三二年の計畫に依れば九五・四％になつてゐる。

本地方の小工業生産の生産高の残部は、私營的所有主に屬する工場、主として小製造業者及び手工業者の分である。

小工業の分野に於ける國營及び組合諸工場總生産高 (單位百萬留。一九三〇年の價格による)

一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年の計畫
九九・九	一三〇・七	一二八・八	一二八・一	一二六・〇

總括的に之を見れば、國營工業及び組合工業(小工業をも含む)の總生産高は、次の如き額に達する(單位百萬留。一九三〇年の價格による)。

一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年の計畫
二八五・五	三六〇・〇	四五四・二	五五五・四	九六九・二

次に國營及び組合經營の大工業(規格工業)の生産的意義別の總生産高についての組成を、機械工具及び生産材料品の生産、需要物資の生産、の主要部類別にして見れば、次の如くであつた(單位百萬留。一九三〇年の價格に依る)。

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年計畫
國營工業					
生産材料品の生産	五五・〇	七七・〇	一二八・六	一六七・三	四〇二・四
需要物資の生産	八六・五	一〇八・二	一二二・一	一六〇・三	二二二・二
總生産高中に生産材料生産高の占むる比重	三九・九	四一・六	五一・五	五一・一	六四・四
生産材料品の生産	二・五	三・八	一〇・七	一六・九	四七・八
組合工業					
需要物資の生産	四一・六	四〇・三	六五・〇	九二・八	一七〇・八
總生産高中に生産材料生産高の占むる比重	五・七	八・六	一四・一	一五・四	二二・九

現在に於ては國營工業は主として生産材料品を製造し、組合工業は之に反し主として需要物資の製造に當つてゐる。

工業經濟内に於ける漸進社會主義的部門は、更に之をその所管形態に就いて、ソ聯邦所管企業、地方工業企業に分つこゝが出来来る。この區別は暫定的にはあるが、それら企業が地方及び全國の國民經濟的工業生産中に占むる意義を明かに示すものである。更に組合に屬する工業に至つては、産業組合を他と區別するこゝが肝要である。次に掲げたる表は、大工業(規格工業)の諸企業に就き、その總生産(單位百萬留)に關して、上記の區分を各年別に示したものである。



ソ聯邦的意義のもの… 内譯 地方的意義のもの…	I、國營工業				
	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年計畫
a、最高國民經濟會議	八四・七	一〇三・三	一三三・二	一七三・八	三三七・二
b、配給人民委員部	三四・二	四六・二	七三・六	九九・一	二七七・〇
a、地方國民經濟會議	五〇・五	五七・一	五九・六	七四・七	一〇〇・二
b、地方配給本部	五六・八	八一・九	一一六・五	一五三・八	二四七・四
c、その他の國家機關	二七・八	四五・三	六五・八	八八・三	一一二・七
國營工業總計	一四一・二	一八五・二	二四九・七	三三七・六	六二四・六
a、産業組合	七・七	一一・二	三七・一	五一・七	九四・七
b、その他の組合	三六・四	三二・九	三八・六	五八・〇	一一三・九
組合工業總計	四四・一	四四・一	七五・七	一〇九・七	二一八・六

第一次五ヶ年計畫の實施以前に於ては、本地方の工業はその部門的傾向に於て、主として現地的農産原料の加工に従事する企業より成つて居たことは、既に前述した所である。即ち一九二八年にありては、食品工業及び冷蔵庫製造が本地方の大工業（規格工業）の總生産高中に占むる比率は、五二・八%であつた。五ヶ年計畫年度に入るや

これら諸企業の役割は、建築材料及び石炭の生産に従事する工業の生産が占むる比重の増大に依つて、規則的に低下を示し、更に一九三二年に入るや、冶金業の役割が急激に増大を見るに至つた。これはクズネツク冶金工場の第一次操業開始に直接關聯する現象である。

生産部門別に見たる大工業（規格工業）の總生産高（單位千割。一九三〇年の價格による）

工業部門	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
發電所	二七・一六・九	三四四・七・五	五〇一・一・四	六九四・〇・七	四〇五・二・五・〇
燃料工業	一六九六・六・五	二二九七七・七	三二〇二四・七	四四〇二九・七	七五一・一・〇・三
金屬工業	九五七・八・一	一四九四八・四	二九八〇五・五	三九三九六・七	一三五一五・三・六
鑛石採掘業 (Coke)	四・五	一〇・〇	一	一	一
化學工業	一三五六・二・八	一六三八八・四	一九二七〇・三	一九三四七・七	七一一・一・三・四
鑛物採取業 (minerals)	一九四・六	二四六・〇・〇	一〇八八・一	三九四・一・八	七七一・四・六
建築材料製造	一一五四・八・四	一三九一二・〇	二九二四三・三	四八〇七六・四	一一八一六・三・二
織雜工業	三六七四・四	四八七七・七	五一五四・九	四六六二・二	七一〇〇・七
被服、履物製造	二五一五・二・七	四三五〇・二・〇	七五八七・一・三	九七八九・〇・一	一四四〇四・四・二
家庭必需品製品	一一一・五	三七〇・六	一〇五〇・七	一四八一・六	二四三六・六
文化的物品製造	三七九七・七	三八三九・六	五九二九・〇	九八六五・八	一三二〇〇・二

西部シベリア地方要覽

食料嗜好品工業	九三三五七・四	九九八三一・二	一一三九九・二	一四九〇八七・八	二二三七五四・八
公共的物産製造	五一四・〇	八一六・一	一一三三九・七	一五九七・二	二二四九・三
冷蔵庫	五七八二・五	四五九八・五	一〇二八四・〇	一〇九六一・七	二二六八二・六

大工業（規格工業）部門別比重

工業部門	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年計畫
發電所	一・五	一・五	一・六	一・六	四・八
燃料工業	九・一	一〇・〇	九・六	一〇・〇	八・九
金屬工業	五・一	六・五	九・一	九・〇	一六・〇
化學工業	七・三	七・二	五・九	四・四	八・四
鑛物採取業 (minerals)	〇・一	〇・一	〇・三	〇・九	〇・九
建築材料製造	六・二	六・一	九・〇	一一・〇	一四・〇
織維工業	二・〇	二・一	一・六	一・一	〇・八
被服、履物製造	一三・五	一八・九	二二・三	二二・四	一七・一
家庭必需品製造	〇・一	〇・二	〇・三	〇・三	〇・三
文化的物品製造	二・〇	一・七	一・八	二・三	一・六
食料嗜好品工業	四九・七	四三・四	三九・九	三四・一	二五・四

公共的物産製造	〇・三	〇・四	〇・四	〇・四	〇・三
冷蔵庫	三・一	二・〇	三・二	二・五	一・五

大工業（規格工業）の最も重要な諸部門に就いて見るに、その生産高の絶対値の變動は次の如くである。本地方發電所に於ける一九二八年の發電量は一三、〇〇〇、〇〇〇KWH、一九二九年には二七、八〇〇、〇〇〇KWH、一九三〇年には四一、六〇〇、〇〇〇KWH、一九三一年には五八、八〇〇、〇〇〇KWHである。此の如く第一次五ヶ年計畫の前年に比較すれば、發電量は四、五倍以上の増大を示してゐる。

採炭量は一九二八年には二、六五九、七〇〇噸であつたものが、一九二九年には三、四一一、五〇〇噸、一九三〇年には三、八七九、五〇〇噸、一九三一年には五、五四四、〇〇〇噸となつた。従つて第一次五ヶ年計畫第三年に於ける石炭採掘量は、一九二八年に比し二倍以上に上つてゐる譯である。セメントの採掘量は一九二八年には二七、四〇〇噸であつたが、一九二九年には四〇、六〇〇噸、一九三〇年には五八、四〇〇噸、一九三一年には六二、九〇〇噸となり、即ち第一次五ヶ年計畫第三年に於ける生産高は一九二八年に比し、一三〇%方の増大を示してゐる。

煉瓦の製造量は一九二八年には四四、三〇〇、〇〇〇個であつたが、一九二九年には五八、六〇〇、〇〇〇個となり、一九三〇年には一四五、八〇〇、〇〇〇、一九三一年には三八九、四〇〇、〇〇〇個となり、これを一九二九年に比すれば殆んど九倍の伸長である。

最後に挽材は一九二八年には總計一八六、六〇〇立本米であつたものが、一八二九年には三八九、〇〇〇立方米、一九三〇年には六五一、〇〇〇、一九三一年には八六九、〇〇〇立方米に達し、即ち一九二八年に比すればその増加は四、五倍以上に上る。

五

五ヶ年計畫中既に経過せる年度に於ける本地方の農業生産の社會・技術的再建に於て、最も樞要なる役割を占むるものは、農業に於ける漸進的社會主義型企業たる國營農場であつた。而して國營農場は大社會主義的經營のための如き問題のうちに現はれてゐる。國營農場の企業綱は吾國に於て例外的迅速さを以つて進展したのであるが、特に西部シベリアの情況にあつては、諸種の主要指數に於て國營農場の建設テンポは、ソ聯邦の平均よりも一層強化せられたものであつたのである。現在本地方に於ける國營農場細は穀類農業の部門にても畜産業の部門にても廣汎なる進展を遂げてゐるが、先づ最初には國營農場は穀物問題の解決に邁進したのであつた。例へば播種面積の如き農業上重大要素に就いて見ても、本地方に於ける國營農場の生産規模の動勢は、次の如き計算を以て現はれてゐる。

國營農場の播種面積

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
播種總面積(單位千ヘクタール)	三八・二	五八・二	二七〇・五	八四四・四
その中穀類播種面積	三八・八	四六・〇	二二七・八	七四四・九

ソ聯邦に於ける國營農場の播種總面積中に西部シベリアに於ける國營農場の占むる比率は、一九二八年には二・二%、一九二九年には二・五%、一九三〇年には五・八%、一九三一年には八%ある。

今、もしソ聯邦に於ける國營農場の播種面積中より穀類播種地のみをとり、それに對する西部シベリアの國營農場の穀類播種面積の百分比を求むるときは、一九二八年には二・六%、一九二九年には三%、一九三〇年には六・八%、一九三一年には九・五%となる。

次に吾國に於ける國營農場の工業作物播種地の面積に對する西シベリア國營農場のその比重に至つては、頗る微小であり、しかも本地方の國營農場の此の種の播種面積の絶對値も亦、大なりとは言ふことが出来ない。

本地方國營農場の工業作物播種面積 (單位千ヘクタール)

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
	〇・三	一・〇	二・一	五・九

これをソ聯邦に於ける國營農場の工業作物播種面積に對比して見れば、一九二八年には〇・一%、一九二九年には〇・三%、一九三〇年には〇・四%、一九三一年には〇・八%を占むるに過ぎない。

叙上の事實は、本地方に於ける國營農場が主として穀類生産に集中せられ、工業作物に至つては或ひは副次的部門として取扱はれたるか、或ひは僅小の國營農場のみが之を行ひたるか、その孰れかなりしこみを物語るものである。

一方播種面積の消長のテムボを、全國指數に比較して見るに、それは凡ての農作物を通じて一層活潑であつた。即ち今一九二八年をば基本年度にすれば（第一次五ヶ年計畫に先立つ年として）、次の如き計數を得るこみが出来る（一九二八年に對する百分比）。

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
ソ 聯 邦 西部シベリア地方	I、國營農場の總播種面積		
	一三一	二八三	六〇六
ソ 聯 邦 西部シベリア地方	II、穀類播種面積		
	一五二	七〇八	二二一〇
ソ 聯 邦 西部シベリア地方	III、工業作物播種面積		
	一四〇	三二〇	七一四
ソ 聯 邦 西部シベリア地方	IV、工業作物播種面積		
	一六〇	八二六	二五八六

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
ソ 聯 邦 西部シベリア地方	I、工業作物播種面積		
	一一〇	一五〇	二二五
ソ 聯 邦 西部シベリア地方	II、穀類播種面積		
	三三三	七〇〇	一九五六

ソ聯邦に就いて國營農場の播種面積が一九二八年に比し六倍に増加した一方、西部シベリアに於ては二十倍以上の増大を示し、更にこれを粒穀類に就いて見れば、その増加は二十五倍以上にさへ上つてゐる。これは一部分、一九二八年頃迄は西部シベリアに於ける國營農場の發達がソ聯邦の他地方に比し劣つてをり、それに續く數年に於ける急テムボの發達が、その比率の斯くも巨大なる伸長として現はれたのに基くこみは、勿論言ふまでもない。然し乍ら又、播種面積が既に百萬ヘクタールに垂んこするのであつて見れば、その生産規模は絶對値に於ても頗る大なりと言はざるを得ず、かくて西部シベリアは未だ開發せられざる土地の巨大なる豫備を擁する處女地方として、五ヶ年計畫の中既に経過せる年度を通じて國營農場の生産進展にこりソ聯邦中最も主要且つ肝要なる地方であつたのみならず、本地方の有するこの意義が近き將來を通じて維持せられるであらうこみも亦、疑を容れざる所である。

叙上の事實に更に附言しなければならぬこみは、以上力説したるが如き西部シベリアの國營農場がソ聯邦の國營農場生産の中に占むる意義が、實に播種面積の大小を以てのみ決定せられたのではなく、成績を示す指數すなはち總生産高に就いても亦然るこみである。即ち、西部シベリアの國營農場が吾國の國營農場の全生産高中に占むる比重を穀類の收穫高に就いて見るに、次の如くである。一九二八年——七・八%、一九二九年——七・三%、一九三〇

年—九・八%。(註)

(註) 一九三二年のソ聯邦に關する計算は吾人の手許に無い。故に吾人はこの年の西部シベリアの比重を算出することが出来なかつた。

播種面積に於けると同様に、西部シベリアの國營農場に於ける穀類總生産高の動勢も亦、ソ聯邦の總計に比しより高き伸長テムボを示した。

本地方國營農場の穀類收穫の總生産高の動勢 (一九二八年に對する百分比)

ソ聯邦	一九二九年	一九三〇年
西部シベリア地方	一一七	一二七
	一一〇	三六〇

周知の如く、農産業の社會・技術的再建設に於て決定的要因をなしたものは、集團農場的・社會主義的農産業をめざしての貧・中農場の大衆運動を基礎として進展するころの、貧・中農場の集團農場化であつたのである。先づ全面的集團農場化の成功を得、然るのちにそれを根據として、階級として富農の清算政策の實踐的實現をなし得たのである。

五ヶ年計畫中既に經過せる年度に於て、本地方の集團農場運動はその發達の途上に、種々雑多の現象に遭遇した

のであつた。それら現象はすなはち、貧・中農大衆と資本主義的要素の遺物たる富農との衝突に際して尖鋭化されたる、農村に於ける階級闘争の事情よりして發生したものである。而して集團農場化が高き水準に達し、又階級としての富農の清算政策の實施が成功を示せるにも拘らず、現在なほ農村に於ける階級闘争は未だ完全には終結せず、階級戦線に於ける戦争は依然終熄を見てゐない。吾人はここで、集團農場運動の發達及び階級としての富農の清算政策の實施に關聯せる凡ゆる點の特徴を明かにし且つ之を叙説しようとは思はない。且つそれは、恐らくは大して必要ではあるまい。何となればそれら諸點は指導的黨機關の諸決議に反映してをり、また目下の黨機關紙及びソ聯邦機關紙に於て充分廣汎なる照明を得、また得つつあるからである。ただここには、集團農場建設の進展の特徴を明かにすべき主要なる史的段階を記すにこゝめよう。

西部シベリア地方に於ける貧・中農場の集團化の動勢 (數字は千單位)

本地方に於ける集團農場の數	一九二八年六月	一九二九年六月	一九三〇年七月	一九三一年七月	一九三二年二月	一九三二年五月現在
集團農場中の農場數	一・七	二・八	五・三	一四・三	一〇・九	一〇・九
集團農場の人口	二二・六	五六・二	一二七・八	六八一・六	六八〇・一	六八〇・一
貧中農場の集團化の百分比(%)	一〇四・〇	二五一・六	一〇七二・五	三〇三三・一	三一一〇・六	三一一〇・六
	一・七	四・二	二二・三	五二・五	五八・七	五八・七

ソ聯邦全體に於けると同様に、本地方に於ても全面的集團化運動は一九二九年夏より一舉に進展を見たのであつ

て、この事實は上掲の數字にもその反映を示してゐる。一九三一年の中央委員會六月總會の決議が、西部シベリアに於ては完全に實現せられたことは、一九三一年に於ける集團化の比率に關する數字によつても明かであり、又吾人の手許にある一九三二年に對する最近の資料に徴するも明かである。

一九二九年は集團化の發達の上に大なる歴史的轉換期をなすものである。即ちこの年、集團農場に加入したものは貧農及び中農の個々のグループではなくして、廣汎なる中農大衆が斷然集團化の途に轉向して、貧農にも大衆加入したのである。一九三〇年五月に地方計畫本部の舊統計部はシベリア地方十一地區に就き特別調査を行ひたる際の資料は、この過程に關して若干の概念を與てるものである。

階級的グループ別にしたる諸農場の社會的組成 (比重%)

加入農場	プロレタリア農場	半プロレタリア農場	普通の商品製造者に屬する農場	小資本主義的農場
一九二九年六月一日現在集團農場加入農場	一六・一	三三・六	四七・〇	四・三
一九二九年六月一日より一月一日までに集團農場に加入したる農場	一五・七	一七・五	六二・一	四・七
一九二九年一月一日より一九三〇年五月一日までに集團農場に加入したる農場	一一・六	一九・四	六三・九	五・一
一九二九年六月一日より一九三〇年五月一日までに集團農場を脱したる農場	八・七	一六・五	六八・六	六・二

一九三〇年五月一日現在集團農場加入農場	調査一地區に於ける全農民農場の社會的組成
一六・六	一一・二
二六・八	二〇・三
五三・二	六一・三
三・四	七・二

これら數字は拔萃的なものであるから勿論暫定的なものである。特にこの數字中には、恐らく或る程度に小資本主義的農場の比重が、農村全體中に於ても集團農場加入農場中に於ても誇張せられてゐるやうである。ミはいへこれらの數字は、集團農場運動に於ける社會階級的變動に關し概念的觀念を與へるものには相違ない。即ち一九二九年六月までは集團化農場中に占むる中農の比率は、農村全體に於けるよりも低かつたのであるが、一九二九年六月以降に及びや集團農場に於ける中農の比重は著しく増大したのである。この資料は、或る若干の集團農場がこの瞬間に於て、無縁の富農的分子の侵入によつて汚されたことを示すものである。而してこの汚濁現象が、個々の部員及び或る種の地方黨機關によつて犯されたる黨の方針に對する右翼日和見主義的背反行爲に關聯して現はれたるものなることは、疑を容れざる所である。黨の一般方針に對するこの背反行物は、西部シベリアの黨機關の手によつて時機を失せずしてポリシエヴィキ的手段を以て矯正せられ、集團農場を汚したる分子は見當り次第、容赦なく之を集團農場外へ放逐廓清したのである。

集團農場建設に於ける組織形態は、第一次五ヶ年計畫中既に經過せる年度を通じて、次の如き變遷を経た。

集團農場の法規的諸形態の比重

年	農業コンミュン團體	農業組合	共同耕作組合
一九二八年	一六・二	三一・〇	五二・八
一九二九年	二一・五	二一・一	五七・四
一九三〇年	三二・八	五四・二	一三・〇
一九三一年	四・一	八九・四	六・五
一九三二年二月十五日現在	四・三	九三・四	二・三
一九二八年	二七・五	二七・三	四五・二
一九二九年	四二・一	一八・三	三九・六
一九三〇年	五四・三	三九・三	五・八
一九三一年	一一・一	八五・六	三・三
一九三二年二月十五日現在	七・九	九一・四	〇・七
一九三二年二月十五日現在	七・二	九二・一	〇・七

一九二八年及び一九二九年にあつては、最も原始的なる形態たる共同耕作組合が、集團農場建設に於て（集團農場数により）優勢なる形態であつた。また集團農場化人口に於てすら共同耕作組合は殆んそ半ば（四四・四%）を占めてゐるが、その一方コンミュン團體も農場合同數に於ては五分の一以上を、人口に於ては三六・八%を占め、その比重も侮り難いものがあつた。當時西部シベリアの集團農場に於てコンミュン團體の占むる比重が斯くも大なりし所以は、或る程度までシベリアの集團農場建設に於けるこれに先立つ時代の歴史條件に依るものである。即ち本地方に於ては、初期段階に於ける集團農場運動の参加者は、その多數がシベリアのバルチザン、及び主として貧農より成る廣汎なる大衆であつて、即ち彼等は集團農場の法規的形態としては大抵の場合このコンミュン形態を選んだのである。

一九二九年夏以降、集團農場化をめざす大衆運動の進展を見たときに當つて、なほ農業コンミュン團體の比重が増加を示したことは、他の諸條件に關聯するものである。一九三〇年、殊にその第一四半期に於て、多數の地方黨機關及び農村黨機關にあらはれたる『左傾的』反中庸の大誤謬の一つとして、集團農場建設の現段階にあつてはその主要形態であるべき農業組合の無視があつた。次には、コンミュン團體の建設に於ける『誇大妄想的』熱中も生じて、爲にコンミュン團體が一九三〇年には集團農場に於て三二・八%を占め、農場の五四・九%を併せ、人口の五

三・八%を併せるに至つたのである。集團農場建設の途に現れたるこれら『左傾的』現象は、西部シベリアの黨機關に依つて時機を失せずして除去せられた。

また上掲の數字に見らるる如く、一九三一年七月より一九三二年二月十五日までの期間に於て、集團農場の數より見たるコンミュン團體の比重は、新たに幾分の増大を示してゐる。然してこれは、共同耕作組合の比重が急激に低下せるため、法規的形態間の相對關係に變動を生じたるに依るものである。農場合同の絕對數に於ては、コンミュンの伸長は認められなかつた。寧ろ逆に、合同農場數ミ人口ミに於いてコンミュンが集團農場の總計中に占むる比重は減少してゐるのである。これはコンミュンの一部が農業組合フホドフの組織に移されたからであつた。なほその後、多數のコンミュンは縮少せられたのである。

尤も最近各地に於て、多くの農村及び地區に、集團農場建設の現段階に於ける中心的課題たる現存集團農場の機構的・經濟的鞏固化を實現する代りに、集團農場の擴大を人工的に促進せんとする傾向が新たに復活しつつあつた。この現象の否定的諸性質は、黨機關紙及びソ聯邦機關紙に於いて暴露せられ、指導的諸機關の決議に依つて、集團農場建設に於けるこれら有害なる『左傾』現象を剪除すべき方策が講ぜられたのである。然しながら或る一定の日附に限つて見れば、この契機は、例へば集團農場の平均的大きさフホドフ（農業組合について）の如き指數に、若干の反映を示してゐるのである。即ち次表の如くである。

集團農場が擁する内容の平均農場數

集團農場の法規的形態	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年 二月十五日現在
コンミュン團體	二二・〇	三九・五	八三・〇	一一九・三	一〇七・四
農業組合（アルテリ）	一一・〇	一七・五	三五・〇	四五・八	六〇・九
共同耕作組合	一一・〇	一四・一	二一・八	二四・二	二四・〇
集團農場の總計	一三・〇	二〇・四	四九・五	四七・八	六二・四
人					
コンミュン團體	九一・〇	一五五・四	三五三・六	五一八・八	四四八・六
農業組合（アルテリ）	五六・〇	八一・五	一五八・四	二〇五・九	二八一・七
共同耕作組合	五七・〇	七四・三	一〇四・〇	一一四・二	一〇九・〇
集團農場の總計	六二・二	九一・八	二二五・三	二二二・八	二八五・三
口					

集團農場の平均的大きさの増大は、勿論上記の如き『左傾的』誤謬の影響のみに依るものではない。この誤謬が最近數年（特に一九三〇年）に烈しく反映してゐることは事實であるが、集團化の發達ミにも、現存の集團農場網内に新らしき貧・中農場を引入れることによつて、自然的擴大プロセスも亦行はれたことも否定することは出来ぬ。

集團農場の機構的・經濟的狀態の最も重要な指標にして、同時に農場集團化の機構的完成への接近の指標たる



ものは、集團農場員にこり最も重要な經濟的要素をなすものゝ社會主義化の程度である。

先づ最初に、生産材料のうち最も重要な種目を假に播種地及び役畜とし、これらに關する資料を一瞥しよう。

集團農場内に於ける播種地及び役畜の社會主義化の比率 (百分比)

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年 二月十五日現在
全ての農作物の播種地	八一・八	九六・二	九八・六	九八・三	
穀類の播種地	八二・一	九六・三	九九・二	九九・五	
全ての役畜	三六・九	五八・八	九五・八	九七・七	九八・五
その中使役年齢にあるもの	三九・三	六二・三	九六・四	九八・五	九八・六

生産材料のうち最も重要な諸者目の社會主義化の程度に見らるる漸進的伸長は、すなはち集團農場員の經濟内に社會主義的基礎が次第に定着し行くプロセスを物語るものに他ならない。而してこの事實は、經營上の最も重要な要素(播種地及び役畜はそれであるが)の上に立つて、集團化せられたる人口に社會主義化されたる經濟的間の經濟的結合を擴大するこゝが課題となつてゐる以上、全く正常なる現象と言はなければならぬ。

家畜のうち他の種類、特に第二義的な家畜の社會主義化の問題は、集團農場建設の現段階に於て、これは別様の取扱ひを受けてゐるすなはち。

集團農場に於ける家畜の社會主義化の百分比

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年 二月十五日
牛類	三一・〇	四四・六	八四・六	六一・二	七〇・五
そのうち牝牛	三三・〇	四八・四	八三・四	四九・九	五二・一
羊 (年齢を問はず)	四一・三	五四・九	八三・七	五三・八	六八・八
豚	三七・八	五〇・〇	八七・七	五九・七	六九・七
そのうち成長せるもの	四〇・八	五一・二	八七・五	五九・〇	七四・九

既述せる如く、一九二八年及び一九二九年には、集團農場中に於て共同耕作組合が大なる比重を占めてゐたが一九二九年夏以降は、集團農場運動の主要形態として農業組合の進出を見たのである而して農業組合に於ける牛類及び小家畜の社會主義化はコミュニティ團體に比すれば遜色があるが、然し共同耕作組合に比すればその社會主義化の程度は疑ひもなく高いのである。一九三〇年の計數は上述せるが如き「左傾的」誤謬を反映し、その影響は家畜頭數の社會主義化の上にも見出される。一九三一年に入るや、集團農場建設の實踐に於ける黨の一般方針のかかる紊亂は剪除せられ、従つて上掲の數字に現はれたるが如く、社會主義化の程度の指數は著しく低下を示した。而して一九三一年七月より一九三二年二月十五日に至る期間に於ける家畜の社會主義化の比率の向上は、次の如き諸原因に依るものである。第一には、本地方に於て政府の手に依り大々的に家畜の豫約買附が行はれ、それが集團農場

商品農園に提供せられたるこゝ。第二には、集團農場員の有する牝牛の最後の二頭に至るまでの悉くの家畜の社會主義化を、強利的、人工的に促進するこゝろの實踐的機會が、疑ひもなく一部に存したるこゝ。遺憾乍ら吾人は、この第二の原因を量的に表現するこゝが出来ない。何となれば吾人は手許に、そのための何等の監査的資料をも有せぬからである。

階級闘争の事情より發生する無数の困難をくぐり抜け、また右翼的日和見主義、『左傾的』理論及び實踐の諸要素、またその變形たる右翼或ひは左翼的日和見主義のあらはれの如き、黨の一般方針よりの逸脱を克服して、本地方の集團農場建設は第一次五ヶ年計畫中既に経過せる數年のうちに、穀物問題の解決に於いても蓄産問題の解決に於ても、巨大なる經濟的建設事業を遂行したのである。集團農場建設の經濟的規模に見らるるこのプロセスは次の如き計數により圖式的に之を示すこゝが出来る。

先づ最初に播種耕地の大きさの變化を示せば(單位千ヘクタール)

I、集團農場		一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
集團農場の總播種面積		一三六・一	四九一・六	一七七九・三	四八一五・九
穀類播種面積		一一一・八	四四五・五	一五五八・四	四二六八・四
オリヅ・纖維農作物播種面積		四・八	一五七・七	一一七・五	三三九・五

II、個人經營農		一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
總播種面積		七〇一・一	七五〇六・八	四一三六・〇	二〇四六・一
穀類播種面積		六四六八・五	六七八八・八	三六八七・一	一七九四・七
オリヅ・纖維農作物播種面積		二八五・四	三八七・五	二二六・五	一三一・八

營に集團農場の播種地の絶対値の伸長があつたのみならず、集團農場人口の生産能力の増大に伴ふその相對値の伸長もあつたのである。集團化させたる大衆の労働の生産能力の伸長が生じたのは、農業裝備(トラクター及び諸機械)の向上に基くこ同時に、生産材料の簡單なる協同操作が、小なる個人農的經營に比し生産的卓越を賦與したるこにも基いてゐる。

農作物の總てに就きその播種面積の割當ては次の如く

年	度	集團農場部分		個人農部分	
		一農場當り 人口一人當り	一農場當り 人口一人當り	一農場當り 人口一人當り	一農場當り 人口一人當り
一九二八年	一九二八年	六三・〇	一三・一	五四・八	一〇・二
		八七・四	一九・五	五九・〇	一一・〇
一九二九年	一九二九年	一六・五	一六・五	三三・五	〇七・二
		六八・九	一六・五	三三・五	〇七・二
一九三〇年	一九三〇年	一五・九	一五・九	二九・七	〇六・四
		七〇・八	一五・九	二九・七	〇六・四
一九三一年	一九三一年	七〇・八	一五・九	二九・七	〇六・四
		七〇・八	一五・九	二九・七	〇六・四

畜産の分野にあつては、畜産商品農場の創設に關する巨大なる事業が遂行せられた。即ち一九三二年二月十五日現在に於て、村落各地に於けるこれら總ての商品農場に次の如き頭数が備へられてゐる。大有角家畜合計七四六、四〇〇頭、牝牛三三三、〇〇〇頭、一歳以上の若き牛一七九、五〇〇頭、一歳未満の仔牛二二、〇〇〇頭。

今もし集團農場の社會主義化されたる家畜の總數に加ふるに、國營農場、市附屬農場、及びその他の消費協同組合の農場が使役する家畜を以てする時は、本地方農事各地の農業中社會主義的部分は、一九三二年二月十五日現在次の如き頭数を有するこゝに於ける。(單位千頭)

家畜種別	國營農場	市附屬農場及 その他の消費協 同組合農場	集團農場の社 會主義化家畜	そのうち商品 農場に存するもの	公共施設及び 諸機關の農場	社會主義的部 分の合計
馬(年齢を問はず)	六六・六	六・二	一〇四五・四	六・六	三三・五	一一五八・三
そのうち役馬	五八・六	五・九	七七・六	二・〇	三三・一	八七六・二
牛類	四一六・四	二四・一	一二五二・〇	七四六・四	一八・八	二四五七・七
そのうち牡牛	一九六・一	一六・二	四七五・六	三三三・〇	一三・六	一〇三三・四
羊及び山羊(年齢を問はず)	四二〇・二	六・七	一五一〇・八	三三〇・二	一九・九	一一二八・八
豚(年齢を問はず)	六九・九	一一・二	七九四・五	九七・二	一一・八	三八六・五
そのうち九箇月以上のもの	二九・九	三・八	五六一・三	二七・三	四・二	一一一・五

本地方に於ける機械トラクター配給所の建設は、ソ聯邦の他の若干の地方に比しその發達が遅れた。西部シベリ

アに於ける最初の十一箇所の機械トラクター配給所は、一九三〇年に設立せられた。こはいへ之等は、實に集團農場の生産のための技術的基礎として進出したるに止まらず、先づ第一に一層高度の技術的根據の上に立てる新業の組織者として進出して、農業の社會的・技術的再建設の事業の上に巨大なる影響を與へた。一九三一年(七月現在)本地方は七十五の機械トラクター配給所を有し、そのトラクター總體の馬力數は六〇五四一HP。この年度にその配給を受けたる集團農場數は二三六七、同じく供給を受けたる集團化されたる個々の農場數は一四四三二八に及んでゐる。集團農場の總數中、機械トラクター配給所より配給を受けたる集團農場は、集團化されたる個々の農場の數に於て、二二・二%を占めてゐる。またこれを本地方の集團農場播種面積について見るに、機械トラクター配給所より配給を受けたる集團農場は次の如き比重を占めてゐる。集團農場の總播種面積に於ては三四・九%、穀類播種面積に於ては三四・九%、工業作物播種面積に於ては三〇・三%。

一九三二年の春期農場戰<sup>カサノヤ</sup>までには、一四八の機械トラクター配給所が展開せられ、そのトラクター總體の馬力數は八〇三二HPに達するであらう。

國營農場に機械トラクター配給所は、同時に本地方の農産業の技術的再裝備の根幹をなすものである。この分野に於ても、最近數年間に巨大なる事業が遂行せられた。今假に他の諸機械及び建造物を考慮外に置き、トラクターのみを対象とするも、最近四年間に農業の技術的裝備に生じたる變化は次表の如くである。

トラクター臺數及び馬力數

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
I、本地方總計				
トラクター臺數	七五一	二〇三五	四二三五	八〇四一
その馬力數(千HP)	九・八	一三三・四	六六・八	一四二・四
II、そのうち國營農場分				
トラクター臺數	一六九	三七八	一〇一五	三六一〇
その馬力數(千HP)	二・七	六・一	二二・二	七五・二

トラクター臺數及び馬力數の絶對値が増大したるのみならず、ソ聯邦トラクター總數中に占むる本地方の比重も亦著しく増大を示した。これをトラクター臺數に就いて見るに、本地方の比重は次の如くである。一九二八年——二・八%、一九二九年——五・八%、一九三〇年——六・四%、一九三一年——七・五%。又馬力數に於てソ聯邦中に占むる比重は、一九二八年——三・五%、一九二九年——六%、一九三〇年——七・二%、一九三一年——八・八%。

機械トラクター配給所の影響の効果は例へば商品化率コメカワセの如き、農産業の成績の最も重要な指數に、確乎として物語られてゐる。一九三一年の貸借對照表の數字によれば、集團農場部門全體の穀類の商品化率は總收穫高の三三・六%に達し、その一方個人農部門の商品化率は一六・六%である。また機械トラクター配給所より配給を受ける集團農場に於ける穀類の商品化率は四一・七%であり、これに對し機械トラクター配給所を受取る集團農場

のそれは三〇・〇%である。農産の商品化率に及ぼす機械トラクター配給所の影響の一層明瞭なる現はれば、生産方向(種目)別に個々の集團農場を見るべき之を看取する<sup>コメ</sup>が出来来る。即ち、穀類的方向を有する集團農場にして機械トラクター配給所の配給を受取るものの商品化率は四一・九%にして、その配給を受取るものの商品化率は三三・六%である。又畜産的方向の集團農場にあつては、機械トラクター配給所の配給を受取るものの商品化率は四一・二%、配給を受取るものの商品化率は二二・三%である。

叙上總ての契機に基いて、農産業の社會的改造のプロセスは農産業に於けるプロレタリア的階層の尠大なる伸長を伴つた。それは即ち、漸進的社會主義型の農業諸企業に従事する労働員の形成に依るものである。この契機は實に大なる社會的政治的意義を有するのであるが、況してや曾て農村の富農農場に従事し、經濟的迫害に擯取の條件下にあつた日傭農夫の巨大なる群が、國營農場の仕事に轉入し、又は社會主義的集團農場の有資格部員の列伍に流入したのである<sup>コメ</sup>を思ふべき、益々その感は深いのである。擯取的諸要素は輒近數年間に大打撃を蒙つたが、それは就中、階級としての富農の清算政策の實施が招來したものであつた。

農業労働者の數(單位千人)

※總ての年度を通じ數字は八月現在

労働者種別	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
I、國營農場				

臨時労働者	季節労働者	常備労働者	個人農的雇傭者の農場に於ける日傭労働者			
			一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
計	五・一	二・〇	九八・八	三二・五	一〇八・三	一一・五
臨時労働者	二・一	一・〇	八・九	四・〇	二二・八	一五・一
季節労働者	一・〇	一・〇	一・二	二・二	一五・一	三二・一
常備労働者	二・〇	二・七	二・七	一・六	一・六	五六・一
計	一三六・一	九八・八	三二・五	一一・五	一一・五	一一・五

農村プロレタリアートの量的伸長は、それらプロレタリアートの物質的及び文化的福祉の漸進的伸長を伴つた。日傭労働者の著大なる群が漸進的社會主義型の諸企業へ轉入したるこゝが、一般に生産的相關々係に於いての根本的根柢的變革を結びついてゐるこゝは改めて説くまでもない。こゝでも、農村プロレタリアートは直接的物質上の福利を得たのである。周知の如く、労働防衛及びその他ソヴェート政權の手による日傭農夫の社會・生活的及び經濟的條件改善のための諸對策にも拘はらず、小資本主義的農場に於ては、日傭農夫大衆の生活の物質的水準は極めて低き指數を示すに過ぎなかつた。即ち、一九二九年の計數に依れば、西部シベリアの富農々場に雇傭せられたる日傭せられたる日傭農夫の賃銀は、月額二二留（食費を算入して）を越えなかつた。一方國營農場労働者の賃銀は次の如き水準に達してゐる。（月額、單位留）

常備労働者	季節労働者	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
常備労働者	三三・四五	三三・四五	三三・四五	五六・八五	六九・〇七
季節労働者	三一・〇五	四二・二四	四二・三五	五一・五五	

且つ、技能労働者の著大なる群は更に高き賃銀を獲得してゐる。即ち一九三一年にはトラクター運轉労働者の賃銀は月額七二・二二留、修繕工場の労働者の賃銀は八六・一四留、運轉手の賃銀は一一四・八七留であつた。而して國營農場の労働者總數の中に占むるこれら労働者群の比率は一九三一年に於て、トラクター運轉労働者は一〇・一％、修繕工場労働者は四・四％、運轉手は〇・八％である。斯の如くにして、所謂「工業的階層」は、國營農場の労働者總數中に於て一五・三％を占めてゐる。

上に列擧せる如き、農産業の社會・技術的再建設に於ける主要なる幾多の進歩に基き、社會主義的部分は五ヶ年計畫中既に経過せる數年間に於いて、農業の凡ゆる主要部門に於ける生産規模を著しく進展し、且つ擴大した。その結果、五ヶ年計畫の第三年に於て既に、總生産高に就いては社會主義的部分が絶對的優位を占むるに至つたのである。

農業に於ける社會主義的部分の總生産高（單位千留、一九三〇年の價格に依る※）

※農産品の評價は凡ての部分に就き一九三〇年の原價を以て表現す

國營農場	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年計畫
國營農場					

農	畜	牧	總			農	畜	牧	總					
			作	産	業				作	産	業			
七、六三二・五	八、〇九三・八	三二、一七八・〇	二六、一九六・三	八三、三八四・一	一、一三五七・六	一八、一八六・五	一一四、三一五・三	一七一、三四六・六	四七一、七六六・五	一、八七四・五	八、一六六・一	二九、九九一・三	八二、〇〇九・三	一一、〇九二・三
四四一・一	一、五五八・三	五、五五七・六	一〇、八四二・七	二五、七九五・七	一、〇二二・三	一、一三七・九	五、五一九・〇	二〇、六三〇・五	三六、八一五・〇	二、五八二・八	三、七六三・三	二七、〇九六・四	七五、一一〇・〇	一一四、四一一・二
九、〇八五・九	一〇、七九〇・〇	四三、二五四・六	五七、六六九・五	一四五、九九四・八	三〇、一一五・九	一八一、四〇三・〇	三二八、四六六・四	七〇七、二三〇・〇	一五、八一四・九	一五、八一四・九	三〇、一一五・九	一八一、四〇三・〇	三二八、四六六・四	七〇七、二三〇・〇

本地方農業の總生産高中に社會主義的部分が占むる比率は、一九二八年には僅々合計二・七%に過ぎざりしものが、一九二九年には社會主義部分の比重は五・八%に上り、更に一九三〇年には社會主義部分の比重の向上に急激なる轉機を示して一躍二七・二%となり、一九三一年には既に六五・七%となり、而して一九三二年の計畫に依れば九〇・四%である。

次に之を農業の各部門につき個別的に見れば、社會主義部分の比重は次の如き變化の跡を示してゐる。(A)農作の總生産高に於ては、一九二八年——四・〇%、一九二九年——八・九%、一九三〇年——三三・九%、一九三一年——六八・二%、一九三二年計畫——九二・三%。(B)畜産の總生産高に於ては、一九二八年——〇・九%、一九

二九年——三・二%、一九三〇年——一六・三%、一九三一年——五三・三%、一九三二年計畫——八三・八%。(C)牧草業の總生産高に於ては、一九二八年——一・九%、一九二九年——四・九%、一九三〇年——二二・四%、一九三一年——七七・一%、一九三二年計畫——九〇・七%。

牛酪製造及び畜産業に於て西部シベリアはソ聯邦中にも最も主要なる地方であるにも拘はらず、本地方に於ては牧草業が農業の總生産高中に第一位を占め、而も一九三二年の計畫に依れば、この生産部門の比重が更に伸長を豫定せられてさへ居るのである。この事實は、本地方が牛酪製造及び畜産上の絶對値に於て真に大なる役割を果たす一方、同時にまた農作の發達への巨大なる可能性をも藏してゐることに依つて説明せられる。特にそれは、小麦の如き貴重なる穀物及び各種の工業作物に好適なる耕作可能地の著大なる部分が今日に至るまで開發せられず或ひはその開發が微弱であり、且つ農業そのものの將來の強化發達の可能性があることを考慮に入れば上記のことは一層明白であらう。

一九二八年には本地方の農業の總生産高中に農作業は五〇・四%を占めてゐた。一九二九年には四二%となり、一九三〇年には五六%となり、一九三一年には四九・三%、而して一九三二年計畫に依れば六三・八%となつてゐる。一方畜産業の生産高を占むる比率は一九二八年——二九・四%、一九二九年——四三・七%、一九三〇年——二六・四%、一九三一年——二九・六%、一九三二年計畫に依れば一八・五%となつてゐる。また牧草業の總生産高の比重は、一九二八年——二〇・二%、一九二九年——一四・三%、一九三〇年——一七・六%、一九三一年——二二・一%、一

九三二年計畫——一七・七%である。

上記せる農産物の各部門の生産品は、更に之を製品種別によりて組成分子に分つこゝが出来。それら各分子の有する數値を概観せんがため、これら個々の製品の有する比重を示すこゝにも、第一次五ヶ年計畫中既に經過したる數年間に亘つて農作及び畜産の二部門に於けるそれら分子の比重の變遷を示す表を掲げるこゝにする。

個別的製品種目が本地方農業の各部門中に占むる比 (社會主義的部分なると否とを問はず)

農産物	一九二八年				一九二九年				一九三〇年				一九三一年				一九三二年計畫			
	農作	畜産	農作	畜産	農作	畜産	農作	畜産	農作	畜産	農作	畜産	農作	畜産	農作	畜産	農作	畜産		
穀類	六三・九	六一・八	六〇・五	五八・七	五四・六	六三・九	六一・八	六〇・五	五八・七	五四・六	六三・九	六一・八	六〇・五	五八・七	五四・六	六三・九	六一・八	六〇・五	五八・七	
工業作物	八・二	九・六	六・二	二・七	九・八	八・二	九・六	六・二	二・七	九・八	八・二	九・六	六・二	二・七	九・八	八・二	九・六	六・二	二・七	
そのうち亞麻	三・九	五・四	三・二	六・〇	四・八	三・九	五・四	三・二	六・〇	四・八	三・九	五・四	三・二	六・〇	四・八	三・九	五・四	三・二	六・〇	
根果、野菜、瓜類	一七・八	二〇・二	一三・七	一八・八	二五・七	一七・八	二〇・二	一三・七	一八・八	二五・七	一七・八	二〇・二	一三・七	一八・八	二五・七	一七・八	二〇・二	一三・七	一八・八	
その他の農作物	〇・二	〇・二	〇・一	一・四	一・五	〇・二	〇・二	〇・一	一・四	一・五	〇・二	〇・二	〇・一	一・四	一・五	〇・二	〇・二	〇・一	一・四	
農作の副産物	一〇・二	八・四	九・五	八・四	八・四	一〇・二	八・四	九・五	八・四	八・四	一〇・二	八・四	九・五	八・四	八・四	一〇・二	八・四	九・五	八・四	
畜産物	二五・〇	三一・〇	二九・二	二六・三	二七・〇	二五・〇	三一・〇	二九・二	二六・三	二七・〇	二五・〇	三一・〇	二九・二	二六・三	二七・〇	二五・〇	三一・〇	二九・二	二六・三	
畜産物、獸肉及び獸脂	七・八	一〇・九	八・二	九・一	六・〇	七・八	一〇・九	八・二	九・一	六・〇	七・八	一〇・九	八・二	九・一	六・〇	七・八	一〇・九	八・二	九・一	
皮																				

牛乳及び牛酪	羊毛、剛毛、毛	養禽、菜	その他の畜産物
四八・〇	六・一	一〇・九	二・二
三九・四	八・三	九・二	一・二
四三・七	七・五	九・九	一・六
四七・八	八・〇	七・八	一・〇
五二・二	六・二	七・三	一・三

勿論言ふまでもなく、農業の社會・技術的再建設についての建設事業の總計を評價するに當つては、『今や吾人の事業の重心は播種面積の擴大にあるのではなく、豊作のための開墾、收穫高の向上、收穫の組織にあるのである』こゝを特に記憶しつつ、農産業に於ける質的指數の向上のための緊張せる開墾が現前せるこゝも亦考慮に加へなければならぬのである。

『若し穀物問題が今や吾人の手によりその根本が解決せられ、また同時に工業作物に於ても吾人が巨大なる進歩を達成し、而も年々益々急速なる前進をなしつつありますれば、畜産業はこれらに比して比較的遅れたる分野として残つてゐるのである。』今や吾人は畜産業向上の課題の上に特に努力を集中しなければならぬ(モロトフ註一)これらの言葉に加ふるに更に、西部シベリヤに於ては、『早魃の開墾の解決についても亦ポリシエヴイキ的に着手すべき時が來てゐる』(モロトフ註二)こゝいふ指摘が特に重要な意義を有するこゝを附言しなければならぬ。

(註一) 『第一次五ヶ年計畫の發行について』黨出版部、一九三一年版、二六頁。

第一章 一九二八年より一九三一年に至る西部シベリア地方の國民經濟

〔註二〕 『第二次五ヶ年計畫について』 黨出版部、一九三三年版、四四頁。

集團農場の組織的・經營的鞏固化の課題は、未だ階級戦の終了が前途遼遠にして且つ階級ミしての富農の清算戦も未だ完了しをらざる事情下にあつては、その解決のため將來も努力ミ注意力の動員を要請するものである。

六

第一次五ヶ年計畫中既に經過せる數年間に於ける本地方の工業化の暴風の如きテムボ及び農産業の社會・技術的再建設のためのあらゆる施設の總體は、労働人員、労働資源の開発及び一般人口の職業の分野に於ても、頗る巨大なる變革ミ轉移を齎らした。このプロセスは、工業、建設事業及びそれらに關聯奉仕する都市労働の分野に於ける労働人員の増大に基く都市人口の伸長によりても明瞭に之を看取するこゝが出来る。併し乍ら、西部シベリアの諸都市の人口の單なる増大のみを論ずるこゝは、恐らくは不充分であらう。何ミなれば本地方に於ては、ソ聯邦の全ての地方を通じてはならない迄も少くも多くの地方にミつての特徴をなす舊都市の人口増加のプロセスのみが存在するのではないからである。壯大なる建設事業、殊にウラル・クズネツク鑛業合同の諸企業の建設に伴ひ、西部シベリアに於ては従前全く存在せざりし新らしき工業中心地の建設を見、また續々ミしてそれら中心地の建設を見つゝあり、且つまた従前より存在しをりし都市にしても、その或るものは殆んミ都市の新建設ミ等値の伸長を示してゐるのである。例へばクズネツク冶金工場の建設期間を通じ、この建設事業に基いて人口一四〇、〇〇〇（一九三

二年一月一日現在）のノウ・クズネツク市が建設せられた。またペーロヴ・亞鉛工場の建設に基いては新らしき労働者部落ペーロヴが發生し、その人口は一九三二年一月一日現在一三、五〇〇人である。その他炭鑛及びその他の鑛山労働者部落の生起に至つては頗る多數に上つてゐる（オシノフカ、バルザス、キセリョヴィ、テリベス、テミル・タウ、オリホヴォ等）。

西部シベリア地方の都市人口（單位千人）

一九二八年一月一日現在	一九二九年一月一日現在	一九三〇年一月一日現在	一九三一年一月一日現在
八八九・〇	九七五・二	一、〇八〇・二	一、二〇五・二

建設事業の促進、工業生産の増大、及び本地方國民經濟への投資額の増大に伴ひ、一九三三年一月一日には本地方の都市人口は更に都市への流入人口を容れて、その總人口は少くも一、七七八、四〇〇人に達すべく豫想せられる。

都市人口量の變動は、本地方總人口中に於ける都市人口の比重を向上せしめた。最近數年に就いて見るに、都市人口總計の比重は次の如き數値をミつてゐる。一九二八年——一一・八％、一九二九年——一二・四％、一九三〇年——一三％、一九三一年——一四・四％。（註）

〔註〕 各年一月一日現在。



上記の如き都市人口の補充新員は、主として農村よりの流入人員によるものである。即ち、一九三一年のクズネツク炭田の諸都市の人口調査の計算に依るに、クズネツク炭田の諸都市の居住三年未満人口中、七四・九%は農村より出でたるものであり、且つその大多數はシベリア地方の農業地方より出でたるものであつた。工業及び建設事業に従事するため農村人口が都市に流入する此のプロセスは、農業地方よりの労働力の解放に基くものである。蓋し農業業にあつては大衆的集團化及び生産技術の向上に依つて、農村人口の労働の生産能力の増大を來し、農業業に對する労働消費が節減させるに至つたのである。集團農場員の労働組織には未だ多くの缺陷が認められ居りしに拘はず、一九三〇年にボスベリヒノ地區及びトブチヒノ地區の特別調査の結果に依るに、この年にあつても既に人間労働の節約の觀念は、社會主義化されたる農業業に於て極めて明瞭にして現實的な實現を見てゐたのである。農業業の主要なる種目に於ける労働消費に關する次掲の數字は、それを確證するものである。

仕事の種類	労働消費の標準 (一ヘタール當りの労働日)		
	個人農的 中位の農場	馬匹牽引による 集團農場	一ヘタール當りの 節約
開墾	一・九	一・〇〇	〇・九〇
播種	〇・五	〇・三八	〇・一一
肥均	一・二	〇・五六	〇・四一

「集團農場内に於ける農民用具の單なる組織が、吾人の實踐の夢想もせざりし如き効果を生んだのである。」(スターリン)

スターリン)

生産の機械化も亦勿論、農村に於ける労働力解放の原因をなしたのである。

都市人口の一般的伸長に隨伴する現象は、本地方諸都市の人口の社會的組成成分が益々變化してプロレタリアの増大の傾向をみるこゝに、就中工業及び建設事業に従事する労働者の増加の傾向をみるこゝである。「これ即ち、ソ聯邦の最も巨大なる社會的基礎たる労働階級が、逐年わが國の全生活中に於ける労働階級の比重を増大しつつ、急激に伸長するこゝを意味してゐる」(モロトフ)。

西部シベリア地方都市自働人口の社會的組成 (百分比を以てせる比重)

	一九二六年の人口調査結果	一九三一年四月一五日現在の統計
労働者	二五・二	四三・七
その他の諸工場工場の労働者	八・八	一七・七
事務員	二六・四	三一・九
その他の自働人口	四八・四	二四・四

都市人口の伸長は、都市人口總數中に於て國民經濟的産業に従事する者の數の向上プロセスを伴つてゐる。即ち一九二六年本地方の都市に於ける自働人口の比率は、その總人口中の四一・六であつたが、一九三一年四月一日の統計に依れば四一・八%である。

都市人口の増加及びその社會的組成の質的改善は、著しき程度に於て、労働人員の改造プロセスを物語るものであるが、而も都市人口に關する計數に加ふるに、なほ本地方國民經濟に従事する労働者及び事務員に關する計數をも掲げる必要不可欠である。況してや必ずしも工業及び建設事業の全部が都市的居住地の域内に存するものではなくまた工業的労働の全部門が必ずしも、後者（都市的居住地）によつて代表せられてはゐないからである。而して又、人口總數自體にせよ、如何なる人口量が産業に従事しをるかを示すものではない。

西部シベリア地方に於ける従業労働者及び業務員の數は、五ヶ年計畫の數年中に二倍以上に増加した。即ち一九二八年には労働者及び事務員の數は四一六、二〇〇人であつたものが、一九二九年には四二四、〇〇〇人となり、一九三〇年には五六五、六〇〇人、一九三一年の計數に依れば八三二、〇〇〇人に達してゐる。

最も急激なる伸長は國營部門に看取せらるるに反し、個人經營的所有主的部門にあつては、一九三一年の労働者及び事務員數は一九二八年に比し十分の一にも達してゐない（即ち九・四％）。

労働者及び事務員數（單位千人）

部門	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
國營部門	二二六・六	二七六・一	四六八・九	七二一・三
組合部門	四〇・六	四七・七	六三・五	九七・六
個人經營及び所有主的部門	一三九・〇	一〇〇・四	三三三・二	一三一・一

吾人は遺憾ながら、個人經營的所有主的部門のうち資本主義的企業を區別することを得ず、また従業者を彼等の仕事の生産的重要性によつて分類することもなし得ないが、ミはいへ一九三一年の計數中の個人經營的所有主的部門に於ては、その數中優位を占むるのが生産従業者に非ずして、個人的用事に従ふ者（召使、乳母等）になることは疑ひを容れざる所である。個人經營的所有主的部門に於ける所で雇傭人員の著減は最近二ヶ年に見られるが、これは農村に於ける階級としての富農の清算政策の實施に直接關聯するものである。

労働各部門別の労働者及び事務員數（單位千人）

労働部門別*	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
非農業部門				
Ⅰ、工業	五四・六	六四・〇	八三・二	一一二・五
そのうち大工業（規格工業）	四三・七	五二・七	七〇・七	一〇六・七
小工業（非規格工業）	一〇・九	一一・三	一一・五	一五・八
Ⅱ、建築	二二・〇	三一・五	二二・九	二〇・八
Ⅲ、運輸	四七・二	五〇・七	六〇・一	六〇・四
Ⅳ、通信	三・五	三・五	四・二	六・一
Ⅴ、商業	二八・六	三一・二	四五・一	七七・二

部門	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年計畫
一、國營	六・四	八・一	一三・七	三三・九	
二、組合經營	二一・四	二二・九	三一・四	四四・三	
三、個人經營	〇・八	〇・二	一	一	
Ⅵ、金融	四・八	四・〇	三・四	五・四	
Ⅶ、公共施設	九一・七	九四・九	一二・四	一四七・三	
內譯(一)國營	二一・八	二三・三	二六・二	二六・〇	
(一)村落ゾグエート	八・六	八・八	九・二	一〇・九	
(二)教育	三三・八	三三・一	三九・八	五〇・〇	
(三)醫療衛生	一一・五	一二・九	一三・七	一六・三	
(四)經濟施設	六・三	一一・四	一六・七	三一・六	
(五)職業的・社會的施設	六・〇	五・五	五・六	八・六	
(六)その他の施設	二・三	二・四	二・六	三・四	
Ⅷ、公營事業	一・六	四・五	四・九	六・九	
非農業部門の總計	二五四・〇	二八四・三	四四一・二	六三五・六	
農業部門	五・六	一〇・二	四三・一	一一〇・八	
一、國營農場	一三六・六	九八・八	三三・五	一一・五	
二、日僱労働者	二一〇・〇	三〇・五	四八・五	五九・七	
三、林業	一六二・二	一三九・五	一二四・一	一九三・〇	
四、農業部門の總計	一六二・二	一三九・五	一二四・一	一九三・〇	
總計	八〇	八〇	八〇	八〇	

※建築の計数は十月一日現在、農業部門は八月現在、林業は三月、その他の諸部門は一年の平均である。

工業に於ては、労働者及び事務員の最も大なる伸長テムボは一九三一年に見られる(規格工業にては五一%、小工業にては二六・四%)。建築に於ては、その増加の最大テムボは一九三〇年にあつた。つまりこの年は、主要諸企業の建設が一層強化せられたる進展の途に轉じた年に當るからである。

一九三一年の國營諸施設は却つて幾分その従業員数を減小してゐる(〇・八%)。

諸施設に於ける人員増加は、村落ゾグエート(一九三一年に一八・五%)、教育機關の施設(二五・六%方)、醫療施設(一八・一%方)及び經濟諸施設(五三・六%)それぞれの増大に基くものである。此の如く、人員増加を示したる諸施設は、労働者に對して執らるる文化的社會的方策に貢獻する諸施設であつた。

一方農業部門に於ける伸長は、國營農場の建設、林業の伸長に依るものである。

大工業(規格工業)に於ては、労働者及び事務員の大多數が、生産材料の製造に従事する部門に従業してゐる。即ち、

大工業(規格工業)の労働者及び事務員數(單位千人※)

※數字は總この年度を通じて一月一日現在

規格工業全部	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年計畫
一、規格工業全部	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年計畫

西部シベリア地方要覽

一、労働者 二、事務員 三、少年従業者 計	I、A類工業		I、B類工業		計
	労働者	事務員	労働者	事務員	
三、少年従業者	四・二	四・八	二・六	二・六	四・二
二、事務員	四一・九	四七・七	二九・一	三三・二	四一・九
一、労働者	二六・〇	六一・九	三九・九	四三・三	二六・〇
計	四一・九	六一・九	三九・九	四三・三	四一・九
三、少年従業者	一・八	三・六	二・八	三・〇	一・八
二、事務員	二・八	三・六	二・八	三・〇	二・八
一、労働者	九・三	一・八	一一・三	一・八	九・三
計	三・〇・六	一・八	一一・三	一・八	三・〇・六
三、少年従業者	〇・六	〇・八	〇・八	〇・八	〇・六
二、事務員	一・四	一・八	一・八	一・八	一・四
一、労働者	九・三	一・八	一一・三	一・八	九・三
計	一一・三	〇・七	一・六	一・六	一一・三
三、少年従業者	一・三	一・九	一・九	一・九	一・三
二、事務員	一・三	一・九	一・九	一・九	一・三
一、労働者	九・三	一・八	一一・三	一・八	九・三
計	一一・三	一・九	一・九	一・九	一一・三

八二

右の如く生産材料の生産に従事する工業が従業者数に於て優位を占むることは、一九三二年の計畫に於ては彌々明かに現はれてゐる。これは即ち、重工業の發達が益々強化せらるることに關聯するものである。工業の各部門別の労働者、事務員及び少従業者の數に關する數字に、別掲の表に示されてゐる。

主要部門別に見たる工場、製造所規定工業の従業者(其一)

番 號	工業部門別	一九二八年		一九二九年		一九三〇年	
		労働者 (見習工を含む)	事務員	労働者 (見習工を含む)	事務員	労働者 (見習工を含む)	事務員
一	發電所	三三	四九	四八	三六	五七	二九
二	石炭採掘業	一五二六	二五三	一四八八	二六六	一七五	二九
三	金屬加工業	三三三	五〇〇	三三三	四〇二	三〇二	二七三
四	鑄物加工業	二五五	一四一	二四四	一六五	一七四	二七
五	化學工業	二七	一九	二六	三三	二七	二九
六	木工業	一六五	三三	一四四	二六	一七	二九
七	皮革、製靴業	一三六	一六	一〇六	一五	一〇	七
八	織物業	一四八	六	一三六	一〇	一〇	七
九	食料、嗜好品業	四三九	六三	四〇二	三三	四〇九	九
一〇	被服、化粧品業	一四九	六	一三六	一〇	一〇	七
一一	印刷業	二七	一七	二六	一五	一〇	七
計		三三	四九	四八	三六	五七	二九

第一章 一九二八年より一九三一年に至る西部シベリア地方の國民經濟

八三

主要部門別に見たる工場、製造所規定工業の従業員(其二)

番 號	工業部門別	一九三〇年		一九三一年		現 在	
		少年 従業員	計	少年 従業員	計	少年 従業員	計
一	發電所	(11)	三	(12)	三	(13)	三
二	石探掘業	(14)	三〇三	(15)	三〇三	(16)	三〇三
三	金屬加工業	(17)	二〇〇	(18)	二〇〇	(19)	二〇〇
四	鑛物加工業	(20)	一七五	(21)	一七五	(22)	一七五
五	化學工業	(23)	二七六	(24)	二七六	(25)	二七六
六	木工業	(26)	二〇九	(27)	二〇九	(28)	二〇九
七	皮革、製靴業	(29)	二五七	(30)	二五七	(31)	二五七
八	織、縫工業	(32)	一〇〇	(33)	一〇〇	(34)	一〇〇
九	食料嗜好品業	(35)	六二二	(36)	六二二	(37)	六二二
一〇	被服、化粧品業	(38)	四二五	(39)	四二五	(40)	四二五
一一	印刷業	(41)	二五	(42)	二五	(43)	二五
		勞働者(見習工を含む)		勞働者(見習工を含む)		勞働者(見習工を含む)	
		事務員	六六	事務員	三〇	事務員	七五
		少年従業員	三	少年従業員	三	少年従業員	三
		總計	三〇三	總計	三〇三	總計	三〇三
		勞働者(見習工を含む)	七五	勞働者(見習工を含む)	七五	勞働者(見習工を含む)	七五
		事務員	一八	事務員	一八	事務員	一八
		少年従業員	三	少年従業員	三	少年従業員	三
		總計	一〇七	總計	一〇七	總計	一〇七

本概説が包容するこゝを得なかつた本地方國民經濟の諸部門は多數に上つてゐる。例へば運輸事業は解説せられず公共事業に關する計數及び國民經濟のその他若干の部門に關する計數は掲げられてゐない。最後に、或る種の經濟要素の分析に至つては、ただその一部分を擧げたに過ぎない。即ち勞働に關する項は勞働力に關する量的指數のみを掲げたるに過ぎまり、勞働階級の經濟的福祉に關する計數は全然掲げてないのである。凡ゆる細説部分が本論に於ける最も大なる缺陷をなすものなるこゝを自覺しつつ、而も吾人は見らるる如き形に於て概論を試みるの餘儀なきに至つた。何となればこれら總ての項目に一々手を入る時はその仕上げ及び資料の組織化に多大の時間を要するであらうからである。この事實より就中次の如き結論が導き出される。それは即ち、監査統計の業は實生活の要求に遅れをる現状であり、従つてその再建のためには即刻、擔まざる努力が必要であるといふこゝである。

## 第二章 第二次五ヶ年計畫に於ける 西部シベリアの經濟的建設

ウエ・クジミン  
ア・レイフバウム  
エス・エーデルマン

(註) 本論文の根柢をなすものは、西部シベリア地方計畫本部の手によりて作製せられたる本地方第二次五ヶ年計畫の豫備的資料である。

「マグニトゴルスク冶金工場及びクズネツク冶金工場及びそれらに附屬するコークス化學綜合工場建設事業の急テムボの進展、それと同時に進行はれるクズネツク炭田の發達、ウラル重工業機械製造工場及びシベリア鑛山機械工場の建設——それらに依つて、既に第十六回黨大會によつて豫想せられたる如く、ウラル・クズネツク炭礦合同

さいふ形を以て新しき強大なる炭礦・冶金業根據の鞏固なる基礎は置かれようとしてゐるのである」(第十七回全ソ聯邦黨會議の決議より)。

本地方の有する比類を絶せる天然富源、及び社會主義的經營によるそれら富源の利用の廣汎な可能性、生産力の配分に就いての社會主義的原則の漸進的實施、またソ聯邦東部及び北部の諸地方を今後開發するための工業的根據地としての西部シベリアの意義——これらが即ち、近き見透しに於ける社會主義的經濟の總體系中に本地方が占むる地位を決定するものである。

石炭埋藏量(ウラル・クズネツク鑛業合同の全貯炭量の九五%)の大部分はコークス化せられ、以て西部シベリアをしてウラル・クズネツク鑛業合同の主要なる燃料根據地たらしむるのみならず、(ドネツ河流域炭田地方に次ぐ)ソ聯邦第二の大炭田たらしめる。

クズネツク地方の石炭にウラルの鑛石を併せ、その上になほ本地域内の鑛床を廣汎に利用し得ることに依り、西部シベリアは鐵鋼生産の大中心地の一たり得ることが出来る。クズネツク冶金巨人工場の建設は、本地方に於ける冶金業の進展の單に端緒をなすものに過ぎぬのである。

水力發電所及び燃料の屑及び廢物を利用する火力發電所によつて安價なる電力を得ることに可能は、本地方の經濟の新しき技術的根據を保障することに同時に、就中その製造過程に多大のエネルギーを要する高價なる製品(有色金屬及び輕金屬等)の生産に於ける西部シベリアの専門的地位を決定するものである。

石炭化學、木材化學及び基礎化學のための原料根據地（クルチンスク及びバラービンスクの諸湖沼）の現存は、有色金屬冶金業の進展に電化事業の廣汎なる可能性に相俟つて、本地方に於ける化學工業の廣汎なる發達のために不可缺の前提をなすものである。これに關し特に重大なる意義を有するものは、瀝青炭及びサブプロベリート炭の蒸溜による液體燃料の生産である。

最後に、『採炭業の發達、鐵鋼及び有色金屬の冶金業、化學、發電所建設、輕工業、あらゆる運輸業進展、及び巨大なる機械化せられたる國營農場及び集團農場の建設の發達——これらは、第二次五ヶ年計畫年度に於ての、本地方冶金業の歩調を一にする一大機械製造根據地の創設を決定するものである』（第一回西部シベリヤ地方黨會議の決議より）。

農業をば、その穀物部門に於ても、また特に畜産の部門に於ても發達せしむることに依り、而して又工業作物の農業生産に於ける比重を高むることに依り、西部シベリヤは輕工業及び食料嗜好品工業發達のための原料根據地を擴大すべく、かくて、『新しき諸地、即ち農産原料の生産地方に於ける輕工業及び食料品工業の發達を強化する必要上、一人の需要量の規準を三倍にする』（第十七回黨會議）課題の解決に於ける、本地方の壯大なる役割をば決定するものである。

膨大なる森林富源及び工業建設によるその需要は、森林開發の強大なる發達を約束するものであり、且つその發達は凡ゆる木質纖維の最も完全にして完璧なる利用法の組織に最も緊密に一致せしめられなければならない。

最も巨大なる地方的經濟の「複合體」——結節の形成、數多の新しき工業地方の生起、本地方領域の全般に亘り一層均等的に工業を配分する過程、各地方地方の經濟の分業化及びそれら地方相互間の協同、人口稀薄なる新地方の開發、及び最後にウラル・クズネツク礦業合同の個々の部分間に於ける經濟的結合の鞏固化及び複雑化——これら總ての達成は懸つて運輸的結合の如何にあり、從つて運輸事業建設の廣汎なる發達を要請するものである。

西部シベリアの經濟的發達に關する一般的及び根本的諸問題は以上の如くである。

ウラル・クズネツク礦業合同の體系及びソ聯邦全經濟の體系に於ける西部シベリアの地位及び役割を定め、また西部シベリア地方の經濟發達の具體的進程の諸問題を解決するに際しての中心的諸問題の一つをなすものは、生産力の配分の原則に關する問題である。

ウラル・クズネツク礦業合同の創設は、この配分に社會主義的原則を適用せる明らかなる例をなすものである。かかる根本的諸原則にして、西部シベリアの經濟諸部門の發達の具體的計畫中に反映せるものを例示せば次の如くである。

第一に、社會主義的企業聯合の原則。これは現代技術の最新の達成に立脚し、産業の國民經濟的效果を最大限まで向上せしむる可能性を有し、而も同時に生産費の水準を低下せしむるものである。實にこれらの原則に依つてのみ、レーニンによつて提起せられた課題、即ち、『資本主義よりも一層高度の社會組織の創造、すなはち勞働の生産能力の向上、而してこれに伴ひ（またその爲めの）その一層高度の機構』といふ課題は、實現するこゝが出来

のである。

社會主義的企業聯合の原則は、近き見透しに於て、ウラル・クズネツク鑛業合同の一部としての西部シベリア同鑛業合同の他諸地方（ウラル・カザクスタン、その他）との連絡の深化に就いても、またウラル・クズネツク鑛業合同の西部シベリア部分内に地方的「複合企業」を創設し且つそれらの間に協同操作を圖ることに就ても、彌々發達をなさんとしてゐるのである。

今、第一次五ヶ年計畫に於てウラル・クズネツク炭田間の聯合が、その根本に於てはウラルの鑛石ミクズネツクの石炭ミの結合にあつたことをすれば、第二次五ヶ年計畫及びその後の年度に於ては生産的結合は、電化の將來の發達、ウラル・クズネツク炭田地方間の強力なる超高壓送電線の創設、化學の發達、機械製造業に於ける分業化及び協同操作等々の諸要素に基いて、更に多方面にして且つ深刻なる性質を帯びる筈である。ウラル・クズネツク鑛業合同は、生産の種々の部門の多方面なる經濟的協同及び聯合の體系を創造しつつ、同鑛業合同の地域内の凡ての地方の天然富源の利用をば最大限にまで許すであらう。第二次五ヶ年計畫年度に於けるウラル・クズネツク鑛業合同の主要燃料根據地をなすものは、カラガンダ・キゼル及びチョリヤビンスク炭層の極大的發達を伴へるクズネツク炭田であらう。ウラル・クズネツク鑛業合同の西部シベリア部分内に於ては、工業の新配分の根體形態をなすことの地方的諸「複合企業」が、發達を示すであらう。

地方的「複合企業」は何ぞと言ふに、それは産業の種々の部門の綜合企業の協同體系の謂である。即ち、先づ

第一に當該地方それぞれの原料資源の利用によつて生起し、經濟的及び技術的結合によつて合同し、而して地方發電所の動力結節に依存するところの、動力化學、化學冶金、機械製造、冶金造機、石炭コークス化學、木材化學、農業、輕工業等々の諸綜合企業のそれぞれが形成する、協同體系の謂なのである。

コムアカデミヤによつて新刊せられたる「社會主義的工業の經濟機構なる書」には、その擁する富源の性質及びそれら複合體の多種多様なるに從ひ、一々その主要特徴を區別しつつ、地方的複合體の一般的圖式を根本に於ては正しく樹立してゐる。即ち、

一、動力結節。——現地の燃料及び水力資源による出力大なる發電所。

二、安價なる電力の利用、熱力及び汽力供給の單一網、及び原料及び生産の凡ゆる廢物の極大的全面的加工——の上に立つ工業諸部門の綜合企業。

三、生産、操業始動準備、及び地方複合體全體の基本的決定的樞軸としての諸綜合企業の正しき經營——を保障するところの殘餘の凡ゆる工業諸部門の發達。

四、農産業ミ工業ミの聯繫

五、該地方の障礙なき發達、同地方ミ他の諸工業中心地及び經濟的周邊ミを結ぶ全面的連絡——を保障すべき、運輸連絡（有軌及び無軌路線）系統の創設。」

すなはちこれら地方的複合體なるものは、或る一定部門に主役を演ぜしめつつ生産の分業化を本として建設せら



るるものであり、該地方複合體と他の諸複合體との間の、また該地方複合體と全體としての國民經濟總體との間の建合目的なる技術・經濟的連絡を本として、建設せらるるものなのである。故に、地方的複合體は、それ自らの領域内に總ての國民經濟部門を具有するところの孤立經濟ではあり得ぬものである。

第二に、開發の遅れたる諸民族邊疆及び諸地方の強行軍的社會主義的工業化の原則。

既に東部地方に於ける第二石炭冶金業根據地の組織といふ事實自體にしてからが、先代の遺産として吾人の手に傳へられたる歴史的反目——細叙せば、比較的狹隘なる地域内に工業的發展の聚中を見たる中部工業地方及び南部地方を一方とし、従前帝政内地の植民地的邊疆であつた、開發遅れたる龐大なる農業的東部地方をその相手方とする、それら相互間に存し來りたる歴史的反目を剪除すべき途への、巨大なる一步が踏み出されたことを示すものである。

ソ聯邦東部諸地方經濟の内部的再建にしてからが、開發の遅れたる諸民族地方をば社會主義的工業化のプロセス内に牽き入れることを大本とせねばならぬことは、今更言ふまでもない明白なことである。就中西部シベリアに於いては、ハカシア地方及びオイロチヤ兩州の發達、及び北部諸地方の開發が、確保せられようとしてゐる。

第三に、都市、農村の間の矛盾を剪除するための諸條件の醸成。而してこれは、それと同時にまた、生産力の最大限の均等的配分、及び加工地及び完製品生産地の原料資源藏有地への接近をも豫想するものである。

農作の機械化及び畜産業の基本的諸プロセスの電化、殊に製乳業の電化、工業と農業との間の聯繫工作、運輸連

絡の凡ゆる種類の發達、商品取引の物質的、技術的根據地の再建設、農業諸地方に於ける新らしき工業中心地の發達——これら總ては生産力の新配分を創造するものであつて、従つて都市と農村の間の矛盾清算のための條件を醸成するものである。

第四に、生産力配分の基本的原則の一として、國防力への關心及び外國への從屬から解放さるゝ事への關心がある。

既に第十五回大會の決議にも、次のことが強調せられてゐる。曰く、「ソ聯邦の經濟力及び國防力を最も短期間に向上せしめ、萬一經濟封鎖を蒙れる場合の發達の可能性の保證となり、資本主義的世界への從屬を弱むることをきそれ等の重工業諸部門に、最大の急テムボが賦與せられなければならない。」

## 二

西部シベリアの經濟的發達に於いて、特に責任重き役割を擔ふものは電化である。

電力は、生産組織及び生産方法を革命しつつ、經濟全般に新しき技術的根據を導入しつつ、經濟の動力抱擁力を無限大に増大せしめつつ、經濟の凡ゆる部門、凡ゆる生産過程に滲透せねばならず、又現に滲透しつつあるのである。強大なる動力資源の存在（ソ聯邦全體の資源中約三分の二を占むる）、電力の諸源泉をばその需要者に接近せしめ且つ本地方全地域に亘り均等に配分排置することの可能、高價なる諸製品を製出する動力消費量大なる諸生産の

發達のための好適なる諸條件、それら諸生産への本地方經濟の分業化、運輸業に於ける電力需要の急激なる増大（運輸業の電化なくしては、巨大なる貨物の流れを扱ひこなすことは不可能である）、——これらの諸要素は相俟つて、電化をして本地方の工業化に於て主役を演ぜしむるものである。電化はまた、今後農業の技術的再武装に於ても重大なる意義を有するであらう。豫測的概算の示す所に依れば、第二次五ヶ年計畫の終期に於て既に本地方の電力需要量は、百五十億乃至百七十億程度に推定せられる。電力の最も大なる需要者としては、有色金屬冶金業（亞鉛、銅、アルミニウム、マグネシウム）、化學工業（電氣分解による鹽業、苛性曹達の製出、人造彈性ゴム及び人造纖維の製造等）、及び鐵道運輸が豫想せられる。また電力は農業、殊に畜産業に於て著しく應用せられる。生活上の必要に宛てらるる電力消費量も急激に増大（一九三二年に比し二十五倍乃至三十倍）する筈である。斯くて發電所は、綜合經濟のあらゆる優越點の最大限の利用の上に立つころの、唯一の強力なる動力經濟をなすであらう。火力中央發電所は、選炭の殘廢物（中間的製品、粉炭）、液體燃料を得るための石炭乾溜の殘廢物（半コークス、粗製瓦斯）の存在する諸地點に建設せられるであらう。水力發電所は先づ最初に、比較的その調節容易なるビヤ河の水力の利用に、エニセイ河上流の一層強力なる水力の利用の上に計畫せられてゐる。發電兼熱源供給所は、水力と熱力との綜合に於いて電力を生産する火力中央發電所と同機にして建設されるであらう。發電兼熱源供給所は單一の高壓送電線によりて連結せられ、以て必要なる貯電量を減少せしめ、且つ諸發電所の事業のダイヤを充實せしめるであらう。而して動力生産技術の著大なる聚中及びその高き水準は、發電所の規模の雄大、燃料の準備に

燃焼の合理性、ボイラー及びターボジェネレーターの出力の大きさ、蒸氣の高壓及び高温、送電線の高壓さ、及び蒸氣が技術的及び生活上の必要に廣汎に利用せらるること——等に遺憾なく反映せられるであらう。計畫的な社會主義的經濟の優越性は、北米合衆國の『前衛的』經濟に於てすら發電所の仕事の負荷が年三、二〇〇——三、三〇〇時間を越えざるに反し、吾人の計畫しつつある動力經濟の組織的形態にあつては、一發電所當り一年の仕事の負荷を六、〇〇〇時間にまで計畫することを得る事に、明かに表現せられるのである。動力經濟の計畫的組織の優越性はまた同じく、電力の安價さによつても物語られる。即ち、發電所のターボジェネレーターの夾壓器上に於ける一KWの原價は、エニセイ河水力發電所の〇・七五哥より、ノヴォシビルスク地方火力發電所の一・五七哥までの間に計畫せられ得るのである。

本地方の第二次五ヶ年計畫に對する豫備的資料に依れば、電力生産の基本的中心としては次の如く立案せられてゐる。ケメロヴォ（火力中央發電所の出力六二二、〇〇〇KW）、クズネツク（七五八、〇〇〇KW）、ノヴォシビルスク（三八五、〇〇〇KW）、オムスク（三二〇、〇〇〇KW）、バルナウル（二三四、〇〇〇KW）、ハカシヤ（一三四、〇〇〇KW）。これら諸地點は總べて、壯大なる動力工業綜合企業の中心地となる筈である。またその他に、既に第二次五ヶ年計畫年度内に、ビヤ河の三水力發電所が發電を開始すべく目論まれてゐる。その出力合計二六〇、〇〇〇KWであつて、一年中を通じて均等なる電力を供給し得るものである。またエニセイ河水力發電所の第一次建設（所謂『大曲り』附近）も完成せらるる筈であつて、その出力は三三〇、〇〇〇KWで

ある。これら巨大なる発電所の他に、比較的小規模なる多数の発電所も目論まれてゐる。即ち、アチンスク発電所（アチンスク・腐泥炭の加工操作の残廢物に依る）、クセニエフカ発電所（木材の屑に依る）、カルガソク発電所（泥炭に依る）等これである。また高壓送電線（電圧一一〇乃至三八〇KV）網に次の如くに立案せられてゐる。東部に於ては、エニセイ河水力発電所よりハカシヤ発電兼熱源供給所を経てクズネットク発電兼熱源供給所に接続せられ、以てクズネットク地方がその最大パワーを要する時期に當つてより安價なる電力を供給する。同時に、ハカシヤ発電兼熱源供給所より發する送電線は、金礦地方を経てケメロヴォ発電兼熱源供給所に當る。この送電線は、トムスク（同市には燬房用の小発電所のみが設置せらるる豫定）をも含むクズネットク炭田の北部全部に電力を供給し、然るのちクズネットク発電兼熱源供給所に接続する。ケメロヴォ発電兼熱源供給所はトブカ・ユルグ送電線によつてノヴォシビルスク発電兼熱源供給所に接続せられ、又クズネットク発電兼熱源供給所はムンドイバシを経て、ビヤヤ河水力発電所と接続せられる。而してビヤヤ河水力発電所はバルナウル発電兼熱源供給所に接続せられ、次にバルナウル発電所はノヴォシビルスク発電所に接続せられる。ノヴォシビルスク発電兼熱源供給所より送電線は西方オムスクに至り、同市に於てシベリアの電力はウラルの電力と接合し、斯くてウラル・クズネットク鑛業合同の二つの基本部分の動力經濟を單一の動力綜合體にまごめ上げるのである。本地方の凡ての工業地方を包容し、且つ本地方内の二民族州——オイロチヤ及びハカシヤの經濟發達上に電力を保障するところの斯かる送電網は、即ち西部シベリアの社會主義的建設テムポの促進のため必須の條件を形成するものである。

## 三

既に一年餘の前のことであるが、全聯邦共產黨中央委員會は、『至急にクズネットク炭田地方をば、石炭、コークス化學、石油その他工業諸部門の發展のための根據地たらしむべし』課題を提起したのであつた。

若しキゼロフ炭田がウラルの化學工業炭需要を完全に満足し、而も同炭田に牽引せらるるコークス工業施設の需要の大半を満たすものであり、またチェリヤビンスク・エマンジュリンスクの褐炭がウラルの需要する動力開發用石炭の大半を保障し、而して最後にカラガンダ炭田がカザクスタンの需要する動力開發用及び冶金用石炭を保障するに同時にまたバシキリヤ、ハリロフスク地方、及びウラル南部の經濟に冶金用石炭及び一部分の動力開發用石炭を供給するものせば、叙上の情勢に於てクズネットク炭田の擔はねばならぬ負擔は極めて大なりと言はなくてはならぬ。

クズネットク炭田はウラル中部及びウラル東北部の冶金業に要するコークスの需要を満たし、液體燃料製出の原料を供給し、西部シベリア經濟が要求する動力開發用石炭の殆ど全量を供給し、而もその上に、上記の諸々の需要が特に急激に伸長したる場合或ひは同綜合企業内の他の諸炭田の發達が阻害せられたる場合に備へて豫備量を有しなければならぬ。ミスシンスク及びアチンスク炭の供給範圍は寧ろ頗る狹隘であつて、これら石炭の意義は現地の需要を蔽ふの範圍を出でぬのである。一九三二年に既に開坑し、又は既に建設に着手し又は建設に着手せられるべ

き整坑は、第二次五ヶ年計畫の終期（一九三七年）には六〇、〇〇〇、〇〇〇噸に及ぶ總採炭量を有するに至る筈である。第二次五ヶ年計畫に對する豫備的資料によれば、本地方自身の需要量を四八、〇〇〇、〇〇〇乃至五〇、〇〇〇、〇〇〇噸（そのうち半コークス化せらるるもの一六、〇〇〇、〇〇〇噸）を算定して、一九三七年の採炭量六五、〇〇〇、〇〇〇乃至七〇、〇〇〇、〇〇〇噸を目論んでゐる。今西部シベリヤ諸炭田地方間に於ける採炭プログラムの進行状態を見るに、概略次の如くである。クズネット炭田——九〇%、ミスシンスク炭田——六%、チュルイムスク・エニセイスク（アチンスク）炭田——四%。クズネット炭田に含まるる諸地區内に於て、採炭プログラム中にその比重を増大すべき凡ゆる根據を具有すべきものとしては、プロコビエフスク及びレニンスクの二地區がある。即ちこの二地區は、冶金業にも又液體燃料を得るための乾溜にも共に好適なる石炭を産出するのである。第一次五ヶ年計畫中に進展せる炭坑建設の業は、勿論クズネット炭田地方に於ける採炭の急激なる伸長を確保するものではあるが、これは云へ第二次五ヶ年計畫年度に於てもその建設を停止する譯には行かないのである。炭坑の新建設は、その殆んき全部が採炭量一、二〇〇、〇〇〇噸以上の大炭坑のみであるが、その建設は本地方全體に亘り周密に検討作製せられたる複合體的計畫・目論見に依つて着々行はれるであらうし、而してこれらの計畫目論見は實に狹義の炭坑建設を含むのみならず、亦同地方内の多少も採炭業に關係ある凡ゆる建設事業をも包含するものである。石炭工業に奉仕すべき多數の機械工場の新建設及び再建設、一九三三年には操業を開始すべきノヴォシビルスク鑛山機械工場、既に一九三二年には發電を開始するケメロヴォ及びクズネット地方中央發電所——こ

れらは、近き三、四年のうちにクズネット炭田地方の炭鑛業が完全に機械化せらるべきことを保障するものである。採炭、運搬、石炭の地上への搬出、貨車積込の基本的諸プロセスは總べて、あらゆる炭坑に於てこの短期間内に機械化せられるであらう。勿論地方の異なるに伴ひその機械化方法の異なるべきは言ふ迄もない。然しながら機械化の基本としては單一の一般的機械化のプランが置かれなければならない。上記の如き規模に於ける機械化計畫が正しき労働組織の下に實現せられたる曉には、労働生産能力は一九三二年に比し殆んき二倍に増大し、斯くて採炭に従事する労働者一人當り一ヶ月の生産能力は五二乃至五四噸に達するであらう。

選炭問題は大きな注意に値する問題である。特殊炭（冶金用、化學用その他）の要求の増大、而してその一方現地の動力開發用（アラリチエヴォ地帯）の比較的粗惡なる石炭の採掘——これらは即ち選炭工場の建設を一層促進すべきことを求めるものである。かかる選炭工場の建設は先づアラリチエヴォ及びケメロヴォに必要であり、續いてレニンスク、プロコビエフスク及びオシノフカに必要を考へられる。

クズネット炭田地方をして、ドネット炭田地方に次ぐ第二の大炭田とするためには、叙上の如き道に依らねばならぬのである。

一九三一年の地質學的、試掘的研究は、本地方冶金業の原料根據地を著しく擴大した。それら研究事業は本地方の鐵鑛埋藏の既知量を二倍半に増大し、以て數箇の龐大なる冶金大工場の建設の可能を保障し、而して又『シベリヤに於ける需要の増大を満足するため、同地内に冶金業を創設する』（スターリン）といふ課題遂行の可能を保障

したのである。ソ聯邦の他の諸冶金業地方に比しシベリアの冶金業が有する優越點の尤たるものとしては、良質にして且つ安價なる熔鑛爐用燃料の龐大なる埋藏、及びコークス化せらるる石炭の豊富さの他に、電力の比價を見ざる安價といふことも算へられる。これらの優越點は西部シベリアをして、遠方より輸送せらるる原鑛、貧鑛、含鐵石英岩、採掘條件によりて高價なる生鑛——を利用することを得しむるに同時に、一方また電力消費量の大なる諸冶金業（電氣熔解、合金鐵その他）の發達のための好條件をなすものである。冶金業の發達は機械製造業、金屬加工業、化學、運輸業その他の發達の基礎をなすものであるから、その西部シベリアに於て有する意義は寔に決定的と言はざるを得ない。

鐵鋼冶金業に於ける基本的地方は、自己の原鑛と自己の石炭と自己の水力と安價なる動力とを有するクズネットク地方及びハカシヤ地方である。クズネットク地方に對するこの數年間の目論見は、その自己の鐵鑛資源を開發することの困難なるに鑑み、一部分（需要の約半分）マグニトゴルスクの原鑛の供給を受くることの必要を認めてゐる。この條件下に於ては、第一クズネット工場と同型の二つの工場が、向ふ三〇乃至四〇年間に亘りゴルノ・シヨルスク鑛層の鐵鑛を以て支へられるであらう。ハカシヤ地方に於けるこれと同型の一工場が、完全に現地の原鑛によつてのみ操作するものせば、その埋藏量は向ふ四〇乃至五〇年間を支へるであらう。またクズネット地方の冶金業にテイスク鑛床の鐵鑛を供給することも全く可能である（本鑛層は鐵鑛層の連脈中ハカシヤ群脈の西方に位し、同群脈中最も豊富にして且つ最もクズネット地方に近きものである）。此の如くに鐵鑛の埋藏を協同せしむる時は、第

二次五ヶ年計畫年度に於て既に、鐵鋼の精鍊量を三、〇〇〇、〇〇〇噸に達せしむべく計畫を樹つることが可能である。本地方の鐵鋼需要量は、第二次五ヶ年の終期に對する概算に依るに、寧ろ幾分この數字を凌駕してゐる（地方計畫部がその第二次五ヶ年計畫に對する豫備的資料に於て算定した所に依れば、一九三七年の鐵鋼需要量は四、〇〇〇、〇〇〇噸であつて、そのうち機械製造業の需要は三、五〇〇、〇〇〇噸と概算せられてゐる）。西部シベリアには近き將來に於て、高級冶金業の發達も開始せられなければならない。蓋し本地方に於ける機械製造業の發達は合金鋼に對する著大なる需要を示してゐるのである（一九三七年には二〇〇、〇〇〇噸に達する見込）。國家計畫委員會のウラル・クズネット鑛業合同労働者團の資料中に引用せられたる主旨——『吾々は量に於ける勝利に數倍する勝利を質に於て收めなければならぬ』は、全く正しい言はなければならぬ。北米合衆國に於ては、鋼の總生産高中に占むる合金鋼の比率は七％に達してゐる。近き數年内に、恐らくはクズネット地方に、高級金屬及び合金鋼の工場が建設せらるる筈である。ソ聯邦中に第二位を占むる炭鑛・冶金根據地（西部シベリアは實にその一部を成すものであるが）は、常に多量の金屬を産出することに過ぎならず、多量の高級なる金屬を産出しなければならないのである。

近き見透しに於て、西部シベリアの眼前には、有色金屬及び輕金屬の生産發達の課題も亦横つてゐるのである。ペロヴォ亞鉛工場の操業開始、及びケメロヴォ亞鉛・鉛・硫酸綜合工場の建設によつて、シベリアの有色金屬冶金業の端緒は開かれた。最近に至り發見せられたるハカシヤ州の銅鑛の埋藏、及び近き將來に於て既知埋藏量が著増を

示すべき見透しは、相俟つて本地方に於ける銅生産の組織いふ課題を提起するものである。一九三七年に於ける本地方の銅需要量が五〇、〇〇〇乃至六〇、〇〇〇噸に算定せらるることを思へば、この課題が遅延を許さざるものであることは首肯せらるるであらう。本地方の銅需要量がかかる巨額に達すべきことは、多くの比較資料によつて證據立てることが出来る。即ち、一九二九年には全世界の銅生産高は重量に於て、鉄鐵の生産量の二%を占めてゐた。依つてこの係数を採り、本地方の鉄鐵生産量が四、〇〇〇、〇〇〇噸なることを知れば、銅需要量は八〇、〇〇〇噸に算定せらるるのである。北米合衆國に於ける一人當り平均一ヶ年の銅需要量は、一九三〇年には、六・五噸であつた。本地方人口は第二次五ヶ年の終期には一千万人に達すべく、従つて右の割で見れば銅需要量は六五、〇〇〇噸なる譯である。

ハカシヤ州内に存するバズイルスク、マインスク、ト、イムスク、ユリエフスク、テミルスクその他の鑛床の金屬銅の埋藏量の見透しは、八五〇、〇〇〇噸に達する。而も、バズイルスク鑛床はその埋藏量に於てウラルの多數の鑛床を凌駕し、わづかにカザクスタン及び中央アジアの最大の鑛床に譲るのみである。発見せられたる鑛床は總べて比較的鐵道に近き、或ひはエニセイ河に近き、人煙を存する地點にあつて、その開發には特に鐵道の大敷設を行ふ必要もなく、また特に運河を開鑿する必要もない。これら條件は相俟つて、近き數年内にハカシヤ州に、向ふ十一年乃至十二年を維持するに足る銅鑛の既知埋藏量を擁する、生産能力五〇、〇〇〇噸なる銅精鍊、電氣分解綜合工場建設を目論むことを得せしむるものである。現地に電氣分解業を組織することの合目的性は、今更に理由づ

けを必要とせぬであらう。何故ならば、若し現地に電氣分解工場を缺くものとせば、數萬噸の原鑛をウラルへ運送し、其處にて電氣分解を行ひ、然る後にシベリアへ返送して赤銅として機械製造業及び金屬加工業の需要に應ずべくせぬばならぬであらう。エニセイ河水力發電所及びハカシヤ發電兼熱源供給所を基としてハカシヤに銅精鍊、電氣分解綜合工場を建設することは、同綜合工場の生産を冶金工場と連繫せしむることを得しめ、この動力・工業綜合企業内に、化學工業——硫酸、肥料その他の製造の發達のための前提をなすものである。シベリアに於ける銅工業發達の見透しは、叙上の如き第一次綜合企業のみ局限せられるものではない。次第に進展し行く地質學的・試掘的研究が、ひゞりハカシヤ州にのみならず本地方の他の地域にも多くの新鑛床を發見すべきことは疑ひを容れない。既に今日に於ても、オイロチヤ州内に多數の銅鑛床の存することが知られをり、而も、勿論これは豫備的の極めて概算的な計算ではあるが、それに依ればその中の最も大なる鑛床の埋藏量だけでも、一九三二年に發見せられたるハカシヤ州の諸鑛床の埋藏量の合計を凌駕するものと算定せられてゐる。こは云へオイロチヤ州の諸鑛床は未だ全然研究せられてゐないのである。その研究の課題は特に焦眉の急であらねばならない。

西部シベリアに於ける亞鉛生産の發達のための好前提の一つをなすものは、電力が安價なることである。何となれば亞鉛の原價の中に電力の占むる比率は殆んど二五%に上るからである。即ち電力一KWHの原價に於ける半哥の差違は、積り積つて亞鉛一噸の原價に二五留方の變化を生ぜしめるのである。この事情は即ち、西部シベリアには亞鉛の原料根據地の著しきものが缺如しをるにも拘はらず、而もなほ本地方に於ける亞鉛生産に有利なる展望を

與ふるものである。既に一再ならず新聞紙上に現はれたる計數に依るに、ケメロヴ・亞鉛・鉛綜合工場に對しては精選礦の頗る長途の輸送を必要とするに拘はらず、その製品の單位の原價は、リッデル (Ridder) に於て直接亞鉛を生産する場合の原價に比して低いであらうことが示されてゐる。ソ聯邦の金屬亞鉛貯藏總量中六〇%以上を所有するウラル・クズネツク鑛業合同總體が若し、『有色金屬を全國に供給する事に於ける主要且つ最も權要なる根據地』(ソ聯邦國家計畫委員會ウラル・クズネツク鑛業合同労働者團資料) なりせば、西部シベリアがウラル・クズネツク鑛業合同の有色金屬生産中に占むる地位は、本地方の動力經濟が齎らす諸優越點によつて、頗る顯著なものがあると言はなければならぬ。ケメロヴ・亞鉛綜合工場は、經濟の他の諸部門と聯繫せられ、且つ最尖端的技術を以て造られたる能率高き企業のも、明らかなる實例となるであらう。ケメロヴオ發電兼熱源供給所の安價なる電力(需要者渡し値段一・四哥乃至一・五哥)は、電氣分解による亞鉛生産の根據を成すものである。精選礦燃焼の際に捕へらるる亞硫酸瓦斯は硫酸に變形せられて、ケメロヴオに設置せられたる諸生産業(窒素肥料綜合工場その他)に供給せられるであらう。斯くの如く亞鉛生産の廢物たる硫酸を直ちに現地に於て利用し得ることが、西部シベリアに於ける亞鉛生産の發達に對し更に一つの根據をなすものである。機械工業、殊に電機工業の有色金屬需要が益々尖鋭化するに伴ひ、その生産能力亞鉛一〇〇、〇〇〇噸を目論まれるケメロヴオ綜合工場の建設完了は、愈々促進を迫られるのである。同綜合工場に於ける鉛の生産には、自己の瀧洋餅<sup>ワタナベ</sup>、及びサライルより送達を受くる鉛精選礦が利用せられる筈である。ケメロヴオ綜合工場の目論見に依れば、鉛の生産量は一八、〇〇〇噸になつてゐる。然し

その將來發展につれて、同綜合工場は西部シベリアの精選礦によつて保障せられねばならぬであらう。既に現在にあつても、テミル・タウの鐵礦の選礦に際して、序でに若干量の亞鉛精選礦の得らるることが發見せられてゐる。豫備的算定によれば、この精選礦を以て八〇、〇〇〇噸の亞鉛の生産を保障することが可能である。複合鑛より亞鉛精選礦を技術的に抽出することは全く實現可能である。

一九三一年に操業を開始し、自己の原鑛根據地サライル鑛床を有するペロヴオ亞鉛工場は、近き數年内にその生産力を亞鉛二〇、〇〇〇噸にまで擴大するであらう。原鑛根據地の埋藏量は完全にかかる擴張を許すものであり而してこの擴張は投資の効率を著しく高めるであらう。

アルミニウムの生産は、ひゞり本地方に於てのみならず、全聯邦を通じての新産業である。一九三二年には初めてソヴェート産アルミニウムが精鍊せられる筈である。ソ聯邦全經濟の技術的再武装は、アルミニウムを需要するところ頗る多大である。第十七回黨大會の第二次五ヶ年計畫に對する指令に依れば、全國の需要を完全に満足するために必要な量にまで、アルミニウムの生産を達せしむべきことが課題せられてゐる。アルミニウムの生産を亞鉛の生産よりも更に發達せしむるための好條件として、安價なる電力の供給の可能性がある。何となればアルミニウム一噸の生産には二四、〇〇〇乃至二五、〇〇〇KWHの電力を要するからである。西部シベリアに於ては、ビーヤ河水力發電所及びエニセイ河水力發電所は、ターボジェネレーター<sup>ターボ</sup>の爽壓器上に於ける原價一KWH當り〇・七五乃至〇・八五哥の電力を生産する筈であり、これは現在知られる限りソ聯邦内にて最も安價なるドニエール發電

所の電力原價を僅かに超える程度である。西部シベリアに於けるアルミニウム生産發達の根底をなすものは、近き數年間に於ては耐火粘土(多數の層脈に於ては三〇乃至四〇%の酸化アルミニウムを含有する)及びハカシヤ州のウルトリートであらう。その他にも、プロコビエフスク地區の石炭を淘汰したる際に生ずる鑛尾も亦その原料たり得るものである。これら鑛尾は三七%に達する酸化アルミニウムを含有し、地方工業試験所の手によつてなされた試験の豫備的資料は、この方面に於ける利用が極めて有望なることを物語つてゐる。

一九三一年に本地方内ニケ所(チュムイシ河畔及びヤシキノ附近)に於て鐵礬土<sup>ヘム</sup>が発見せられたことは、アルミニウム工業今後の發展を下する上に頗る重要な意味を有する。今日に於ては、西部シベリアの第二次五ヶ年計畫豫備資料に依るに、ニケのアルミニウム工場の建設が目論まれてゐる。一つはビースクにであり、他はハカシヤにある。アルミニウム工業の斯かる配置を決定するに至つた條件は、第一は安價なる電力を提供する水力發電所に密接し居ること、第二は主要原料資源が近く存在すること(即ち、ビースクに對してはボロトニンスクの耐火粘土、ハカシヤに對してはウルトリート)である。本地方のアルミニウム工業の發展の見透しに於ける根據の強弱を卜する上に於て、次の如くシベリア諸工場のアルミニウム一應當りの概算原價を、ソ聯邦の他の諸企業の計畫原價と對照することは極めて興味あることである。

アバカンスク 綜合工場	ビースク 綜合工場	パニエプロフスク 綜合工場	レニングラーフ 綜合工場
1150-1420円	1300円	1166-1450円	1550-1730円

右の比較は、西部シベリアに於けるアルミニウム工業の發達にまつて不可缺の前提が具はつてゐることを確證するものである。而も若し一層良好なる原料發掘に成功したならば益々シベリアのアルミニウムの値段の低下を來すべきを思へば尙更のことである。

シベリア工業の發達の見透しに於て、特殊の地位を占むるものにマグネシウム生産がある。マグネシウムも他金屬の合金は、先づ何よりも、ソウェート聯邦に於て急激なる發達を見つつある自動車製造及び飛行機製造に廣汎なる用途を見出すであらう。西部シベリアに於ては、マグネシウムはクルンチンスク・ステップの諸湖沼(ポリシエ・ヤロヴォエ湖及びクチュクスコエ湖)の鹽化物より大量に得らるる筈である。西部シベリア地質・試掘本部の手に成る資料に依れば、ポリシエ・ヤロヴォエ湖一湖の天然鹽水を含む鹽化マグネシウムの貯藏のみにても約一五、〇〇〇、〇〇〇噸に達してゐる。クチュクスコエ湖の天然鹽水中に含まるる鹽化マグネシウムの貯藏量は、凡そ一八、〇〇〇、〇〇〇乃至一九、〇〇〇、〇〇〇噸である。マグネシウム生産は特に電力を消費する産業であつて、一噸のマグネシウムの生産には三〇、〇〇〇KWHの電力を要する。茲にまた西部シベリアが動力生産の發達上に有する幾多の優越點を繰返し強調する必要はないであらう。鹽化マグネシウムの貯藏量は安價なる電力と相俟つて西部シベリアに於けるマグネシウム生産の有望なることを物語るものである。無水鹽化マグネシウムの有する吸濕性・侵蝕性は、マグネシウム工業が近接せる安價にして強力なる電源を基礎として發達すべきことを要求するものである。然るときは、マグネシウム綜合工場(マグネシウム及び鹽酸素瓦斯の製造に當る)の建設地として最上



なるものが、バルナウルであることは明かである。何となれば同地の發電兼熱源供給所は出力二三四、〇〇〇KWに計畫せられその電力の原價は一KWH當り一、一三哥の筈だからである。同綜合工場の生産能力を一〇、〇〇〇瓩にせば（これは一九三一年の全世界のマグネシウム生産高を越ゆること二倍に及ぶ）、同綜合工場の携する原料は向ふ數百年間を保障するに足る。

鐵鋼、銅、亜鉛、鉛、アルミニウム、マグネシウム——これらが即ち、西部シベリアが近き見透しに於て生産すべき金屬である。冶金部門に於ける斯かかる發達の可能は、また一面に他の諸部門の發達、殊に化學工業の發達を決定するものである。『化學工業の新建設に於ける第一の課題、而てそのし發展の成功のため缺くべからざる條件の一つは、それが主要なる原料資源に接近して建設せらるることである』（一九二九年八月二十九日全聯邦共產黨中央委員會の決議）。從來本地方に於ける工業部門にして、潜在可能力<sup>ポテンシャル</sup>の間に鋭き離反<sup>ギャップ</sup>を存すること、化學工業に於けるが如きを見ない。しかも一方には、近き將來に於ける本地方自身の化學工業製品に對する需要の増大は、測り知るべからざるものがある筈である。豫備的算定によれば、本地方經濟は一九三七年には、三〇〇、〇〇〇瓩の硫酸、五〇、〇〇〇瓩の無水炭酸曹達、一〇〇、〇〇〇瓩の苛性曹達、四三〇、〇〇〇瓩の合成アムモニヤ、二〇、〇〇〇瓩の人造纖維、六、〇〇〇瓩の百パーセント醋酸、四、〇〇〇瓩のメチール・アルコール、二〇、〇〇〇瓩の精製樹脂及び樹脂油を需要する筈である。以上の計數は多くの場合、寧ろ幾分小に失する恐れさへある。即ち、農業用及びフォルマリンの可塑性物質の製造用だけに限るも、吾人の計算に依ればフォルマリンの需要

は一八、〇〇〇瓩に達すべく、然るときは八、〇〇〇乃至九、〇〇〇瓩のメチール・アルコールの生産を必要とするであらう。また假りに醋酸<sup>アセティック</sup>式人絹の一工場が五、二〇〇瓩の生産力を有つものとすれば、この一工場のみにも八、〇〇〇醋酸を必要とするであらう。

コークス化の規模は、鐵鋼冶金業が必要とするコークスの量に依つて決定せられる。西部シベリアの諸冶金工業の計畫生産力を四、〇〇〇、〇〇〇瓩程度とすれば、その生産力に達する頃にはコークス四、〇〇〇、〇〇〇瓩の生産を保障することゝ要する。なほその上に、クズネット炭田のコークスの需要者としてウラル冶金業がある。假にクズネット炭がウラル冶金業の需要の満足に最小限度に參與するものとしてみると、一九三七年に於けるウラルの鉄鐵精練總量は八、〇〇〇、〇〇〇瓩に達するのであるから、クズネット炭田よりのコークス供給量は少くも二、〇〇〇、〇〇〇瓩に達するであらう。従つて既に第二次五ヶ年計畫年度に於いても、西部シベリアに於けるコークス化量は六、〇〇〇、〇〇〇瓩に達しなければならぬ筈である。新らしきコークス綜合工場は諸冶金工場に附屬して建設せられるであらう。

斯かるコークス化の大計畫にあつては、コークス瓦斯中に含有せらるゝ極めて貴重なる化學製品の量は巨大なるものであるから、コークス瓦斯よりアムモニヤ合成用水素の大量を抽出することゝ相並んで、アニリン染料及び香料・劇薬の如き中間的製品の獨立的工業の發達が必要となる。

アムモニヤ合成の發達は、特に窒素肥料の生産を擴大せしめる。本地方農業の窒素需要量は一九三七年には概略

二五〇、〇〇〇乃至二七〇、〇〇〇噸を算定せられる。また中央アジアの諸共和國及びそれ程ではない迄もカザクスタンは、西部シベリアの産出する窒素肥料の大顧客たり得るものである。ト。ルクスタンシベリア鐵道による(реино-серипта)の輸送の簡便さは、上記諸地方に多量の西部シベリア産窒素肥料の供給を可能ならしめたる根據をなすものである。ロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國國家計畫委員會の計數に依れば、中央アジア諸共和國の需要は、一九三二年は既に硫安六〇〇、〇〇〇噸を超えてゐる。第二次五ヶ年計畫年度に於ける棉の生産高の倍加は、先づ何よりも收穫高の増大に依るものであつて、即ち肥料の使用量を増大するであらう。現地に於ける窒素生産量の伸長を考慮に入れば、西部シベリア産(реино-серипта)の中央アジア及びカザクスタンへの移出可能量は八〇〇、〇〇〇乃至九〇〇、〇〇〇噸に達するであらう。目下建設中の諸窒素肥料綜合工場はコークス化學綜合工場を連絡せられる筈である。

有色金屬冶金業の殘廢物の利用は、硫酸工業の強大なる發達を促すであらう。就中、ハカシヤ銅精練工場を根據とするとき、この可能性は特に大である。同地に於ける硫黃の埋藏量は極めて莫大であつて、第二次五ヶ年計畫に於て建設を目論まれざるにころの一水硫酸 $H_2SO_4$ 一五〇、〇〇〇噸の生産能力ある硫酸工場も、その資源の五%以下を利用するに過ぎざる程である。また選礦工場に於ける銅の微粉を硫酸製造に利用することも大なる可能性がある。ケメロヴォの亞鉛、鉛綜合工場及びベロヴォの亞鉛工場に於ける燃焼によつて生ずる亞硫酸瓦斯のみを利用するだけにても、以て二四〇、〇〇〇噸に達する硫酸を得ることが保障せられる。一〇、〇〇〇噸のマグネシウム生産に際しての殘廢物として、バルナウル綜合工場に於いては二五、〇〇〇乃至三〇、〇〇〇噸の鹽素瓦斯が得られるであらう。また左程多量ではないまでも鹽素瓦斯は食鹽の電解に依つてハカシヤ綜合工場に於ても得られるであらう。

近き將來に於て、クルンチンスクの諸湖沼の富源を複合體的體制を以て利用するにふ問題が、解決を見なければならぬ。クチュクスコエ湖のみの貯藏量にても芒硝三〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸を算定せられ、これを無水炭酸曹達に換算すれば一〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸に達し、同時に殘廢物として一二五、〇〇〇、〇〇〇噸の硫安が得られる(アムモニヤ法により硫酸ナトリウムを處理するものによれば)。本地方第二次五ヶ年計畫の豫備資料に依れば、一九三七年には三二〇、〇〇〇噸の無水硫酸(これは芒硝七二〇、〇〇〇噸に相當する)を處理して、以て一〇〇、〇〇〇噸の無水炭酸曹達、九五、〇〇〇噸の苔性曹達、及び生産の殘廢物として二八〇、〇〇〇噸の硫安を得べく目論まれてゐる。曹達の生産量は現地の需要を辛うじて満たす程度であるが、硫安は貴重なる窒素肥料であつて、その儘もはや何等の加工もせず使用せられ得るし、或ひは之を更に富化し加工して(реино-серипта)にするにても出来る。

幾多の化學産業中に特殊の地位を占むべきものに、石炭の半コークス化及び液化がある。この産業は次の基本的四問題を解決すべきものである。即ち(一)エネルギーを必要諸地方及び原料資源地に接近せしむるに(石炭利用の地方分権化)、(二)遠路輸送の動力資源の必要を無に歸せしむるに(石油、石炭その他)、(三)最高の技

術的経済的形態——電力形態——に於ける動力資源の需要を保障すること、(四)凡ゆるエネルギーの残廢物(富化選礦の残廢物、半コークス、瓦斯、タール、蒸氣その他)を最大限度まで利用するを得しむること。

既に上に述べたる如き發電所生産の配置及び組織の原則は、亦これら四課題の解決の見地より出發してゐるのである。

本地方動力資源中基本的なものである石炭の品質は、上記四課題の総合的解決を完全に保障するものである。レニンスク炭(邊疆地方のものにしてコークス化に適せず)、ミヌシンスク炭、アチンスク及びバルザスの腐泥炭をば液體燃料乾溜のために廣汎に利用する結果は、第一に發電所に安價なる燃料を供給することになり、第二に種々の工業(塗料、染料、腐肥料、彈性ゴム等)に原料を供給することになり、第三に液體燃料を供給することになる。發動機用燃料及び潤滑劑としての需要が極めて大なるに拘はらず、本地方に天然石油の資源が缺如しをること、液體燃料を得るための石炭乾溜に大なる意義を賦與するものである。一九二七年に於ける本地方の液體燃料及び潤滑油の需要量は最低二、〇〇〇、〇〇〇噸に算定せられ、そのうち揮發油及び石油の需要は一、七〇〇、〇〇〇噸以上にする筈である。その一方、發電所の燃料需要量も亦著しく増大するであらう。レニンスク炭及びミヌシンスク炭の半コークス化は、自動車トラクター用燃料を提供すること比較的小量に過ぎまる。今日に於て液體燃料を得るための一層合目的な方法は、コールタールの液化であるとされてゐる。腐泥炭の半コークス化は、完全に良好なる成績を示してはゐるが、然し乍らこの種の石炭の今日迄に發見せられたる埋藏量を以てしては、以て液體燃料

の全生産量をそれに期待することは到底不可能である。

レニンスク炭一、五〇〇、〇〇〇噸に腐泥炭三、五〇〇、〇〇〇噸を液體燃料に加工する過程に於いて、水素を化合せしむることを須ひずして唯半コークス化のみを以て、七六三、〇〇〇噸の揮發油及び石油、六三〇、〇〇〇噸のディーゼル油が得られる筈である。もしレニンスク炭のコールタールに水素を化合せしむる時は、揮發油及び石油の總出來高は一、三三五、〇〇〇噸に上り、ディーゼル油は七五四、〇〇〇噸に上るであらう。その孰れの場合にせよ、一九三七年に於ける本地方の液體燃料の需要を未だ完全に満足すること迄は行かないのである。然し乍ら、數多の根據に徴するに、「石炭自體の液化のプロセスにコールタールに液化の技術を附加すれば、液化に要する石炭消費量は半コークス化の場合に比し半分以上に減ずる譯であるから、以て本地方の液體燃料需要を一〇〇パーセント満たすに足るであらう」(ウラル・クズネツク鑛業合同の問題に関する會議資料)この可能性が、確認せられるのである。本地方計畫委員會は一九三七年に對し、石炭一五、八〇〇、〇〇〇噸を加工して以て揮發油三六二、〇〇〇噸、石油五〇九、〇〇〇噸、黑色鐵油一、二五六、〇〇〇噸、及び半コークス九、七四五、〇〇〇噸を得んことを目論んでゐる。

石炭化學を並んで、勿論その占むる位置は幾分低いとはいへ、亦本地方の經濟的發展の見透した特殊の地位を占むるものに、木材化學がある。既に掲げた計數によつて明かな如く本地方の醋酸、メチール・アルコホル、精製樹脂などに對する需要は昂まるばかりである所で、本地方には各種の木質の蓄積が豊富であるのであつて見れば、

木材化學工業發達の見込みは極めて大であると言はなければならぬ。これに就き特に重大なる意義を有するものは、瓦斯<sup>ガス</sup>發生爐<sup>ジェネレータ</sup>及び自動車トラクター經濟に木炭を使用する問題に對し既に進展し居る研究であらう。この問題の解決は、遠路運搬を要する原油に代ふるに現地の燃料を以てすることに得せしむるに、木炭を最も合理的に利用することに得しむるであらう。木材の最も完全なる利用は、機械的製材業、化學的木材加工業、抄紙、セルローズ産業——これら諸企業が最も密接に綜合的結合を成す時を俟つて初めて可能たるべきである。而して木材化學の發達を俟つて初めて、材質の機械的加工の際に生ずる總べての殘廢物を、完全に利用化し得るであらう。

且つ木材化學は、採汁及び木材乾溜の範圍内のみならず、樹脂・石鹼工業及び樹脂・分離工業の發達、木質糖化の發達、可塑物質<sup>プラスチック</sup>生産の發達等は、最も緊密に製材業と結合せられたる強大なる工業的木材化學企業の創設をば、緊急の課題として提出するものである。故にそれら諸企業は、先づオビ・ナルイムスク、中部チュルイムスク、ハカシヤの諸地方に發達すべく、またその他の木材供給準備及び製材業の盛大なる諸地方に發達を見るであらう。

基礎化學、石炭化學及び木材化學の發達は、人造纖維、人造彈性ゴム、及び可塑物質の諸工業の發達の基を開くであらう。人造纖維工業製品の最大の顧客となるものは、本地方に於て大いに發達を遂げつゝある纖維工業であらう。人造彈性ゴム工業に對し好影響を與ふるものは、火酒釀造工業の發達であつて、これは著大なる馬鈴薯播種地を擁し、且つ火酒釀造の殘廢物の廣汎なる利用を提供するものである。可塑性質の生産はまた、本地方に於ける資

金建設戦線の廣大なるに伴ひ、またウラル・クズネツク礦業合同の經營内に自動車細部の生産が包含せらるゝに伴ひ、益々その重要性を高めるに至るであらう。

本地方化學工業發達の道標は叙上の如くである。吾人の考へに依ればこれら道標は、第十七回黨會議の指令たる『化學工業に於ては、國民經濟總體の發達テムボよりの脱伍を完全に清算すること。特に基礎化學の發達に留意すべく、先づ何よりも肥料生産に留意すべきであり、その爲には諸工場の裝備更新及び百方手段を盡して新建設の發達を確保しなければならぬ』といふことに、完全に合致せるものも考へられる。

『第二次五ヶ年計畫の基本的なる經濟的課題は、國民經濟全體の再建の成就、經濟の凡ゆる部門に對して新しき技術的基礎を創造することである。』

技術的再建に於て主役を演ずべきものはソヴェートの機械製造業である。本會議は、五ヶ年計畫終期に於ては機械製造業の生産高を一九三二年に對し少くも三倍乃至三倍半に増大せしめ以て工業、運輸、連絡、農業、商業等の再建に於ける全需要が、最も完全且つ現代的の諸機械の國産を以て満たされるやうにすることに、必要なりと看做すものである』（第十七回黨會議の決議より）。

此の如くにして第二次五ヶ年の終期には、ソ聯邦の機械製造業の總生産高は、一九三二年の六、八〇〇、〇〇〇、〇〇〇留に對し、約二六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇留に達するであらう。

現在にあつては、ウラル・クズネツク礦業合同をも含めての東部地方がソヴェート聯邦の機械製造業の生産高中

に占むる比重は、大なりと言ふことは出来ない。然し乍ら、東部地方國民經濟全體の急速なる工業化、また他面ウラル・クズネツク鑛業合同の強大なる冶金業の創設は、ウラル・クズネツク鑛業合同地方に於ける機械製造業の廣汎なる發達の爲に、總べての條件を具備するものである。

ソ聯邦第二の炭鑛、冶金根據地は、亦ソ聯邦最大の機械製造根據地に變じつつあり、また變ぜねばならぬのである。既に五ヶ年計畫年度内に、ウラルの機械製造業（ウラル機械製造工場、チエリヤビンスク・トラクター工場、タギーリススク車輛製作工場）及び西部シベリアの機械製造業（嶺山機械工場、合成刈取機工場、蒸汽機關車製作工場、造船工場）の創設に着手せられてゐる。

第二次五ヶ年計畫年度に於て、西部シベリアをも含めたるウラル・クズネツク鑛業合同の機械製造業が、「原料加工操作よりそれに續く半製品の加工の諸段階に移り、更に製品を得るに至るまでの全工程に於ける最少の勞働損失」を保障するところの前衛的なる技術・經濟的諸原則（冶金、造機企業複合、分業化し協同化せる機械製造業の企業複合）に基いて建設せられたる機械製造業の創設に對し、極めて良好なる條件をなす所の鐵鋼及び有色金屬冶金業の發達を平行して、今後益々發達を遂ぐべきことは疑ひを容れない。

ウラル・クズネツク鑛業合同に於て最も大たる發達を遂ぐべきものは重工業用機械製造（冶金用、嶺山用、化學工業用諸機械）であり、また電氣工業であり、更に最も多量の金屬を消費する生産、特に運輸機械及び自動車の製造である。

ウラル・クズネツク鑛業合同に於ける西部シベリアの地位に鑑み、また東部地方全體（東部シベリア、極東地方ヤクトト州）の工業的發達に於ける本地方の役割に鑑み、而して更に各地方間に最も合理的なる勞働の配分を實現する必要及び機械製造業の分業化及協同化實現する必要に鑑みる時は、上記せる諸工業部門中にて西部シベリアに建設するこゝが最も合目的なるものは、主として次の分野に於ける機械製造業である。運輸用（蒸汽機關車、車輛、電氣機關車、河船）、鑛業用（諸機械、壓搾機、ポンプ、掘鑿機械、碎礦、碾碎機械）、農業用（合成刈取機、懸繫農具）、食品工業用（冷藏機械類、製糖機械類、牛酪製造機械）、建築用及び製材用（建築用機械、道路用機械、鐵管、蒸汽暖房用具、鐵構類、ロープ類、木材供給準備及び木材加工工業用諸機械）、本地方機械製造工業に要する機械細部及び部品を製造する機械製造業（內燃機關、發條、彈條、フイツチング、小齒車、等）。

西部シベリアに於ける機械製造業の發達は次の諸課題を満足するものでなければならぬ。即ち、諸企業の方業化、系列的製品の生産、準備的作業（鑄造、鍍工、等）を行ふ獨立諸企業に於ける最大限の集中化、細部及び部品（小齒車、調車、ボルト、リベット、鐵構類、發動機、等）の同じく最大限の集中化、最も多量に金屬を消費する機械製造工場を冶金工場に直接的に結びつくるこゝ（これは當に未加工金屬の輸送を短縮するのみならず、機械製造業をして熱き鐵材を使用するこゝを得しめる）、單一の動力根據地、冶金根據地、及び準備作業根據地に依據するこゝの機械製造複合企業——即ち諸企業の複合體の創造がその満たすべき課題である。

機械製造諸工場の分業化は、生産工程をば最大の技術的及び經濟的効率を以て遂行するこゝを得しめ、製品の規

格統一及び標準化を容易ならしむる諸條件を醸成し、個々の企業に對し製品の品分けの手数を最も不可缺的、最小限に達せしむるであらう。機械製造の企業複合——即ち複合體の創造に依り、生産の諸工程は最大の協同動作を發揮せしめられ、また他面、諸企業分業化の最大の効率が擧げられるのである。

第二次五ヶ年計畫年度に於ては、本地方に極めて急激なる機械製造業の伸長が目論まれてゐる。斯業の基本的中心をなすものは、クズネットク及びノヴォシビルスクの機械製造企業綜合であらねばならぬ。そのうち前者は主として金屬消費量大なる企業を包含し、後者は中機械製造企業及び一部分精密機械製造企業を包含するものである。

この兩企業綜合體間に見らるる差違は、次のことにより明瞭に看取せらるるであらう。すなはち一九三七年にはノヴォシビルスク機械製造企業綜合體は、十二の企業を合同して、八六〇、〇〇〇噸の金屬を需要し、而して十二億留の製品を生産する筈であり、一方クズネットク企業綜合體は、同じく十二企業を併せて、一、四八〇、〇〇〇噸の金屬を需要し、その生産高は僅かに六億留に過ぎぬ筈である。

第二次五ヶ年計畫年度内に建設を目論まれをる諸企業のうち、最も大なるものとしては次の諸企業を擧げることが出来る。ノヴォシビルスクに於ては、現に建設中の合成刈取機工場、同じく建設中の鑛山機械工場、及び一九三二年に建設に着手せらるる造船所のほかに、内燃機關工場、工具製作工場がある。クズネットク地方に於ては、一九三二年に建設を開始せらるる蒸汽機關車製造工場のほかに、車輛製作工場、電氣機關車製造工場、化學器具製作工場、製鐵造工場がある。ハカシヤ州には水力タービン工場があり、またオムスクには冷蔵庫機及び公衆榮

養用機械の各工場及び、國營農業機械シンチケートに屬する諸工場の大擴張がある。トムスクには木材供給準備用諸機械、木工機械、傳導装置を製作する諸工場があり、バラビンスクには牛酪を製作する工場がある。

『凡ゆる建設に對して格別の意義を有する木材工業に於ては、その當然の發展テムボ及び機械化の實施を保障すべきこと』(第十七回黨會議の決議より)。

木材經濟探險隊の手になる資料に依れば、本地方地域内に於ける木材の年成長量は、概略四〇、〇〇〇、〇〇〇乃至五〇、〇〇〇、〇〇〇立方米に算定せられてゐる。こはいへ木材資源の開發は、森林の大部分が人口稀薄にして近寄り難き地方に位置しをるため、頗る困難なる状態にある。即ち成熟せる種類の全蓄積量中の四三%は、北部の木材經濟的諸地——オビ・ナルイムスク地方、イルト、イシ河沿岸密林地方及びチュルイムスク地方——の占むる所であり、またその一一%はアルタイ山嶽地方の占むる所である。

新たに獲得せられた山林の開發を強化し、且つそれら獲得せられた山林の爾後の開發を強化すべき諸種の條件を醸成することが、要求せられるであらう。近き數年の見透しに於て、北部地方及び南部山嶽地方の山林の獲得工作は進展するであらうが、これは特別の運輸事業の建設を要求するものである。木材の極めて非合理的なる利用を招來する所の、林業に於ける一面性をば清算しなければならぬ。伐採せられた山林全部の綜合的統一的利用法が是非とも確立せられなければならない。而して最後に、山林作業の機械化の問題が實踐的に完全に解決せられなければならない、且つ電力は廣汎に利用せられなければならない。山林中に於ける搬出より水路又は鐵道による輸送に至

るまで、また輸送の凡ゆる段階に於ける積込み積卸し作業をも含めて、木材の運輸に留意せられなければならない。木材供給準備に於て大いに使用せらるべきものに、枕木切出機、機械斧、モーター鋸があり、搬出に際して使用せらるべきものには、木材用諸機械、トラクター及び發動機船がある。電力を使用し得る作業は、伐採、玉切、搬出、積込、筏組、仕譯、及び流送である。

木材供給準備に於て各地方の占むる比重は著しき變動を來すであらう。木材供給準備が特に發達すべき地方はエニセイ上流（ハカシヤ）地方、オビ・ナルイム流域地方及びチュルイムスク地方である。木材供給準備の地理は、今後一層、森林資源の地理に一致するであらう。それはさうにしても、木材の需要地に近接せる諸地方に於ける木材供給準備のテムボも亦、決して弱められてはならぬものである。

木材加工諸企業の新建設のプログラムは、次の二點を本として編まるものである。第一、それら諸企業をば、原料根據地に直接近接せる地點に配置すること。第二、木材の合理的且つ完全なる利用の原則、而してこのためには、木材加工、木材化學、抄紙・セルローズの諸綜合企業を複合體的に建設するの必要がある。先づ第一次的には木材工業の強大なる諸企業が、オビ・ナルイム地方、中部チュルイムスク地方、及びハカシヤ地方の如き木材經濟諸地方に創設せらるべきである。而してこれら綜合企業は、單一の動力的根源の上に立つて、本材の最も完全なる利用、殘廢物及び半製品の各企業相互間に於ける相互利用を旨として建設せられるであらう。諸綜合企業を木材供給準備地方の近くに配置することは、木材供給準備の際に生ずる殘廢物の利用を保障し、且つまた主要なる動力工業

綜合諸企業より遠く隔たれる諸地方に、木材供給準備の機械化に缺くべからざる動力根源（工場附屬發電所）を興へることになるであらう。而して本地方に於ては全く新らしき木材加工工業の諸部門——家具製造、木管製造、建築用細材製造、藏穀槽の製造——が廣汎なる發達を見るであらう。また標準型家屋の製造が著しく擴大せられるであらう。本地方の第二次五ヶ年計畫の豫備資料に依れば、木材供給準備の規模は四〇、〇〇〇、〇〇〇立方メートル乃至五〇、〇〇〇、〇〇〇立方メートル目論まれ、製材諸企業に於ては、現在有する古き又は摩滅せる弦掛鋸を新しき快速のものに取換へた上に、なほ一〇〇臺方の擴張が目論まれてゐる。

紙及びセルローズの需要が急激に大増加を示しつつある時に當り、蝦夷松及蝦松植林の膨大なる山林塊（その年成長量は六、五〇〇、〇〇〇乃至七、五〇〇、〇〇〇立方メートル算定される）を擁する西部シベリアは、ソ聯邦セルローズ・抄紙工業の發達に於いて顯著なる地位を占むべき筈である。本地方人口を一千萬人とし、紙及び厚紙の一人當り年需要量を二〇噸とすれば、第二次五ヶ年計畫年度終度終期の見透しに於ける本地方の需要量は二〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸と算定される。かかる量の製紙は九〇〇、〇〇〇立方メートルの製紙材を要するのであるが、それは固より蝦夷松及び蝦松の年成長量に遠く及ばざるものである。ハカシヤ銅製煉工場は、その許に牽きつけらるる諸抄紙工場に黄鐵礦の供給を保障して、尙綽々たる餘力を示すであらう。バルナウル及びハカシヤ所在の鹽素工場は鹽化石灰を供給するであらう。バルナウル化學綜合工場は製紙業に苛性曹達の供給を保障するであらうし、木材化學綜合諸企業の複合全體中に包含せらるべき精製樹脂分離工場は、樹脂を供給するであらう。硫酸はケメロヴォ及

びハカシヤより供給を受けることが出来る。陶土は本地方内の多數の鑛床中に發見せられてゐる。して見れば本地方は、抄紙・セルローズ生産の總ての組成分子を保障せられてゐる譯である。なほ其上に、本地方は斯業が大量に需要する所の電力を安價に供給することも出来る。抄紙・セルローズ工業諸企業の配置は、その基本的原料たる木質への近接をいふ方針に依らねばならない。何となれば木質は、所要の原料全體のうち重量にして八〇%以上を占むるからである。製紙業を配置するため最も好地點を看做さるる地方は、ハカシヤ、オビ・ナルム地方、中部チュルムスク地方であつて、且つこれら地點の悉くに於て、抄紙・セルローズ工業は木材加工工業及び木材化學工業と統合せらるることを得るのである。

第十七回黨會議によつて、『輕工業及び食品工業に於ては、大規模の機械工業の創造及び農業用原料根據地の著大なる擴大を基として、その最も重要な部門の生産の進展に百方力を盡し、且つ新しき諸地方すなはち農業、原料の生産等に於ける輕・食品工業の發達を強化することの必要に基いて、一人當りの需要量の規準を三倍にすることを保障すべきである』(傍點筆者)といふ課題が設定せられた。而して西部シベリアは、強大なる小麥生産地方であり、牛乳・牛酪生産の基本的根據地であり、且つまた工業作物(亞麻、大麻、向日葵、甜菜)の最大の根據地である以上は、この課題の解決に於て大なる役割を演じなければならぬ。

第二次五ヶ年計畫の豫備資料は、一九三七年に本地方より境界外へ移出せらるる小麥の量を四五、〇〇〇、〇〇〇ツェントネルを目論んでゐる。本地方の農業に於いて畜産の方面が鞏固化せらるる現状に鑑みるべきは、特にこ

の穀物の全量を穀粒として移出することは明かに非合目的である。その大なる部分は、本地方に於て製粉に加工せられなければならない。本地方都市人口に供給するための地方内の穀粉年需要量は、第二次五ヶ年の終期に於て五百萬乃至六百萬ツェントネルと算定せられ得る。現存の商品製粉所網の力を以てしては六百萬乃至六百五十萬ツェントネル以上を製粉することは不可能である。第二次五ヶ年計畫年度内に、その總生産能力二千萬乃至二千二百萬ツェントネルに及ぶ總計二五乃至三〇の大製粉綜合工場が建設せられねばならず、その建設地は主として、鐵道路線による穀粒の流れに沿ふ地點及び穀粒生産地方に比較的近接せることへの需要中心地たるべきである。然るべきは都市人口のパン需要を満たすべき穀粒全部の製粉を保障するにこそ、本地方外で移出せらるる穀粒の三五乃至四〇%の製粉が保障せらるるであらう。搗碾量の比率が斯かる數字に達する時は、本地方の畜産業に四〇〇、〇〇〇乃至五〇〇、〇〇〇噸の麩を供給し得ることになり、それだけ運輸に對する荷重の必要は輕減せらるるであらう。多數の製粉企業にはまた、マカロニ工場が附屬建設せられなければならない。碾割麥工業も著大なる伸長を遂げなければならぬ。現存の諸企業の力を以てしては一人一年當り四・五噸の碾割麥消費量を保障するに過ぎないが、一九三七年に對する配給人民委員部の概算的規準に依れば、一人當り碾割麥の年需は一三噸となつてゐるのである。近き數年内に多數の新しき碾割麥企業の建設を見なければならぬ。

製粉綜合工場、碾割麥企業、牛酪製造企業及びその他の食料嗜好品工業に屬する諸企業の殘廢物は、所謂「綜合飼料」の製造に充てられなければならない。一九三一年に對する綜合飼料諸企業の生産量は概略百萬噸と算定せら



れ、以て著しく綜合飼料諸企業の所在諸地方を、遠路輸送の飼料より解放するものである。

一九三七年には、都市の需要及び本地方外への移出のために屠殺せらるる家畜は三百八十萬頭乃至四百萬頭（牛類に換算して）に達するであらう。一九三二年に於ける生肉綜合企業の生産能力は、僅かに六一〇、〇〇〇頭に過ぎない。従つてこの五ヶ年内に多數の大規模の生肉綜合工場を建設する必要がある。而してこれら綜合工場は、全製品の完全なる利用を保障すべき諸専門工場（ユ）の全複合體を包含しなければならぬ。なほその上に、製品の遠路輸送を圖るため、ベーコン及び肉罐詰の生産も亦發達しなければならぬ。

牛乳工業の部門にあつては、畜群が大規模の社會主義的企業に集中せらるるに伴つて、同じく悉くの殘廢物の完全なる利用の目論見の上に立脚せる牛乳加工綜合企業の創設が、大なる意義を有するに至る。これら諸綜合企業は牛酪、干乾性チーズ、乳製酸味製品、酪素（カゼイン）を製造するものである。本地方の山地地方には、榮養價百%のチーズの製造工場が發達を見るであらう。現存の牛酪諸工場は、先づその製品の所要品質を保障せざる憾みがあるが、これは近き數年内に新しき機械化せられたる牛酪工場によつて取つて代られるであらう。

生産量大なる牛乳經濟にあつては、主としへ地方外への移出に充てらるる罐詰コンデンスミルクの生産も興されなければならぬ。牛乳工業の發達過程を通じて、次の二つの基本的目標が反映せられなければならない。即ちその一は原料としての牛乳總量の最大限の利用であり、他は牛乳工業の製品に最大の輸送簡便性を賦與することである。この二つの目標は、西部シベリアがその製品の著大なる部分を地方外への移出に向ける所の、主要なる牛乳・

牛酪生産地方として擔ふ役割よりして發生するものである。

第二次五ヶ年計畫のための豫備資料に依れば、本地方に於ける皮革原料の商品としての出來高は、この種の原料の近接畜産諸地方よりの搬出高を併せて、牛皮百五十萬枚、羊皮四百萬枚を算定せられてゐる。この出皮量より出發し、且つ本地方に於けるゴム製靴底の生産發達を見越して、豫備計畫は一九三七年に對し、千九百五十萬足の靴の製造及び牛皮革の加工を目論んでゐる。裁屑、皮内側の肉等、皮革生産の殘廢物の利用も、保障することが必要である。

深毛羊及び交配羊の現在の頭数を二倍にする時は、羊毛の商品的生産高は一二、〇〇〇乃至一五、〇〇〇吨に達するであらう。これを洗滌毛に換算すれば、七、〇〇〇乃至九、〇〇〇吨となる。また羊毛の或る數量は、この傾向は現に看取せられる所であるが、他諸州の隣接せる諸地區より西部シベリアに流入するであらう。斯かる條件下にあることは、而も羅紗の可能生産量（二千五百萬米まで）は、西部シベリア自身及び本地方に羊毛を搬入し來る諸地區の需要を満たすには足りないのである。羅紗の品種は近き數年内に、原料の品質に應じて、粗種と半粗種とに制限せられるであらう。羅紗工業の諸企業の配置は、原料根據地への接近といふ課題に従はなければならない。従つて有望なる地點はハカシヤ州、オイロチヤ州及びオムスクである。同じ原料、即ち羊毛によつて、フェルト長靴生産も發達せしめられなければならない。その生産量は第二次五ヶ年計畫年度の終期に於て、概略四百萬乃至四百五十萬足を算定せられてゐる。フェルト長靴製造工場の配置も、羅紗工業の配置と同様の原則に従はなければならない。

らない。

全聯邦榮養研究所は、一九三七年には魚類の需要量を一人當り二七斤に達せしむべく目論んでゐるが、これは一九三一年に比し魚類需要量を四倍に増大せしむるものである。この規準を以てすれば、西部シベリアは第二次五年計畫年度の終期に於て、二百五十萬乃至二百七十萬ツェントネルに達する魚類を需要するこゝになる。一九三二年の計畫に依れば本地方の諸養魚池の全生産量は、僅かに五十萬ツェントネルである。この生産量は、魚類養殖、就中鮭屬及び紅魚類の養殖、現地の無價値なる魚類（特に湖沼の養魚池に於ける）を、より價値高き魚類に代換するこゝに、改良に基く湖沼經濟の合理化、新らしき養魚池の獲得等の施設に依つて著増せしむるこゝを得る筈である。魚類經濟の生産の商品出來高は、亦その第一次の加工の組織改善及び魚類製品に輸送簡便性を賦與するこゝによつて、向上せしめなければならぬ。第二次五年計畫のための豫備資料は、一九三七年に對し、九二〇、〇〇〇ツェントネルの魚獲量を目論んでゐる。

工業作物の播種面積の増大及びその收穫高の向上、また工業作物及び特殊農作物の新種類の定著は、食料嗜好品工業のうち搾油業、製糖、製菓、火酒醸造、澱粉糖蜜製造、煙草製造の諸部門のための基礎を擴大するものである。向日葵種子、亞麻及び大麻の商品的出來高は一九三七年に對し概略三百萬ツェントネルに算定せられ、以て搾油業の強大なる發達を保障するものである。その他なほ、無盡藏なる紅松林の獲得、その開發の新形態——即ち紅松の綜合的利用を保障する開發形態たる紅松國營林の創始は、紅松實の搾油工業の發達の根柢を成すものである。

中部黒土地方より西部シベリアへ砂糖を搬入するこゝには、運輸業に荷重を與ふるこゝにも一應當りの値段を四八留方騰貴せしめる。アルタイ諸地方の他に、甜菜栽培の可能地方としては、就中ウイバート河漕漑系に基くハカシヤ州南部諸地方及びミヌシンスク地方がある。製糖業は本地方に於て大いに發達すべきものである。その發達に従つて製菓工業も創始せらるべきであつて、その企業の配置地點は主として、製粉綜合企業を有するこゝの最も需要大なる地點たるべきである。

馬鈴薯及び穀類の播種地の増大、製糖業の發達、塗料、染料工業、合成彈性ゴム工業、人造纖維工業に於ける需要の増大——これら諸要素は、本地方に於ける火酒醸造工業の發達の意義を決定するものであり、その企業の配置地點は酒精を需要する諸企業に近接すべきである。

纖維工業、製紙工紙、製菓工場、生肉工業等諸工業部門の發達は、澱粉、糖蜜生産への要求を生むものであり、その生産は馬鈴薯原料根據地によつて完全に保障せられてゐる。

最後に煙草栽培の可能性は如何いふに、本地方に於ける高級種の煙草栽培に關する多年の積極的經驗は、煙草工業の發達の條件を形作つてゐる。

亞麻及び大麻の播種面積は昨年の播種に比し二倍に成り、亞麻織物工業は加工用として棉了亞麻一〇〇、〇〇〇噸以上の供給を受ける筈である。カザクスタン及びその他隣接諸地方にあつては、亞麻及び大麻の栽培は著大なる

擴張をなすこと不可能である。故に西部シベリアはこれら諸地方に、自家の亞麻大麻生産を供給せねばならぬであらう。このやうな条件下に於て、西部シベリアの亞麻布生産量は五〇、〇〇〇、〇〇〇米に達せねばならず、また防水布及び二子織布の生産量は、七五、〇〇〇、〇〇〇米に達せねばならぬのである。西部シベリア自身及びその供給を受ける諸地方の麻袋の需要量は、三四年後には五千乃至五千五百萬袋を算するに至るであらう。而してこの量の麻袋造に要する亞麻は、八〇、〇〇〇乃至八五、〇〇〇噸に上るべきである。また上記諸地方の需要に應ずるための大麻工業の發達は、三〇、〇〇〇噸の大麻纖維を需要する筈である。亞麻大麻工業の諸企業の配置も亦原料産地への接近の原則に従ふべきものであるが、且つその際の條件としては、亞麻及び大麻の播種地は數多の地に跨つて廣がるべきこと及び亞麻工業に於ては原料の重量係数が一に近く、従つて最も大規模の諸企業は、原料根據地に近き運輸集合地點を選んで建設すべきものなることを忘れてはならぬ。

西部シベリアを中央アジアの諸共和國に結合するトルケスタン・シベリア鐵道の開通の結果、シベリアは綿織物工業が、安價なる燃料及び電力を基とし、現地に生産せらるる染料その他の化學製品（醋酸、人造纖維、等）を用いて、發達することが極めて有望になつてゐる。西部シベリアは綿織物の一大生産地方となり、その製品は皆に本地方自身の需要を満たすのみならず、綿原料生産地に比較的速く、且つ綿業の發達に資する諸好條件の結合を有せざる隣接諸地方の需要にも應ずるであらう。綿織物の製品種は、各地の生活的及び風土的條件に應じて、被服織物、雑色織物、綾織綿布、粗紡綿布、金巾、綿襦子ヌンポを含まなければならぬ。この産業部門の企業建設地點としては、原料生産地へ近接せる本地方内の地點でなければならぬと同時に、水、燃料、安價なる電力及び需要各地との連絡が保障せらるべきであり、且つ労働資源の合理的利用が保障さるゝ地點でなければならない。第二次五ヶ年計畫のための豫備資料によれば、一九三七年に於ける綿織物の總生産高は五八〇、〇〇〇、〇〇〇米と目論まれてゐる。

莫大小製品の著大なる需要に頼み、移入綿をば天然羊毛人造羊毛及び人造絹糸と交織することは、本地方に於ける莫大小工業發達の前提をなすものである。

織維工業の全體は、裁縫工業の發達によつて完成せられるものである。裁縫工業は本地方に於て製出せらるゝ織布の全量中七〇乃至八〇%を加工すべきものであり、その諸企業の配置地點としては、その各々の極度の分業化に應じて、當該半製品の生産との結合を考慮する一方、需要地への近接をも忘れてはならない。

既に一九三二年に於て、本地方建築材料生産の清算の結果は、煉瓦、挽材及びセメントに就いて赤字を示してゐる。この煉瓦及び挽材に於ける赤字の著しき原因をなすものは、現地の原料資源の利用が全く不充分であること、及び新らしき建築材料——代用品の使用の確立が薄弱なることである。就中、中空煉瓦を以て完全焼煉瓦に代換するこゝに、小型煉瓦の使用より大型切石使用への移行、地元産原料より製出せられたる各種遮熱板の建築に於ける使用の定著、安價なる新接合劑（礬土、石・石灰質及び火山灰質セメント、殘廢物の利用、クルンヂンスコエ湖の鹽類をセメント製造に利用すること）の探索及び製造、陶管及び木管の製造、新屋根葺材料（就中、シベリア落葉

松及びシベリア松の利用)の導入、第二義的建造物に藁織維及び蘆織維、また諸生産の残廢物を利用すること——以上列舉せる方策に依れば、建築材料に於ける本地方の赤字を除くことが可能であらう。建築材料工業の發達に於て本地方の有する可能性が如何に大であるかは、工業的價値ある種々の建築材料の既知量の六〇%以上を本地方が有するといふ一事を以ても知られるであらう。然しながら現在のところでは、これら層脈中採掘せられざるものは三分の一に満たない。

大工業の全部門の發達に相並んで、近き數年内に、『小手工業の完全なる組合的包括を基として、産業組合による大衆的需要物資の生産を大いに強化し、社會主義的工業及び農業に奉仕する業務及び生産の進展を著しく強化』(第十七回黨會議の決議)するこゝが是非も必要である。靴の修繕、家庭用品の製造及び修理、洗濯業、大衆的需要ある或る種の物品の製造、廢物利用品及び殘廢物の加工などの他に、本地方の條件下に於て特殊の意義を有すべきものに、狩獵・毛皮獸織業、漁撈業、漿果、葦栽培業、地元諸燃料の手工業的採掘、建築材料の製造及び木工業(桶屋業、指物業その他の生産業)がある。就中産業組合の發達が有望なるは、オイロチャ州及び北部諸地區であつて、これら諸地方にあつては産業組合は、大工業の新諸部門の發達の下拵へ、大工業に必要缺くべからざる要員の養成に於て、著大なる役割を演ずるであらう。また幾多の手工業的生産業をば大工業的諸企業に協同せしめ、個々の手工業的企業をして大工業及び農業に分業的に奉仕せしむるこゝは、全く可能なこゝに屬する。手工業産業組合の生産能力の伸長に於いて決定的意義を有すべきものは、その所屬諸企業の機械化及び分業化である。

## 四

「……労働の生産能力、結局に於ては之が、新しき社會機構の勝利のための最も重大にして且つ最も主要なる要因である。社會主義が新しき、而して遙かに高き労働の生産能力を創造するであらうこゝに依つて、資本主義は敗北せしられ得べく、また完全に敗北せしめられるであらう。」斯くレーニンは、社會主義革命の基本的課題を方式化してゐる。

ソ聯邦全體についても、その個々の地方の内部に於ても、吾人は生産力を巧みに配分配置して、以て社會主義的諸關係の廣大せられたる再製の最大テムボを確保せねばならず、また以て社會労働の最も高き生産力の諸條件を醸成しなければならぬのである。

吾人はこれに依り、『原料地への近接の見地より、また原料加工よりそれに續く半製品仕上げの段階を経て製品を得るに至るまでを通じての労働損失を最小限にこゝむるこゝの可能の見地より』(レーニン)、工業を合理的に配分配置しなければならない。

この課題を解決する途は、多數の大規模なる地方的動力工業企業綜合體の創設にあり、而してそれら諸綜合體の根幹をなすものは、社會主義の動力原たるこゝろの強大なる電化である。その基礎の上に立つてこそ、原料の最大限的且つ全面的加工は組織せられるのであり、工業諸企業の當該複合體コンプレックスの生産より生ずる凡ゆる殘廢物の完全利用

のための諸條件が形成せられるのである。

西部シベリア地方の動力資源は、もしそれが合理的に利用せらるるに於ては、安價なる電力を生産すべき強大なる根據地の創設を、全く保障するに足るものである。

既に第二次五ヶ年計畫年度の終期には、總量一千五百萬瓩に上る瀝青炭及び腐泥炭が、液體燃料に加工變成せられるであらう。

半コークスの完全利用のための條件の醸成を目標とする半コークス化は、産業の地方分權化を要求する。

石炭の乾溜は、殘廢物として半コークスを與へる。半コークスは極めて安價なる燃料として、強力なる地方發電兼熱源供給所を養ふであらう。この條件下にあるとき、發電所發電室内の導線上に於ける電力の原價は、一KWH當り一哥乃至一・六哥であるであらう。

故に、本地方に於いては、地區工業企業複合體の動力源の根柢には、發電所と半コークス化工場との間の接続が置かれるであらう。

原料根據地、運輸的聯絡及び本地方内及び本地方外の諸地區間の勞働力の配分——以上諸要素に應じて、次の如き主要なる地區工業複合體の創設が目論まれる。

一。ケメロヴォ複合企業。本地區に於ける建設事業は、既に第一次五ヶ年計畫年度に於て西部シベリアが、大規模の動力・化學綜合體の建設に於て巨大なる事業を成し遂げたことの、明らかなる證左をなすものである。

本地區は一九三二年には、五ヶ年計畫年度初頭にあつては三四〇、〇〇〇瓩なりしに對し、六三〇、〇〇〇瓩の石炭を出す。ケメロヴォに既に建設せられ、或ひは目下建設中なる諸企業は、次の如くである。——壯大なる地方發電兼熱源供給所、コークス・ベンゾール綜合工場、亞鉛電解綜合工場、窒肥・腐肥綜合工場、人絹綜合工場及びその他多數の石炭化學及び基礎化學の諸企業。

この複合體建を總體的に完成し、以て加工せらるる原料を完全に利用し、また本綜合企業の電力能力の完全利用を圖るべき課題が、全面的に設定せられてゐるのである。

ケメロヴォ地區の採炭量は、第二次五ヶ年計畫年度の終期には、八百萬瓩に達する筈である。

ケメロヴォ發電兼熱源供給所の規定出力は、六二〇、〇〇〇KWに達せしむることが出来る。同發電所の燃料は全部、選炭、コークス化、石炭乾溜の殘廢物、及び廢汽たるコークス瓦斯を以て充てられるであらう。半コークス化作業の結果、二三〇、〇〇〇瓩の石油製品が得られるであらう。

コークス瓦斯の利用を基として、窒素肥料工業の發達を見、一二〇、〇〇〇瓩の合成アムモニヤ、一五〇、〇〇〇瓩のアムモニヤ硝石(ammonite)及び硫酸その他を得ることが出来る。肥料用腐肥を得るため必要缺くべからざる硫酸の全量は、亞鉛・鉛・硫酸電解綜合工場の生産を以て満たすことが出来る。即ち全ケメロヴォ企業複合體の一部をなす同綜合工場は、亞鉛一〇〇、〇〇〇瓩、鉛一八、〇〇〇瓩、及び硫酸二〇〇、〇〇〇瓩を産出するのである。

硝酸、硫酸、及びコークス・ベンゾール製品に恵まれざることは、ケメロヴォに於て三〇、〇〇〇噸の合成染料の生産を組織することに對し、極めて好條件をなすものである。而してこの染料の意義たるや、西部シベリアが東方に於ける綿業の中心地となるに伴ひ、特に重大なものである。同一の根據よりして、一〇、〇〇〇噸に達する生産能力を有する香料・藥劑生産業の建設が條件づけられるものである。

コークス・ベンゾール諸製品、硫酸、硝酸、強力なる發電兼熱源供給所——以上の諸要素を基として、二五、〇〇〇噸の人造纖維、及び五、〇〇〇噸のセルロースの生産企業を建設することが出来る。諸種の油、エーテル、テレピン油の殘廢物は、一〇、〇〇〇噸のワニス・塗料製造の生産に利用せられ、以て西部シベリアの機械製造業及び建設事業の需要に充てられるであらう。

最近の見透しに於てケメロヴォ複合企業の中に建設を目前されてゐるものは、次の如くである。——三つの新しきコークス化學綜合工場、半コークス・石油蒸溜工場、窒肥・腐肥綜合工場、亞鉛・硫酸綜合工場、ワニス・塗料綜合工場、アニリン染料綜合工場、セルロイド綜合工場、及び人造纖維綜合工場。

ケメロヴォの工業的伸長に伴ひ、同地區内に多數の食品工業諸部門、及び建築材料生産の發達が要望せられてゐる。

二。クス、netz、ク、複合企業。ケメロヴォに於けると同様に、第一次五ヶ年計畫年度内に、クスnetz地區では動力工業複合企業の創設に着手した。

クスnetzに於ては、第一冶金工場、出力一〇〇、〇〇〇KWの發電所、コークス・ベンゾール綜合工場が建設され、またその他に蒸汽機關車製造工場の裝備に着手した。

本地方の石炭及び鐵礦資源を基として、この地區には再製鐵一、二〇〇、〇〇〇噸、鑄鐵三五〇、〇〇〇噸の生産能力ある第二冶金工場が創設せられなければならない。また本地區では高級合金の問題も解決せらるべきである。

機械製造業のうち最も金屬消費量大なる諸部門は、二つのクスnetz冶金工場地方に集中せられる。斯くするときは、金屬を機械製造諸工場に輸送し、また出來上れる機械を需要者に送達する手数が、最少限に縮減せられるであらう（クスnetz炭田地方自身が諸機械需要地方の最たるものになる筈である）。

金屬消費量の大なる諸工場をば冶金諸工場の直接的近距離内に建設することは、機械製造業をして、それら諸地方の中央鑄鐵爐乃至鑄鐵所の出す熱き鐵を利用することを得しむものである。

機械製造業と冶金業との結合、及び相互に密接なる關係にある機械製造諸工場を一の複合體に統合することは、ソヴェート機械製造業の基本的諸原則たる分業化及び協力の實現を保障し、就中その準備的諸工作（鐵の鑄造、鋼の鑄造、有色金屬の鑄造、鍛工）を中央諸準備工場に配分すること可能ならしめるものである。クスnetzの現存輸送路線、及び計畫せられる路線（クスnetz炭田地方北部の第二の出口たるクスnetz—ミスシンスク、クスnetz—バルナウル間）は、出來上る諸機械の需要者への送達を完全に保障するであらう。

本複合企業にはまた、相互に結合せられ且多量の金屬を消費する運輸機械製造の諸工場が建設せられるであらう。

即ち蒸汽機關車製造工場、車輛製作工場、蒸汽機關車・彈條發條工場がそれである。またその多量の製品がクズネツク炭田地方に於て需要せられるところの金屬消費量大なる諸工場——即ち化學工業機械工場、碎鐵・搗碎機工場、及び一般の準備的諸企業——鐵鋼製作、鑄管、製線・製釘、鋼索・ボルト・リベット等の諸綜合工場も建設せられるであらう。獨立の中央諸工場としては、鑄鐵工場、鑄鋼工場、青銅鑄造工場、及び鍛冶工場に分たれる。

諸發電所は、ケメロヴに於けると同じ殘廢物を燃料とするものであるが、その規定出力は七五〇、〇〇〇KWに達せしめるこゝが出来る。

コークス化作業の廢汽ガスを利用するこゝにより、窒素肥料工業の發達を促すこゝが出来る。

本地區内の需要に應ずるため、食品工業及び建築材料製造業が發達しなければならぬ。

クズネツク冶金・機械製造複合企業は、完製品を得るまでの原料の順次加工（石炭、原礦、金屬、機械）に基ける、最も現代型なる綜合企業を現はしてゐる。

三。ノヴ、オシ、ビル、スク、複合企業。ノヴ、シビルスクに既に建設中の機械製造諸工場は、新らしき諸工場のため物質的技術的根據地なるであらう。ノヴ、シビルスク複合體の電源をなすものは規定出力三二〇、〇〇〇KWの發電兼熱源供給所であつて、これは三百萬噸の石炭を液體燃料に變成する。

クズネツク機械製造複合企業が、金屬消費量大なる重工業を専門にするに反し、ノヴ、シビルスク機械製造複合企業は、勞動力消費量大なる中機械製造及び一部分精密機械製作を専門にする。

この分業化は諸工場相互間の協同の原則の實現を保障するものである。

中央準備諸工場としては、鑛山機械工場の鑄造専門工場及び鍛工専門工場に分たれ、それら専門工場の生産能力は、本複合體内の機械製造業の需要を満たすに足る。建設を目前論をなすをフィッチング工場及び小齒車・減速裝置工場は、各々獨立の準備企業として分たれる筈である。ポンプ・壓搾機工場、鑄孔機工場等、直接鑛山機械工場に協同する諸工場、また合成刈取機工場及び造船所に直接協同すべき内燃機關製造工場、また相互に連絡せる建築・道路用機械工場及び西部シベリア中央工具製作工場も建築を目前論されてゐる。

その一方ノヴ、シビルスクは、同地區最大の都市にして、大需要地なるであらう。而して西部シベリアの龐大なる農業地帯の中心に位する同市は、輕工業及び食品工業の幾多部門の發達のための必要なる前提を具へてゐる譯である。ノヴ、シビルスク及びそれを取巻く諸地區（ベルツク等）には、第二次五ヶ年計畫の豫備的目論見に依れば、亞麻織物工場（織布力七五、〇〇〇、〇〇〇米）、莫大小綜合工場（生産額一億留）、裁縫工場（生産額二億五千萬留）、製靴工場（靴九百萬足）、生肉綜合工場（一晝夜一交代としての屠殺量二〇〇〇頭）、牛酪製造工場、人造牛酪工場、酵母工場、綜合飼料工場、ビスケット・菓子製造所等の建設が進展するであらう。

四。バル、ナウル、複合企業。バルナウルは、基礎化學工業（クルンダ地方諸湖の鹽類の加工）を、石炭化學工業（クズネツク炭田の瀝青炭の乾溜）をの複合企業のための好條件を有してゐる。

動力源としては、半コークス化作業の殘廢物を燃料とする強大なる發電兼熱源供給所がある。半コークス化作業

に要する石炭は、トルドゥアルメイスク・バルナウル鐵道によつて送達せられるであらう。半コークス化の製品、主として石油製品は、バルナウル近傍に發達すべき工業作物の農業地帯に於て利用せられるであらう。バルナウルにはまた鐵道に依つて、クルンヂンスク地區内諸湖の鹽類が送達せられるであらう。

クルンヂンスク地區諸湖の硫酸鹽は、バルナウル化學綜合工場に於て加工し、曹達を製出する。それに要するアムモニヤは同工場に於て遷移法<sup>コンヴァレシオン</sup>によつて得られる。曹達製造の「殘廢物」を以て、硫酸の態に於ける窒素肥料が得られるが、もしこれを他の場所で生産しようとするならば、特別に大量の硫酸を必要とするであらう。硫酸をクズネツク・アムモニヤ硝石 (ammon-nitra) に化合せしむるときは、一層濃度高き肥料——レイノ・セリートラ (реино-селитра) が得られるであらう。硫酸の一部分は、ビースク・アルミニウム工場に於て、酸化礬土<sup>アルミナ</sup>のために利用せられるであらう。

この複合企業の次の一環をなすものは、ヤーロヴ・エ湖及びクチュク湖の鹽化マグネシウムを加工して、從來ソ聯邦にて生産せられざる極めて高價なる輕金屬——マグネシウム、及び鹽素を製出することである。鹽素はそれに續く加工段階に於て、鹽化アルミニウム (黑色蠟油<sup>ワックス</sup>の分解蒸溜に用ふる觸媒)、ビースク・アルミニウム工場にて使用される酸化アルミニウム、鹽酸、及び再び逆に鹽素を與へるものである。

運輸條件、地方發電業熱源供給所、水の資源は、バルナウルをして亦本地方綿業の中心地の一たらしめ、従つてまたソ聯邦東部地方の全體に於ても綿業の一中心地たらしめる。一九三二年に着せられたる綿業綜合工場の他に

當地には更に第二綜合工場が目論まれてゐる。綿業に缺くべからざる化學藥品は、現地の化學工業綜合企業に依つてその供給が保障せられてゐる。纖維工業の發達に伴つて、裁縫業及び莫大小生産も發達するであらう。

バルナウルは、その近傍に引き寄せらるる生肉畜産諸地方の中心に位置し、且つ製品の配分に有利なる條件を有する地點であるから、皮革・製靴業の發達にも有望な資格を具へてゐる (即ち、製革工場、靴底革工場、製靴工場)。同一の農産原料を基として、バルナウル及びその近傍には、強大なる食品工業の創設を見るであらう。即ち生肉綜合製糖工場、人造牛酪工場、製菓工場、果實・野菜綜合企業、綜合飼料綜合企業などがそれである。

五、ハカシヤ、(ア、バカン・エニセイスク) 複合企業。本地區は格別に多種多様な天然資源を擁してゐる。既に現在に於ても、百四十億噸の石炭、一億一千万噸の鐵礦、八十二萬五千噸の銅礦、その他鹽化ナトリウム及び硫酸曹達、耐火粘土等の埋藏が知られてゐる。またこの地區には巨大なる森林富源が存在し、エニセイ河は一、二〇〇、〇〇〇KWまでの電力を與へることが出来る。

従つて動力・冶金・化學工業の複合企業が發達すべきである。

同複合企業の動力源は、次の兩發電所より成る。二百萬噸の石炭の液體燃料への乾溜——プロツクを成す出力一三四、〇〇〇KWの火力發電所、及び水力發電所 (その第一次出力三三〇、〇〇〇KW)。エニセイ河水力發電所の異例的に安價なる電力は、當時區内に例へばアルミニウム生産の如き動力消費量大なる生産を組織すること可能ならしめるものである。



當地區の天然資源を総合的に利用するためには、動力、石炭及び石炭化學、窒素化合物、金屬及び機械製造、銅及び基礎化學、アルミニウム、木材及び木材化學、輕工業及び食品工業の、技術・經濟的關係に於て相互に密接に結合せられた綜合諸企業の創設を必要とするのである。

以上五つの主要複合企業の他に、アチンスク、ビースク、北部オイロチヤ地の新しき動力・工業複合企業も亦、伸長を示すであらう。

複合企業の創設は、全工業部門を各地點に聚中することを意味するものではない。

各複合企業の産出する製品は、現代の意味に於ける一都市の廓外に遠く隔たつてをる地域に、配分せられるであらう。多くの重工業の壯大なる諸企業は、上に列擧せる複合企業以外の諸地點（トムスク、オムスク、バラービンスク）に配置せられるであらう。輕工業及び食品工業の大多數は、本地方内の農産原料地に近き全地域に配置せられるのである。斯くすることに依つて、生産力の社會主義的配分配置の諸原則中の一たる工業の均等的配置といふ課題の解決を保障するに同時に、他の一課題たる社會主義的統合の解決をも圖り得る譯である。

## 五

鐵道運輸に依る貨物取扱量の大膨脹は、現存の鐵道網の根本的改變と、鐵道運輸の他經濟諸部門よりの立後れたごりの

清算を要求する。この課題を解決せんには、新路線の建設及び現存路線の根本的改造が必要なるに同時に、先づ何より先に運輸を電化することが必要なのである。

新路線建設は、工業が強大なる發達を遂げつつある地方、鑛山資源の採掘の増大を見つつある地方、森林塊の開發が強化せられつつある地方の運輸に奉仕するため、また農産諸地方が出す大量の穀物貨物の輸送のために必要である。舊路線に依れば莫大なる貨物が迂廻しなければならぬ地方には新路線が必要であつて、而して直線的なる新路線は、貨物の送達路を縮小し、以て餘分の迂廻りを最小限に達せしめるであらう。

鐵道運輸の立後れが國民經濟全部門の發達に對し重大なる阻礙となりをれる地方にあつては、現存路線の改造及び新路線の廣汎なる建設の問題は、特に重要性を帯びて來るのである。

鐵道路線の新建設は、次の諸地方に行はれる。(甲)クズネットワーク炭田の動脈をなす諸路線。(乙)新興の南部工業諸地區の動脈をなす廣汎なる方向を有する路線——所謂南部シベリヤ幹線（ハカシヤ・エニセイ地區、バルナウル綜合企業等）及びそれをクズネットワークを結ぶ路線。(丙)増大する農産物を搬出し、且つ農産地方に農具、燃料、肥料を供給する農業路線。(丁)木材の基本的大量を出すべき未開發森林地方の經濟的獲得を目標とする木材輸送路線。

鐵道路線改造の根幹をなすものは電化である。電化は、現存の蒸氣機關車に倍する強力なる電氣機關車を導入して、以て貨物量大なる諸地域の通貨力を増大するに同時に、特に給水施設をなす必要を解消するものである（これは例へば最も貨物量大なるオムスク・クルガン地方にあつては特に大なる意義を有するものである）。電氣機關車の

導入は、路線の上部機構を、蒸汽機關車を通ずるミミにも重量それに倍する電氣機關車をも通ずるやうに改造した  
 曉に、はじめて可能なるものである。路線に自動開塞装置を設備するときは、運貨量を二倍半に増大せしめるであ  
 らう。それらの諸施設を實施せんがためには、積載量六〇噸に達する特別の捲載力大なる開底式貨車 (Doppelpa-  
 son) に移行するミミが必要である。この種の貨車は列車編成の延長を著しく短かくするミ同時に、直接石炭庫へ  
 自動的に荷卸しをするものである。頗る重大なる意義を有するのは列車編成の系統化であつて、これは車輛の運轉  
 速度を増大するミミにも、分岐點に於ける操作手数を縮減するものである。第二次五ヶ年計畫豫備資料によれば、  
 次の諸區間の電化が目論まれてゐる。(イ)クズネツク炭田の出道たるボルイサエヴォ・クズネツク間、ボルイサエヴォ  
 ・トブキ間、ケメロヴォ・トブキ間、クリヅタ・ノーフカ・ボルイサエヴォ間、ユルガ・トブキ間、ペロヴォ、グリエフ  
 スク間。(ロ)ノヴ・シビルスク・オムスク間。及び(ハ)オムスク・イシリー・タリー間。その他上部機構の改良計  
 畫は二三三一杆の路線に及び、勾配の緩和は五〇三杆、自動開塞装置化は三三二六杆に及び目論まれてゐる。自動  
 聯結装置も廣く採用されようとしてゐる。

輪轉材料も亦根本的に變革されようとしてゐる。大量の強力なる蒸汽機關車、電氣機關車、及び積載量大なる  
 自動積卸式貨車が、採用せられるであらう。これら凡ての輪轉材料が西部シベリアの諸工場に於て建造せられ得る  
 ミいふミが、極めて肝要なる點である。一九三二年には既にクズネツクに蒸汽機關車製造工場の建設が開始せら  
 れ、なほ續いて同地に應大なる車輛製造工場の建設も開始せられ、且つ電氣機關車工場も目論まれてゐる。

現存する東より西に向ふ緯度に沿ふ路線の大なる貨物取扱量、及びその今後益々急テムボに増大すべき傾向(東  
 部シベリアの計數に依れば木材四五、〇〇〇、〇〇〇立方米)は、緯度に沿ふ第二鐵道幹線を建設し、以て現にク  
 ズネツク炭田ミウラル間の貨物の巨大なる流れを消化しつゝある現存の幹線の負擔を、平行路線を以て軽減するこ  
 ミの必要を決定するものである。この課題の解決のほか、計畫中の幹線はなほ、現存の幹線より三〇〇乃至四五  
 〇杆の距離を隔てて本地方南部に新たに發達しつつある多數の大工業中心地——すなはちハカシヤ、クズネツク、  
 パルナウル諸地方を連絡するミいふ、大いなる役割を果たすべきものである。南シベリア鐵道はまた、クズネツ  
 ク炭田地方に對しても大なる意義を有すべきである。何ミなればその二つの中央區間——ミヌシンスク・クズ  
 ネットク、及びトルドアル・メイスカヤ・パルナウル區間は、クズネツク炭田地方の動力・冶金貨物が西方アルタ  
 イ諸地方及び中央アジア諸地方に出る最も重要な出道ミなるべきものたるミ同時に、アバカン地方の鐵礦ミクズネ  
 ツク冶金工場に連結し、且つ東方より來る木材の出口ミなるものであるからである。この二つの區間の他に南シ  
 ベリア鐵道には、タイシエート・ミヌシンスク間(東端區間)及びパルナウル・クルンダ間(西端區間)がある。  
 是等四區間はそれぞれ、南シベリア鐵道の一部としての意義の上に各自独自の國民經濟的意義を有するものであつ  
 て、その延長の合計は約一、五〇〇杆に達し、ソ聯邦の歐洲部分をウラルに、シベリアを極東に、夫々新たな方  
 向に沿つて結ぶ第二の路線の一環たるべきものである。南シベリア鐵道豫定線の各區間の担ふ意義を特徴づける上  
 に是非ミも忘るべからざるは次の諸點である。

タイ、シエト、ミヌシ、ク、區、間。——南シベリア鐵道の東部區間であつて、同鐵道を本線へ導き出す役目をする。この區間の獨立的役割は、既に着工されて居るレンスク鐵道に依つてタイシートに送達される、プリレンスク地區及びアンガラ上流地區の頗る大量の木材貨物を、消化することに存する。この木材貨物の著大なる部分はクズネツク炭田地方に向ひ、また少くもその半分は中央アジアに向けられる。木材の他に、西方（アバカンスクより起算して）へ、有色金屬（銅、アルミニウム）及びアバカンスク製紙綜合工場の製品が輸送せられる。東方への空荷方向には、ミヌシ、ク、小麥、輕工業製品、アバカンスク工場の鐵鋼等が輸送される。

ミヌシ、ク、ク、ス、ネツク、區、間。——本區間の基本的意義は、西部シベリアの二つの最大工業中心地たるハカシヤミクズネツクを結ぶことにある。この路線を西へ動く貨物としては、テイスク鑛床の鐵礦、アバカン銅精練工場の銅、アルミニウム、中央アジア行き窒素肥料、及びクズネツク炭田地方行き或は通過貨物として中央アジア及びカザクスタン行きの、現地の木材及び主として東部シベリアの木材がある。またこの路線を東へ動く貨物には、コークス化用の最良のクズネツク炭、諸機械、その他がある筈である。この地區に於ける鐵道建設の進展は、以てハカシヤ洲の經濟及び文化建設の向上を促進するものでなければならぬ。

ト、ウ、ド、ウ、アル、メイ、カ、ヤ、バル、ナ、ウ、ル、區、間。この區間は、本地方の化學工業及び有色金屬冶金業の發達上大なる役割を演ずべきものである。南シベリア鐵道の最初の二環を経て本區間を通過する凡ゆる貨物の運輸は勿論にして本區間の獨立的意義は、バルナウル動力・化學綜合工場に瀝青炭を供給すること、クズネツク諸工場の鐵

鋼類を本地區の壯大なる建設事業の用に供すること、硫酸ナトリウムより曹達を製出するに必要な石灰岩を供給すること及び本地區に必要なクズネツク地方産のその他多數の工業製品貨物（機械類その他）を、本地區に搬入することに存する。本地區間を東へ動く貨物は、主として化學製品、織布、砂糖など、クズネツク炭田地方及びハカシヤ州の一般必需品である。

バル、ナ、ウ、ル、ク、ル、ン、ダ、區、間。——南シベリア鐵道の本區間は、本地方の最も重要な穀倉（小麥）地方を横斷するに、種々の化學原料を埋藏するクルンチンスク諸湖を結合するものである。これら諸湖を、將來の曹達工業の中心地たるべきバルナウルに結び附くる本地區間は、無水化したる鹽類の大量を東へ送るものである。就中肝要なる事實は、最大の湖たるクチクスコエ湖が、恰も本路線豫定線上に位することである。本路線に依つて横斷せらるる諸地區の穀類は、西方への出道を見出すことにならう。

南シベリア鐵道はなほ本地方境界外に於てオルスク或ひは他の地點へ延長して、急激なる工場化を見つつある地方及びソ聯邦東部全體の生産物のための、第二の出路をなすであらう。

ソ聯邦第二の大炭田であり、また鐵鋼・有色金屬冶金業、機械製造業、化學工業の大中心地たるクズネツク炭田地方の強大なる工業的發達は、同地方をして常にその他の西部シベリア諸地方全般のみならず、ソ聯邦の幾多の他地方に對しても、工業製品を供給する源泉地たらしめるものである。この事實はクズネツク炭田地方の地域外へ、大量の諸種の工業製品を凡ゆる方向に向けて搬出せしむるものであり、それに伴ひ、クズネツク地方内及び同地方

外への出路をなすべき運輸聯絡の問題を、極めて尖鋭化せしむるものである。最も主要なる貨物は従來の始く依然として石炭である。採炭目論見の地理が、鐵道の新計畫路線の方向の決定に著しき支配力を振ふは勿論、クズネツク炭田地方現有の鐵道網の改良の規模及び性質にも大いに影響することには言を俟たない。クズネツク炭田地方の龐大なる採炭量中にて、同炭田地方の縱貫線たるコリチユギンスク線の沿線に位する諸地區（オシノフカ、アラリチェヴォ、キセリ、ヴ、ペロヴォ、その他の諸地區）の占むる比重は七六%に達する筈である。現地的、即ち炭田内の意義を有する石炭は、オシノフカ地區及びアラリチェヴォ地區より出でて、以てその近傍にあるクズネツク企業複合體所屬の冶金諸工場及び機械製造諸工場に供給せられるであらう。クズネツク炭田地方の地域外にあつてコリチユギンスク線によつて縱貫的荷動きを與ふるものとしては、プロコピエフスク及びレニンスクの兩地區がある。ケメロヴォ地區の石炭及びコークスも、この荷動きに加へられる。クズネツク炭田地方内外の貨物取扱量に著しき影響を與ふるその他の貨物としては、通過貨物としての木材及び炭鑛業の開發の必要上移入せらるる木材、二つのクズネツク冶金工場が生産する鐵鋼、高級特殊鋼、クズネツク地方の機械製造工場の出だす諸種の製品、ネルチンスク及びリツデルよりケメロヴォ亞鉛・鉛工場へ送らるる精選鐵、クズネツク炭田地方の出だす有色金屬、化學藥品及び肥料、幹線外の路線を輸送せらるる鐵礦（タシエルが鐵床、テイスク鐵床）及びウラルより來たる鐵礦、石灰岩、耐火粘土、鑛物的建築材料、及び最後に一般需要物資（食料品、織布、既製被服、靴等）が數へられる。一九三一年の全聯邦共產黨（ボリシエヴィキ）七月總會の決議に依れば、クズネツク炭田地方は、鐵道網が電化を基

して根本的に改造せらるべき運輸地方の一として擧げられてゐる。

クズネツク炭田地方は既に本年内に、新しき鐵道に依る出路を得るであらう。即ちノヴォシビルスク・レニンスク線がそれである。將來この線は複線となり、然る後に自動開塞装置を施し電化せられるであらう。之は一九三二年に完工せらるべき、クズネツク工場をその石炭根據地に結び、またテリベス・テミール・タウ地區に於ける鐵礦山に結ぶところのクズネツク・ムンドイシ線に就いても同様である。また本年内に、クズネツク炭田地方に幹線への出路を與ふることも東方へ向ふ貨物の迂迴を短縮すべきアンジェルカ・ケメロヴォ線も着工を見るであらう。こは言へ、現有路線の改造にせよ新路線の建設にせよ、クズネツク炭田地方に山積せる運輸問題を解決するものではない。第二次五ヶ年計畫年度に於て、クズネツク炭田地方の新鐵道建設が解決しなければならぬ諸課題は、次の如くである。(イ)短縮出路の創設。(ロ)クズネツク炭田地方ハカシヤ・ミスチンスク地方との結合。及び(ハ)平行路線及び豫備線の系統を創設して、以てクズネツク炭田地方内の凡ゆる重要な荷動き方向に於ける間斷なき鐵道運輸操作を保證すること。

工業・農業兩方面の混合的性質を有する路線中、西部シベリア農業にまつて特に重要性を有すべき路線は、トールドアルメイスカヤ・バルナウル線及びクルンダ・バルナウル線である。主として農業に奉仕すべき路線中にて最も重要なものたるべきは、モスカレンキ・スタリンスク國營農場路線であつて、これは本地方の最も大規模なる國營穀物諸農場が位置せる基本的穀倉地帯の地區を横斷すべきものである（すなはちバヴログラドスク、ボルター